



始



# 石油法規便覽

「其他關係法規」

大阪油脂新聞社發行



特223  
101



石油法規便覽

「其他關係法規」

大阪油脂新聞社發行





## 序

日支事變を契機とするわが國非常時經濟立法は我法制史上劃期的なものであつて之等の法律に關聯して相次いで發布せられる附屬法令は、その内容甚だ主要なるものであつて、經濟の全面的計劃化、武装化に他ならないのであるが、この次ぎぐに發布された非常時立法は實務家は其の條文を探し求めるだけでも多大の手数を要するので、弊社は「石油法規便覽」なる名稱に示す如く石油業者の利便に供する目的を以て、單に石油關係法規並に一般立法中重要なものを摘録し、手頃の一卷となして編纂したものである。

しかしてわが石油業界は非常時の特殊性を端的に表現せる石油共販株式會社および各道府縣を單位とする各地方石油販賣株式會社の設立は時勢の大轉回を如實に物語るものであつて、これらの銘鑑と共にわが日本の現下の姿を寫す好個の便覽である。

一、本書に輯録された諸法令は法律の公布番號順に據らず石油關係法令及び之に關聯する朝鮮、臺灣、樺太、關東州の諸法令順別に配列するを主とし、其の他一般關係重要法令を從的に配列した。



目次

揮發油税法

揮發油税法

大藏省告示第百五號

揮發油税法施行中改正ノ件

朝鮮揮發油稅令

朝鮮揮發油稅令施行規則

揮發油税法ヲ臺灣及樺太ニ施行スルノ件

臺灣揮發油税法施行規則

關東州揮發油稅令

大正八年制令第十一號中改正ノ件

揮發油及アルコール混用法

アルコール專賣法

アルコール專賣法

アルコール專賣法施行規則

人造石油製造事業法

人造石油製造事業法

人造石油製造事業法施行規則

人造石油製造事業法施行令

人造石油製造事業法施行令中改正ノ件

帝國燃料興業株式會社法

帝國燃料興業株式會社法

帝國燃料興業株式會社法施行日期ノ件

帝國燃料興業株式會社法施行日期ノ件

關稅定率法中改正法律

大正九年勅令第五百五十號關稅定率法第七條第四號ノ二

ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油

ニ關スル件廢止ノ件

關稅定率法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦

油ノ件廢止

石油業法

石油業法

石油業法施行令

石油業法施行規則

石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル件

石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル規定ニ依リ石油精

製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ニ關

スル件

石油保有補助金交付規則

石油業法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

石油業法施行規則

石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル件ノ規定ニ依リ石

油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量

ニ關スル件

石油保有補助金交付規則

液体燃料委員會官制

石油資源開發法

- 石油資源開發法
- 石油資源開發法施行規則
- 滿洲油化工業株式會社法
- 滿洲油化工業株式會社法
- 瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則
- 瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則

石油配給統制規則

- 石油配給統制規則
- 朝鮮石油配給統制規則
- 石油公定價格表
- 公定價格決定品目及其規格
- 滿洲國機械油配給統制
- 社團法人全國石油販賣聯合會定款
- 社團法人全國石油販賣聯合會支部會則
- 軍需工業動員法ノ適用ニ關スル法律
- 軍需工業動員法
- 軍需工業動員法ノ適用ニ關スル法律
- 工場事業場管理令
- 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ依ルコトヲ定メタル軍
- 需工業動員法ノ適用ニ關スル件
- 軍需評議會規程
- 軍需工業動員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スル件

關東州ニ於ケル軍需工業動員ニ關スル件

關東州ニ於ケル軍需工業動員ニ關スル件

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律

貿易調節及通商擁護ニ關スル件

貿易及關係產業ノ調整ニ關スル法律

昭和十二年法律第九十二號ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スル

ノ件

南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル

件

臨時輸出入許可規則

臨時輸出入許可規則

暴利取締令

暴利ヲ目的トスル物品ノ賣買ノ取締ニ關スル件改正

昭和十二年商工省令第十號中改正

昭和十二年朝鮮總督府令第六十號(暴利ヲ目的トスル賣

買ノ取締ニ關スル件)改正

昭和十二年朝鮮總督府令第六十號(暴利ヲ目的トスル賣

買ノ取締ニ關スル件)中改正

暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

暴利取締規則

南洋群島暴利取締規則

南洋群島暴利取締規則

重要產業統制法

重要產業ノ統制ニ關スル法律施行ニ關スル件

重要產業ノ統制ニ關スル件

統制委員會官制



統制委員會議事規則

重要産業ノ統制ニ關スル法律第一條第二項ノ規定ニ依ル

産業ノ種類指定

關東州重要産業統制令

關東州重要産業統制令施行規則

### 商業組合法

商業組合法

商業組合法施行規則 商業組合法及同法施行規則施行ニ關

シ取扱方

商業法中主務大臣ノ行フ職務ニ關スル件

### 不正競争防止法

不正競争防止法

朝鮮不正競争防止令

不正競争防止法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

不正競争防止法ヲ樺太ニ施行スルノ件

價格形成委員會官制

## 揮發油稅法

(昭和十二年三月三十日)

法律第六號

第一條 揮發油ニハ本法ニ依リ揮發油稅ヲ課ス但シ石炭、亞炭、油母頁岩又ハ天然瓦斯ヲ原料トシテ製造シタル揮發油ニ付テハ此ノ  
限ニ在ラズ

第二條 本法ニ於テ揮發油トハ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超エザル礦油ヲ謂フ

第三條 揮發油稅ノ稅率ハ一キロリットルニ付十三圓二十錢トス

第四條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ニ申告スベシ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第五條 揮發油ノ販賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場一個所毎ニ政府ニ申告スベシ其ノ販賣業ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第六條 揮發油稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ルトキ引取人ヨリ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅額ニ相當  
ナル擔保ヲ提供シタルトキハ二月内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公費ニ付  
シ稅金及公費ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第七條 政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ル揮發油ニ付テハ前條ノ規定ヲ  
適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ引取人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條 揮發油ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ引取先ニ移入セラレザルモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ災  
害其ノ他ヤムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ揮發油稅ヲ免除ス

第九條 政府ノ承認ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テ製造場ヨリ引取ル揮發油ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅ヲ免除ス  
前項ノ揮發油ニシテ引取後六月内ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ



他ヤムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ揮發油稅ヲ免除ス

第九條 前條第一項ノ揮發油ハ之ヲ本法施行地ニ於テ消費シ又ハ本法施行地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得ズ但シ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ承認ヲ受ケタル揮發油ニ付テハ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス

第十條 政府ハ第七條第一項又ハ第八條第一項ノ揮發油ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ引取人ヲシテ其ノ揮發油稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ付之ヲ準用ス

第十一條 揮發油稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケ製造場ヨリ引取リタル揮發油ヲ同一製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ豫メ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ揮發油稅ノ徵收ヲ爲サズ

第十二條 揮發油ハ第六條第一項但書、第七條第一項、第八條第一項又ハ前條ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前之ヲ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ルコトヲ得ズ

第十三條 揮發油ハ第六條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前之ヲ消費スルコトヲ得ズ

第十四條 第六條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前ニ於テ揮發油ニ礦油以外ノ物ヲ混和シタルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ混和ニ因リ製成シタル物ヲ以テ揮發油ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ政府ノ指定スル物ヲ混和シタルトキハ其ノ混和ニ因リ増量シタル分ニ對スル揮發油稅ヲ免除ス

第十五條 揮發油稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタル揮發油ニハ揮發油以外ノ礦油ヲ混和スルコトヲ得ズ但シ混和ニ依リ露氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超ユル礦油ヲ製成スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ揮發油ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第十七條 收稅官吏ハ揮發油ノ製造者若ハ販賣業者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、製造者又ハ販賣業者ノ所持スル揮發油

二、揮發油ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三、揮發油ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建設物、機械、器具、容器、原料其ノ他ノ物件

第十八條 前二條ノ規定ハ揮發油以外ノ礦油ノ製造者又ハ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ揮發油稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一、政府ニ申告セズシテ第一條但書以外ノ揮發油ヲ製造シタル者

二、第九條第一項ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ消費シ又ハ消費ノ目的ヲ以テ讓渡シタル者

三、第十二條ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ引取リタル者

四、第十三條ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ消費シタル者

五、第十五條ノ規定ニ違反シ揮發油ニ礦油ヲ混和シタル者

六、前各號ノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ揮發油稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者

前項第五號ニ該當スル者ニ付テハ其ノ揮發油稅額ハ混和ニ依リ製成セラル物ノ數量ニ依リ之ヲ計算ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一、第十六條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二、政府ニ申告セズシテ第一條但書ノ揮發油ヲ製造シタル者

三、第十七條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第二十一條 第十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ



第二十二條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣業者ヲ處罰ス

第二十三條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

## 附 則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ揮發油ヲ製造シ又ハ其ノ販賣業ヲ營ム者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタル者ト看做ス

前項ノ揮發油製造者又ハ販賣業者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ十キロツトル以上ノ揮發油ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本法施行ノ日ニ之ヲ製造物ヨリ引取リタルモノト看做シ昭和十二年五月三十一日限其ノ揮發油稅ヲ徵收ス

前項ノ揮發油ニ付テハ其ノ數量及貯藏ノ場所ヲ第二項ノ申告ト同時ニ政府ニ申告スベシ

明治四十四年法律第四十五號第一條中「砂糖消費稅法」及「石油消費稅法」ヲ削リ同法第二條中「石油消費稅法」ヲ「揮發油稅法」ニ

同法第三條中「石油消費稅法」ヲ「揮發油稅法」ニ「石油」ヲ「揮發油」ニ改ム

大正九年法律第五十一號中「鐵物製品」ノ下ニ「揮發油」ヲ加フ

(參照)

明治四十四年三月二十九日公布法律第四十五號(砂糖消費稅鐵物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)抄錄

第一條 砂糖消費稅法、鐵物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ於テ稅關、保稅官署トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條 關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費稅法、鐵物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 砂糖消費稅法、鐵物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、糖蜜、糖水、鐵物、石油又ハ

骨牌ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

大正九年八月七日公布法律第五十一號抄錄

左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ内國稅ヲ免除若ハ拂戻シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得

酒類、麥酒、酒精含有飲料、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、鐵物、鐵物製品、骨牌

## 揮發油稅法施行規則

(昭和十二年三月三十一日 勅令第五十六號)

第一條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ製造場ヲ定メ一年間ノ製造見込數量、住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ニ當該製造場ノ敷地及建設物ノ圖面並ニ揮發油製造方法書ヲ添付シ之ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

揮發油稅法第一條但書ノ揮發油ヲ製造セントスル者ハ其ノ旨ヲ前項ノ申告書ニ併セ記載スベシ

第二條 揮發油ノ製造者製造ニ著手セントスルトキ、一月以上製造ヲ休止セントスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ

第三條 揮發油ノ販賣業ヲ營メントスル者ハ販賣場ヲ定メ其住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ

第四條 前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第一條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ揮發油製造方法書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第五條 揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ承繼シタルトキ



ハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第六條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第七條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者製造場又ハ販賣場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第一條又ハ第三條及前條ノ規定ニ準ズル申告ヲ爲スベシ

第八條 製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ數量ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ揮發油稅法第一條但書ノ揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 揮發油稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

揮發油稅法第七條第三項ノ期間ハ稅務署長之ヲ指定ス

第十條 揮發油稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル揮發油ヲ引取先ニ移入シタルトキハ直ニ前條第一項ノ稅務署ニ其ノ旨ヲ申告スベシ

第十一條 揮發油稅法第八條第一項ノ規定ニ依リ揮發油稅ノ免除ヲ受ケ製造場ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第十二條 前條ノ揮發油ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ引取後六月内ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハザルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一、輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類

二、外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類

第十三條 揮發油稅法第七條第三項但書又ハ同法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第九條第一項又ハ第十一條ノ稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所ガ前項ノ稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第十四條 揮發油稅法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第十一條ノ稅務署ニ申請スベシ

第十五條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一、金錢

二、國債

三、工場財團

四、鑛業財團

第十六條 擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ際クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ工場財團又ハ鑛業財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ囑託スベシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタルト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ價額ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

前二項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署長ハ直ニ揮發油稅ヲ徵收スベシ

第十九條 揮發油稅法第十一條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者製造場ニ揮發油ヲ戻入セントスルトキハ其ノ數量、品質、戻入ノ事由、製造場ヨリ引取リタル日竝ニ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ揮發油ヲ引取ル場合ニ於テハ戻入數量ヨリ戻入後ノ減量ヲ控除シタル數量ニ對スル揮發油稅ヲ徵收セズ 但シ揮發油以外ノ物(揮發油稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル物ヲ除ク)を混和シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ



第二十條 揮發油税法第十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ混和ノ都度豫メ混和ニ供スル揮發油及政府ノ指定スル物ノ數量及品質並ニ混和ノ場所及日時ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十一條 揮發油ノ製造者ハ製造場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル原料ノ種類、數量及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三、製造シタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重及製造ノ日

四、引取ラレタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重、價格及引取ノ日並ニ其ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

揮發油税法第一條但書ノ揮發油ト其ノ他ノ揮發油トヲ同一製造場ニ於テ製造スル場合ニ於テハ前項ノ事項ハ之ヲ區別シテ記載スベシ

第二十二條 揮發油ノ販賣業者ハ販賣場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル揮發油ノ數量、價格及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、販賣シタル揮發油ノ數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十三條 前二項ノ規定ハ揮發油以外ノ礦油ノ製造者又ハ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラル、揮發油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

#### 附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス揮發油税法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條又ハ第三條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ揮發油ヲ製造シ又ハ其ノ販賣業ヲ營ムコトノ事實ヲ併セ記載シ尙製造者ニ在リテハ第一條ノ規定ニ準ジテ作成シタル圖面及製造方法書ヲ添付シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

大藏省告示第五百五號 (昭和十二年五月六日)

揮發油税法第十四條第二項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

一、アルコール(燃料用變性アルコールヲ含ム)

二、ベンゼン

### 揮發油税法施行中改正ノ件

(昭和十五年三月三十一日 勅令第四百四十九號)

揮發油税法施行規則中左ノ通改正ス

第十二條 前條ノ揮發油ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ引取後六月以内ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ但シ所轄稅務署必要アルト認ムルトキハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

#### 附 則

本令ハ昭和十五年法律第三十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年法律第三十九號附則第四項ノ規定ニ依リ申告ハ揮發油ノ所在地所轄稅務署トニ之ヲ爲スベシ

(參照)

昭和十二年三月三十一日公布勅令第五十六號揮發油税法施行規則抄錄

第十一條 揮發油税法第八條第一項ノ規定ニ依リ揮發油稅ノ免除ヲ受ケ製造場ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第十二條 前條ノ揮發油ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ引取後六月内ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ但シ己ムコトヲ得ザル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハザルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一、輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類

二、外國輸出港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類



# 朝鮮揮發油稅令

(昭和十二年三月三十一日 制令第六號)

- 第一條 揮發油ニハ本令ニ依リ揮發油稅ヲ課ス但シ石炭、亞炭、油母頁岩又ハ天然瓦斯ヲ原料トシテ製造シタル揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二條 本令ニ於テ揮發油トハ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超エザル礦油ヲ謂フ
- 第三條 揮發油稅ノ稅率ハ一キロリットルニ付十三圓二十錢トス
- 第四條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ニ申告スベシ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ亦同ジ
- 第五條 揮發油ノ販賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場一個所毎ニ政府ニ申告スベシ其ノ販賣業ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ
- 第六條 揮發油稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ルトキハ引取人ヨリ之ヲ徵收ス但シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得
- 前項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公費ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス
- 第七條 政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ搬入スル目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ル揮發油ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ前項ノ場合ニ於テハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ引取人ヲ以テ製造者ト看做ス
- 第一項ノ揮發油ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ引取先ニ搬入セラザルモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他己ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ揮發油稅ヲ免除ス
- 第八條 政府ノ承認ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ル揮發油ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅ヲ免除ス
- 前項ノ揮發油ニシテ引取後六月内ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ

- 他己ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ揮發油稅ヲ免除ス
- 第九條 前條第一項ノ揮發油ハ之ヲ朝鮮ニ於テ消費シ又ハ朝鮮ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スルコトヲ得ズ但シ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項但書ノ承認ヲ受ケタル揮發油ニ付テハ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス
- 第十條 政府ハ第七條第一項又ハ第八條第一項ノ揮發油ニ付必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ引取人ヲシテ其ノ揮發油稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得
- 第六條第二項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ付之ヲ準用ス
- 第十一條 揮發油稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケ製造場ヨリ引取リタル揮發油ヲ同 製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ豫メ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ揮發油稅ノ徵收ヲ爲サズ
- 第十二條 揮發油ハ第六條第一項但書、第七條第一項、第八條第一項又ハ前條ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前之ヲ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ルコトヲ得ズ
- 第十三條 揮發油ハ第六條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前之ヲ消費スルコトヲ得ズ
- 第十四條 第六條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前ニ於テ揮發油ニ礦油以外ノ物ヲ混和シタルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ混和ニ因リ製成シタル物ヲ以テ揮發油ト看做ス
- 前項ノ場合ニ於テ政府ノ指定スルモノヲ混和シタル時ハ其ノ混和ニ依リ増量シタル分ニ對スル揮發油稅ヲ免除ス
- 第十五條 揮發油稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタル揮發油ニハ揮發油以外ノ礦油ヲ混和スルコトヲ得ズ但シ混和ニ因リ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超ユル礦油ヲ製造スルハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十六條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ揮發油ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ揮發油製造者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ揮發油ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ
- 第十七條 稅務官吏ハ揮發油ノ製造者若ハ販賣業者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上心要ノ處分ヲ爲



スコトヲ得

- 一 製造者又ハ販賣業者ノ所持スル揮發油
  - 二 揮發油ノ製造、貯蔵又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類
  - 三 揮發油ノ製造貯蔵又ハ販賣上必要ナル建設物、機械、器具、容器、原料其ノ他ノ物件
  - 十八條 前二條ノ規定ハ揮發油以外ノ礦油ノ製造者又ハ販賣業者ニ付之ヲ準用ス
  - 十九條 稅務官吏ハ運搬中ニ在ル揮發油ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ取締上必要アリト認ムルトキハ稅務官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物ニ封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲スコトヲ得
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ揮發油稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ揮發油稅ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

- 一 政府ニ申告セズシテ第一條但書以外ノ揮發油ヲ製造シタル者
  - 二 第九條第一項ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ消費シ又ハ消費ノ目的ヲ以テ讓渡シタル者
  - 三 第十二條ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ引取リタル者
  - 四 第十三條ノ規定ニ違反シ揮發油ヲ消費シタル者
  - 五 第十五條ノ規定ニ違反シ揮發油ニ揮發油以外ノ礦油ヲ混和シタル者
  - 六 前各號ノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ揮發油稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者
- 前項第五號ニ該當スル者ニ付テハ其ノ揮發油稅額ハ混和ニ因リ製成セラレタル物ノ數量ニ依リ之ヲ計算ス
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 政府ニ申告セズシテ第一條但書ノ揮發油ヲ製造シタル者
  - 二 第十六條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者
  - 三 第十六條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

四 第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第二十二條 大正元年勅令第四號第二條ノ規定ハ揮發油ノ製造者及販賣業者ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ揮發油ヲ製造シ又ハ其ノ販賣業ヲ營ム者本令施行後一日内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタル者ト看做ス

前項ノ揮發油製造者又ハ販賣業者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ十キロツトル以上ノ揮發油ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ之ヲ製造物ヨリ引取リタルモノト看做シ昭和十二年六月三十日限其ノ揮發油稅ヲ徵收ス

前項ノ揮發油ニ付テハ其ノ數量及貯蔵ノ場所ヲ第二項ノ申告ト同時ニ政府ニ申告スベシ

(參 照)

大正元年八月二十一日勅令第四號ハ租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件ナリ

### 朝鮮揮發油稅令施行規則

(昭和十二年三月三十日 朝鮮總督府令第三十五號)

第一條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、製造場ノ位置並ニ一年間ノ製造見込數量ヲ記載シタル申告書ニ當該製造場ノ敷地及建設物ノ圖面、揮發油製造用器具機械ノ目錄並ニ揮發油製造方法書ヲ添附シ之ヲ製造場ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長ニ提出スベシ

朝鮮揮發油稅令第一條但書ノ揮發油ヲ製造セントスル者ハ其ノ旨ヲ前項ノ申告書ニ併セ記載スベシ

第二條 揮發油ノ製造者製造ニ着手セントスルトキ、一月以上製造ヲ休止セントスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ着手セントスルト



キハ其ノ時期ヲ定メ豫メ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第三條 揮發油ノ販賣業ヲ營マントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ販賣場ノ位置ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長ニ提出スベシ

第四條 第一條乃至前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第一條ノ規定ニ依ル提出シタル圖面、目錄若ハ揮發油製造方法書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度滞滯ナク之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第五條 揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ滞滯ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ滞滯ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ滞滯ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第六條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第七條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者製造場又ハ販賣場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第一條又ハ第三條及前條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲スベシ

第八條 製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ數量ヲ稅務署長又ハ稅關長（稅關支署長及稅關出張所長ヲ含ム以下同ジ）ニ申告スベシ但シ朝鮮揮發油稅令第一條但書ノ揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 朝鮮揮發油稅令第一條但書ノ揮發油ヲ輸入又ハ移入セントスル者ハ最寄稅關長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クベシ

第十條 朝鮮揮發油稅令第六條第一項但書ノ規定ニ依リ揮發油稅ノ徵收ノ猶豫ヲ申請セントスル者ハ擔保物提供書ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

第十一條 朝鮮揮發油稅令第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、揮發油ノ所在及數量引取ノ日、引取先、運搬通路並ニ引取先ヘノ到達豫定日ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ朝鮮揮發油稅令第七條第三項ノ期間ハ稅務署長又ハ稅關長之ヲ指定ス

第十二條 朝鮮揮發油稅令第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル揮發油ヲ引取先ニ搬入シタルトキハ滞滯ナク其ノ旨ヲ前條第一項ノ稅務署長又ハ稅關長ニ申告スベシ

第十三條 朝鮮揮發油稅令第八條第一項ノ規定ニヨリ揮發油稅ノ免除ヲ受ケ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、揮發油ノ所在及數量、引取ノ日、輸出地、輸出豫定日並ニ輸出先ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

第十四條 前條ノ揮發油ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ引取後六月内ニ左ノ書類ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ但シヤムコトヲ得ザル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハザルトキハ稅務署長又ハ稅關長ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一、輸出免除又ハ之ニ代ルベキ書類

二、輸出先ニ於ケル稅關ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルベキ書類

第十五條 朝鮮揮發油稅令第七條第三項但書又ハ同令第八條第二項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ニ具シ第十一條第一項又ハ第十三條ノ稅務署長又ハ稅關長ニ申請スベシ揮發油ヲ亡失シタル場所ガ前項ノ稅務署長又ハ稅關長ノ管轄外ナルトキハ其ノ場所ヲ管轄スル稅務署長又ハ稅關長ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第十六條 朝鮮揮發油稅令第九條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ第十二條ノ稅務署長又ハ稅關長ニ申請スベシ

第十七條 日本銀行ノ代理店若ハ國庫金ヲ取扱フ郵便官署ノ所在地外又ハ日本銀行ノ代理店若ハ郵便官署ノ取扱時間外ニ於テハ稅務官吏ハ輸入又ハ移入ノ揮發油ノ揮發油稅ニ付口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ收入官吏ニ其ノ納付ヲ爲サシムルコトヲ得旅客ノ攜帶ニ係ル揮發油ノ揮發油稅ヲ徵收スルトキ亦同ジ

第十八條 擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一、金錢



二、國債

三、工場財團

四、鑛業財團

第十九條 擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長又ハ稅關長ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄

シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ工場財團又ハ鑛業財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長又ハ稅關長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スベシ

第二十一條 擔保物ノ價格減少シタルトキ又ハ擔保物ヲ變更スル必アリト認メタルトキハ稅務署長又ハ稅關長ハ更ニ相當ノ擔保物ノ

提供ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ稅務署長又ハ稅關長ハ直ニ揮發油稅ヲ徵收スベシ

第二十二條 揮發油ノ引取人ハ擔保物ノ變更ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ申請スルコトヲ得

第二十三條 常時揮發油ノ引取ヲ爲ス者ハ稅務署長又ハ稅關長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔保物ヲ提供スルコトヲ得

第二十四條 朝鮮揮發油稅令第十一條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者製造場ニ揮發油ヲ戻入セントスルトキハ其ノ數量、品質、戻入ノ

豫定日、戻入ノ事由、製造場ヨリ引取リタル日並ニ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長ニ提出シテソノ承認

ヲ受クベシ

前項ノ揮發油ヲ引取ル場合ニ於テハ戻入數量ヨリ戻入後ノ減量ヲ控除シタル數量ニ對スル揮發油稅ヲ徵收セズ但シ揮發油以外ノ礦油

ヲ混和シタル場合ハ揮發油稅ヲ徵收ス

第二十五條 朝鮮揮發油稅令第十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ混和ノ都度豫メ混和ニ供スル揮發油及朝鮮總督ノ指定ス

ル物ノ數量及品質並ニ混和ノ場所及日時ヲ稅務署長又ハ稅關長ニ申告スベシ

第二十六條 揮發油ノ製造者ハ製造場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル原料ノ種類、數量及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三、製造シタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重及製造ノ日

四、引取ラレタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重、價格及引取ノ日並ニ其ノ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

朝鮮揮發油稅令第一條但書ノ揮發油ト其ノ他ノ揮發油ト同一製造場ニ於テ製造スル場合ハ前項ノ事項ハ之ヲ區別シテ記載スベシ

第二十七條 揮發油ノ販賣業者ハ販賣場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル揮發油ノ數量、價格及受入日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、販賣シタル揮發油ノ數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ

第二十八條 前二條ノ規定ハ揮發油以外ノ礦油ノ製造者又ハ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮揮發油稅令附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條又ハ第二條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ揮發油ヲ製造シ又ハ其ノ販賣業ヲ營ムコトノ事實ヲ併セ記載シ尙製造者ニ在リテハ第一條ノ規定ニ準ジテ作成シタル圖面、目錄及製造方法書ヲ添附シ之ヲ稅務署長ニ提出スベシ

揮發油稅法ヲ台灣及樺太ニ施行スルノ件

(昭和十二年三月三十一日 勅令第六十八號)

揮發油稅法ハ之ヲ台灣及樺太ニ施行ス



附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

台灣揮發油稅法施行規則

(昭和十二年四月一日 台灣總督府令第二十三號)

- 第一條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ製造場ヲ定メ一年間ノ製造見込數量、住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ニ當該製造場ノ土地及建設物ノ圖面竝ニ揮發油製造方法書ヲ添付シ之ヲ製造場所轄稅務官署ニ提出スベシ
- 揮發油稅法第一條但書ノ揮發油ヲ製造セントスル者ハ其ノ旨ヲ前項ノ申告書ニ併セ記載スベシ
- 第二條 揮發油ノ製造者製造ニ着手セントスルトキ、一月以上製造ヲ休止セントスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ着手セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 第三條 揮發油ノ販賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣所轄稅務官署ニ提出スベシ
- 第四條 第一條乃至前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第一條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ揮發油製造方法書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 第五條 揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ揮發油ノ製造業又ハ販賣業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 第六條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 第七條 揮發油ノ製造者又ハ販賣業者製造場又ハ販賣場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第一條又ハ第三條及前條ノ規定ニ依

ル申告ヲ爲スベシ

- 第八條 製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ數量ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ但シ揮發油稅法第一條ノ揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 揮發油稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ
- 揮發油稅法第七條第三項ノ期間ハ知事又ハ廳長之ヲ指定ス
- 第十條 揮發油稅法第七條第一項ノ規定ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル揮發油ヲ引取先ニ移入シタルトキハ直ニ前條第一項ノ稅務官署ニ其ノ旨ヲ申告スベシ
- 第十一條 揮發油稅法第八條第一項ノ規定ニ依リ揮發油稅ノ免除ヲ受ケ製造場ヨリ揮發油ヲ引取ラントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受クベシ
- 第十二條 前條ノ揮發油ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ引取後六月内ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ
- 第十三條 揮發油稅法第七條第三項但書又ハ同法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第九條第一項又ハ第十一條ノ稅務官署ニ申請スベシ
- 前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所ガ前項ノ稅務官署官轄外ナルトキハ最寄稅務官署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ
- 第十四條 揮發油稅法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第十一條ノ稅務官署ニ申請スベシ
- 第十五條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一、金錢

二、國債



三、書簿ニ於ケル工場財團

第十六條 擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外知事又ハ廳長ノ指定スル所ニ依ル

第十七條 擔保トシテ金貨又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

擔保トシテハ有價證券ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテハ工場財團ヲ提供スルトキハ工場財團擔保トシテ工場財團ヲ提出シタル者アルトキハ知事又ハ廳長ハ抵當權設定登記ノ囑託ヲ爲スベシ

第十八條 知事又ハ廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ  
前二項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ知事又ハ廳長ハ直ニ揮發油稅ヲ徵收スベシ

第十九條 擔保物ノ公費ニ關シテハ臺灣國稅徵收規則施行規則ノ規定ヲ準用ス

擔保物公費ノ結果擔保提供者ニ課付スベキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 揮發油稅法第十一條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者製造場ニ揮發油ヲ戻入セントスルトキハ其ノ數量、品質、戻入ノ事由、

製造場ヨリ引取リタル日並ニ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ揮發油ヲ引取ル場合ニ於テハ戻入數量ヨリ戻入後ノ減量ヲ控除シタル數量ニ對スル揮發油稅ヲ徵收セズ但シ揮發油以外ノ礦油ヲ混和シタル場合ハ揮發油稅ヲ徵收ス

第二十一條 揮發油稅法第十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ混和ノ都度豫メ混和ニ供スル揮發油及政府ノ指定スル物ノ數量及品質並ニ混和ノ場所及日時ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第二十二條 揮發油ノ製造者ハ製造場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル原料ノ種類、數量及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三、製造シタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重及製造ノ日

四、引取ラレタル揮發油ノ數量、攝氏十五度ニ於ケル比重、價格及引取ノ日並ニ其ノ引取人ノ住所氏名又ハ名稱

揮發油稅法第一條但書ノ揮發油ト其ノ他ノ揮發油ト同一製造場ニ於テ製造スル場合ハ前項ノ事項ハ之ヲ區別シテ記載スベシ

第二十三條 揮發油ノ販賣業者ハ販賣場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一、受入レタル揮發油ノ數量、價格及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二、販賣シタル揮發油ノ數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ

第二十四條 前二條ノ規定ハ揮發油以外ノ礦油ノ製造者又ハ販賣業者ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 本令中稅務官署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラル、揮發油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

揮發油稅法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一條又ハ第三條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ揮發油ヲ製造シ又ハ販賣業ヲ營ムコトノ事實ヲ併セ記載シ尙製造者ニ在リテハ第一條ノ規定ニ準ジテ作成シタル圖面及製造方法書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

關東州揮發油稅令

(昭和十二年六月二十八日 勅令第二百九十一號)

第一條 揮發油ニハ本令ニ依リ揮發油稅ヲ課ス但シ石炭、亞炭、油母頁岩又ハ天然瓦斯ヲ原料トシテ製造シタル揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ本令ニ於テ揮發油トハ攝氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超エザル礦油ヲ謂フ



第二條 揮發油ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムベシ

第三條 揮發油稅ノ稅率ハ揮發油一キロリットルニ付十三圓二十錢トス

第四條 揮發油稅ハ保稅地域ヨリ揮發油ヲ引取ルトキ其ノ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

保稅地域トハ揮發油製造場、保稅倉庫其ノ他政府ニ於テ課稅物件ヲ藏置シ得ベキ場所トシテ指定シ又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第五條 揮發油稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月内揮發油稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間内ニ稅額ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第一項ノ擔保ニ關スル規定ハ滿洲國駐劄特命全權大使之ヲ定ム

第六條 揮發油ハ大使ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅ヲ納付セズシテ保稅地域ヨリ他ノ保稅地域ニ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該揮發油ガ政府ノ指定シタル期間内ニ運送先ニ到着セザルトキハ保稅地域ヨリ搬出シタルトキ引取リタルモノト看做シ運送申告者ヨリ揮發油稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ當該官吏ノ承認ヲ得テ廢棄シタル揮發油ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 揮發油ハ第五條第一項ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前ニ於テハ之ヲ消費シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケズシテ之ヲ保稅地域ヨリ引取ルコトヲ得ズ

第八條 第五條第一項ノ場合ヲ除クノ外揮發油稅納付前ニ於テ揮發油ニ礦油以外ノ物ヲ混和シタルトキハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラズ其ノ混和ニ因リ製成シタル物ヲ以テ揮發油ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ政府ノ指定スル物ヲ混和シタルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ混和ニ因リ増量シタル分ニ對スル揮發油稅ヲ免除ス

第九條 揮發油稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタル揮發油ニハ揮發油以外ノ礦油ヲ混和スルコトヲ得ズ但シ混和ニ依リ露氏十五度ニ於ケル比重〇、八〇一七ヲ超ユル礦油ヲ製成スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 關東州外ニ輸出スル揮發油ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ揮發油稅ヲ免除ス

第十一條 揮發油ヲ販賣セントスル者ハ販賣場一個所毎ニ申告スベシ但シ揮發油製造者ガ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

揮發油販賣者其ノ販賣ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スベシ

第十二條 揮發油ノ製造者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造出入ニ關スル事項ヲ記載スベシ

第十三條 揮發油製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ揮發油製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一、本令又ハ本令ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シタルトキ  
二、三年以上引續キ揮發油ノ製造ヲ休止シタルトキ

第十四條 稅務官吏ハ揮發油ノ製造場、販賣場其ノ他必要ト認ムル場所ニ臨ミ揮發油、其ノ原料品、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類、其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、容器其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ稅務官吏ハ前項ノ物件ニ封印ヲ捺捺シ、封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲シ又ハ爲サシムルコトヲ得

第十五條 稅務官吏ハ運搬中ニ在ル揮發油ヲ検査シ具ノ出所及到着先ヲ尋問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ稅務官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ、貨物又ハ船車ニ封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ直ニ揮發油稅ヲ徵收ス  
一、免許ヲ受ケズシテ第一條第一項但書以外ノ揮發油ヲ製造シタルトキ  
二、詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ揮發油稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタルトキ

三、第七條ノ規定ニ違反シタルトキ  
四、第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

五、輸出スル爲揮發油稅ヲ免除セラレタル揮發油ヲ關東州内ニ於テ消費シ又ハ關東州内ニ於テ消費スル目的ヲ以テ他人ニ讓渡シタルトキ



前項第四號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ揮發油稅額ハ混和ニ因リ製成セラレタル物ノ數量ニ依リ之ヲ計算ス  
第十七條 大使ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外揮發油稅務ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

### 附 則

本令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ揮發油ヲ製造スル者ニシテ本令施行後引續キ之ヲ製造セントスルモノハ昭和十二年七月三十一日迄ニ政府ニ免許を申請スベシ其ノ申請ニ對シ許否ノ處分ヲ受クル迄ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ揮發油ヲ販賣スル者ニシテ本令施行後引續キ之ヲ販賣セントスルモノハ昭和十二年七月三十一日迄に政府ニ申告スベシ

### 大正八年制令第十一號改正ノ件

(昭和十二年三月三十一日 制令第七號)

第一條及第二條中「又ハ朝鮮清涼飲料稅令」ヲ「朝鮮揮發油稅令」ニ改ム

第三條 酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令、朝鮮清涼飲料稅令又ハ朝鮮揮發油稅令ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外左ニ掲クル場合

ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ關稅若ハ移入稅ノ納付義務者、移入者、運送申告者又ハ郵便物ノ名宛人ヨリ酒稅、砂糖消費稅、骨牌稅、清涼飲料稅又ハ揮發油稅ヲ徵收ス

一、酒類、砂糖、糖蜜、糖水、骨牌若ハ揮發油ニ付關稅ヲ徵收シ又ハ酒類ニ付移入稅ヲ徵收スルトキ

二、保稅地域以外ノ地域ニ砂糖、糖蜜、糖水、骨牌、清涼飲料又ハ揮發油ヲ移入シタルトキ但シ大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域ニ運送ノ認許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三、大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域又ハ保稅地域間ニ運送ノ認許又ハ免許ヲ受ケタル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌清涼飲料又ハ揮發油力相當ノ期間内ニ運送先ニ到達セサルトキ但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ

限ニ在ラス

四、郵便ニ依リ移入スル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌又ハ清涼飲料ヲ名宛人ニ交付スルトキ

### 附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(參照)大正八年四月二十八日制令第十一號抄錄(酒稅、砂糖稅ノ徵收ニ關スル件)

第一條 酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌令又ハ朝鮮清涼飲料稅令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第二條 關稅法第三十九條ノ規定ニ依リ運送ハ酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令又ハ朝鮮清涼飲料稅令ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 酒稅令、砂糖消費稅令、朝鮮骨牌稅令又ハ朝鮮清涼飲料稅令ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ關稅若ハ移入稅ノ納付義務者、運送申告者又ハ郵便物ノ名宛人ヨリ酒稅、砂糖消費稅、骨牌稅又ハ清涼飲料稅ヲ徵收ス

一、酒類、砂糖、糖蜜、糖水若ハ骨牌ニ付關稅ヲ徵收シ又ハ酒類ニ付移入稅ヲ徵收スルトキ

二、大正十二年制令第六號第十二條ノ規定ニ依リ保稅地域間ニ運送ノ免許ヲ受ケタル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌又ハ清涼飲料相當ノ期間内ニ運送先ニ到達セサルトキ但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三、郵便ニ依リ移入スル砂糖、糖蜜、糖水、骨牌又ハ清涼飲料ヲ名宛人ニ交付スルトキ



## 揮發油及アルコール混用法

(昭和十二年三月三十一日 法律第三十九號)

第一條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ工場若ハ貯油所ヨリ揮發油ヲ搬出セントストキ又ハ其ノ工場若ハ貯油所ニ於テ揮發油ヲ使用シ若ハ之ヲ他ノ者ニ引渡サントストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ニアアルコールヲ混入スベシ但シ勅令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ前項ノ規定ニ依リ揮發油ニアアルコールヲ混入スベキ割合ヲ定メ之ヲ告示ス

第二條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リアアルコール混入計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントストキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハアルコール混入計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 政府ハ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ對シアルコール混入計畫ノ實施ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 本法ニ依リアアルコールヲ混入シタル揮發油ヨリアアルコールヲ分離スルコトヲ得ズ

第五條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者第一條第一項但書ノ規定ニ依リアアルコールヲ混入セズシテ揮發油ヲ搬出シ又ハ引渡サントストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ニ付アルコールヲ混入セザル揮發油ナルコトヲ識別シ得、キ標章ヲ附スベシ

前項ノ規定ニ依リ附シタル標章ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、除却シ又ハ隠蔽スルコトヲ得ズ

第六條 政府ハ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シ第一條第一項但書ノ規定ニ依リアアルコールヲ混入セザル揮發油ノ搬出、引渡、使用、販賣其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得ナルコトヲ知リテ讓渡スルコトヲ得ズ

第七條 行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第八條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者第一條ノ規定ニ違反シアルコールヲ混入セズシテ揮發油ヲ搬出シ、使用シ又ハ引渡シタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者左ノ各號ノ一ニ該當ストキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第二條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザルアルコール混入計畫ヲ實施シタルトキ

二、第二條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シアルコール混入計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三、第五條第一項ノ規定ニ違反シ標章ヲ附セズシテアルコールヲ混入セザル揮發油ヲ搬出シ又ハ引渡シタルトキ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第四條ノ規定ニ違反シタル者

二、第五條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

第十一條 揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者第六條ノ命令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第三條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ監督上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二、第七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十三條 揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族

雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出

デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ



第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノニ在ラズ

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ本法施行ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間ヲ限り第一條ノ規定ニ拘ラズ揮發油ニアルコールヲ混入セザルコトヲ得

### アルコール專賣法

(昭和十二年三月三十一日 法律第三十二號)

- 第一條 アルコールノ製造ハ政府ニ專屬ス
- 第二條 本法ニ於テアルコールトハアルコール分九十度以上ノアルコールヲ謂フ  
アルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四ノ比重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ
- 第三條 政府ハ本法施行前一年間引續キ業トシテアルコールヲ製造シタル者ニ對シ本法施行ノ際ニ限り其ノ製造ヲ特許スルコトヲ得  
相續、會社ノ合併又ハ營業ノ讓受ニ因リアルコールノ製造業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ被相續人、合併ニ因リテ消滅シタル會社又ハ讓渡人ノ爲シタル製造ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ相續人、合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ讓受人ノ爲シタル製造ト看做ス
- 第四條 アルコールハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ
- 第五條 アルコール製造者ハ製造場一個所毎ニ毎年其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ一年度内ニ製造スベキアルコールノ數量製造方法及アルコール分ノ度數ヲ定メ豫メ政府ノ許可ヲ受クベシ

政府ハ特ニ必要アル場合ニ於テハアルコール製造原料ヲ指定スルコトヲ得

第六條 アルコール製造者ノ製造スベキアルコールノ數量ハ製造場一個所毎ニ一年度内五十石ヲ下ルコトヲ得ズ但シ同一製造場内ニ於テ第十七條ノアルコールヲ製造スルトキハソノ數量ヲ合算スルモノトス

アルコール製造者前項ノ制限右數以上ノ製造ヲ爲サザルトキハ災害其ノ他ヤムコトヲ得ザル事由ニ因ルコトヲ證明スルニ非ザレバ政府ハ其ノ不足石數ニ對シ其ノ賠償價額ト第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ徵收ス

第七條 アルコール製造者ハ左ノ場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一、製造場又ハ設置場ヲ新設、變更又ハ廢止セントスルトキ

二、其ノ他本法ニヨリ政府ノ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ

第八條 アルコール製造者ノ製造ニ係ル酒母及膠ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケズシテ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第九條 相續人が被相續人ノアルコールノ製造業ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ其ノ製造ノ特許ヲ受ケタルモノト看做ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノアルコールノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ其ノ製造ノ特許ヲ受ケタルモノト看做ス

第十條 アルコールノ製造業ヲ讓受ケアルコールヲ製造セントスル者ハ讓受前アルコール製造ノ特許ノ承繼ヲ申請スルコトヲ得  
前項ノ申請アリタル場合ニ於テ之ヲ相當ト認ムルトキハ政府ハ特許ノ承繼ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 アルコール製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ特許ノ取消ヲ求ムベシ

第十二條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ其ノアルコール製造ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一、三年以上引續キ其ノ製造ヲ爲サザルトキ

二、第三十三條第三號ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分セラレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ取消シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製造其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得



此ノ場合ニ於テハ仍本法ヲ適用ス

第十三條 アルコール製造者ノ製造シタルアルコールハ政府之ヲ收納ス

第十四條 政府ハ收納スルアルコールノ品質及アルコール分ノ度数ヲ定ムルコトヲ得收納ニ適セザルアルコールニ付テハ政府ハ適當ナル處理ヲ爲スベキ旨ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ收納シタルアルコールニ對シ賠償金ヲ交付ス

賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示ス

第十六條 アルコール製造者ノ製造シタルアルコールハ總テ之ヲ政府ニ納付スベシ

政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 酒造税法又ハ酒類及酒類含有飲料税法ニ依リ製造免許ヲ受ケタル者ガ酒類又ハアルコール含有飲料ノ原料トシテ其ノ同一製造場内ニ於テ製造スルアルコールニハ本法ヲ適用セズ

第十八條 アルコールノ製造方法ヲ試驗研究スル爲アルコールヲ製造セントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第十七條、第八條、第十一條乃至第十六條、第三十條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テ之ヲ準用ス但シ其ノ收納及賣渡ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府は其ノ賣渡アルコールノ價格ヲ定メ之ヲ公示スベシ

第二十條 左ニ掲グル用途ニ供スル場合ニ於テハ政府ハ前條ノ價格ニ拘ラズ特ニ定メタル價格ヲ以テアルコールノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

一、命令ヲ以テ定ムル揮發油混入ノ用ニ使用スルトキ

二、命令ヲ以テ定ムル工業ノ用ニ使用スルトキ

三、輸出又ハ移出ノ用ニ供スルトキ

第二十一條 前條ノ價格ヲ以テ賣渡スアルコールニ付テハ政府ハ買受人ヲシテ其ノ賣渡價額ハ第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ノ全部又ハ一部ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ擔保ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第二十二條ノ價格ヲ以テアルコールヲ買受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ用途ニ供シタルコトヲ證スル書類ヲ政府ニ提出スベシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ政府ハ其ノ賣渡價額ト第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ納付セシム

買受人前項ノ金額ヲ納付セザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ提供セシメタル擔保アルトキハ之ヲ以テ納付セシムベキ金額ニ充ツベシ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及前項ノ金額ニ充テ不足アルトキハ之ヲ徵收シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十三條 第二十一條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者前條第一項ノ書類ヲ提出シ又ハ前條第二項ノ金額ヲ納付シタルトキハ政府ハ其ノ擔保ヲ還付ス

第二十四條 第二十條ノ價格ヲ以テ買受ケタルアルコールヲ讓渡シ、賣入シ又ハ其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第二十二條及前條ノ規定ハ前項ノアルコールヲ讓渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル場合ニ付テ之ヲ準用ス

第二十五條 第二十條ノ價格ヲ以テ買受ケタルアルコールノ使用數量ガ買受數量ニ對シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ其ノ不足數量ニ對シ第二十二條第二項及第三項並ニ第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 第二十條第二項ノ用途ニ供スルアルコールニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 第十九條ノ價格ヲ以テ政府ノ賣渡シタルアルコールヲ命令ノ定ムル所ニ依リ第二十條第二號又ハ第三號ノ用途ニ供シタル者ハ其ノ買受價額ト第二十條第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハアルコールノ使用、輸出又ハ移出後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十八條 アルコールハ政府又ハ政府ノ指定シタル賣捌人ニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズアルコール賣捌人及アルコールノ販賣



ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 アルコールハ政府ノ賣渡シタルモノニ非ザレバ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ズ但シ試驗研究ノ爲政府ノ許可ヲ得テ製造スル場合又ハアルコール製造者納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ所有又ハ所持スルハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 當該官吏ハアルコール製造者、アルコール賣捌人又ハ第二十條ノ規定ニ依リアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ニ對シテハ賣問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一、アルコール製造者、アルコール賣捌人又ハ第二十條ノ規定ニ依リアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ノ所持スルアルコール
- 二、アルコールノ製造、納付又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類
- 三、アルコールノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、容器、材料其ノ他ノ物件

第三十一條 本法ニ依リ納付セシムベキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第三十二條 政府ハアルコール製造ノ委託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ委託ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ申請ヲ爲スベシ

第七條、第八條、第十六條、第二十九條、第三十條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、政府ノ特許、許可又ハ委託ヲ受ケズシテアルコールヲ製造シタル者
- 二、第四條ノ規定ニ違反シアルコールノ輸入又ハ移入ヲ爲シタル者
- 三、政府ニ納付スベキアルコールヲ讓渡シ、消費シ又ハ隱匿シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、第七條ノ規定ニ違反シ製造場若ハ藏置場ヲ新設、變更若ハ廢止シ又ハ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタル者
- 二、第二十四條第一項ノ規定ニ違反シアルコールヲ讓渡シ、質入シ又ハソノ用途ヲ變更シタル者

三、第二十九條ノ規定ニ違反シ政府ノ賣渡サザルアルコールヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費シタル者

四、アルコール賣捌人ニ非ズシテアルコールヲ販賣シタル者

第二十二條第二項及第三項並ニ第二十三條ノ規定ハ前項第二號ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、第五條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル製造原料ヲ使用セザル者
- 二、第八條ノ規定ニ違反シ酒母又ハ膠ヲ讓渡シ質入シ、消費シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一、第十四條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ命令シタル處理ヲ爲サザル者
- 二、正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニアルコールヲ納付セザル者
- 三、第三十條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ賣問ニ對シ答辯ヲ爲サズ、虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハソノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第三十七條 第三十三條、第三十四條、第三號若ハ第四號又ハ第三十五條第二號ノ罪ヲ犯シタル者アルトキハ其ノ犯罪ニ係ルアルコール、酒母、膠及其ノ容器並ニアルコール製造用機械器具ハ之ヲ沒收ス其ノアルコール、酒母又ハ膠ニシテ沒收スルコト能ハザルニ至リタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十八條 本條又ハ本法ニ基キテ殺スル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ但シ第三十六條第三號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニアラズ

第三十九條 アルコール製造者、アルコール賣捌人又ハアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ殺スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ



第四十條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ設スル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ關スル職務ヲ行フベキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 アルコール製造者其ノ製造ノ特許ヲ取消サレ又ハ其ノ業務ヲ廢止スルモ製造場又ハ藏置場ニアルコール、酒母又ハ膠ノ現存スル間ハ仍本法ヲ適用ス

第四十二條 本法ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケアルコールヲ製造スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及ソノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ特許又ハ委託ヲ受ケル者ガソノ製造場ヲ新設シタル場合ニ付之ヲ準用ス

## 附 則

第四十三條 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス第四十四條第三條ノアルコール製造者又ハ本法施行ノ際現ニアルコールノ製造方法ヲ試驗研究スル爲アルコールノ製造ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ製造ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ一月内ニ製造ノ特許又ハ許可ヲ受クベシソノ期間内ハアルコールノ製造ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許又ハ許可ヲ受クル迄ノ間ニ製造シタルアルコールニ關シテハ本法ヲ準用ス

第四十五條 本法施行ノ際現ニアルコールノ販賣ヲ爲ス者ニシテ本法施行後ソノ販賣ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ二月内ニアルコール賣捌人ノ指定ヲ受クベシソノ期間内ハアルコールノ販賣ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受クル迄ノ間ニ於ケル販賣ニ付テハ本法ヲ準用ス

第四十六條 昭和十二年三月三十一日迄ニ酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ査定又ハ檢定ヲ受ケタルアルコールニシテ本法施行ノ際現存スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四十七條 酒精及酒精含有飲料稅法第四條中「及清涼飲料」ヲ「清涼飲料及アルコール專賣法ノ適用ヲ受クル酒精」ニ改ム

第四十八條 酒母、膠及麴取締法第一條中「酒類ノ製造免許」ノ下ニ「又ハアルコール專賣法ニ依リアルアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託」ヲ加フ

（參照）

明治三十四年三月二十日公布法律第八條酒精含有飲料稅法令抄錄

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒（ビール）及清涼飲料ニハ本法ヲ適用セズ

明治三十八年一月一日公布法律第七號酒母、膠及麴取締法抄錄

第一條 本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケズシテ酒母又ハ膠ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請賣スル者ニ之ヲ適用ス

明治二十五年三月十三日公布法律第五十二號ハ法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アルタル場合ニ關スル件ナリ

## アルコール專賣法施行細則

（昭和十二年四月一日 大藏省令第十號）

第一條 アルコール專賣法第三條ノアルコール製造ニシテ其ノ製造ヲ繼續セントスル者ハ昭和十二年四月一日ヨリ一月内ニ第一號書式ノ特許申請書ニ第四條ノ許可申請書並ニ製造場毎ニ調製シタル敷地建物ノ詳細ナル圖面、製造用機械、器具、容器ノ目錄及アルコール製造方法書各二通ヲ添ヘ之ヲ專賣局長官ニ提出シ特許ヲ受クベシ但シアルコール專賣法第三條第二項ノ場合ニ於テハ相續、會社ノ合併又ハ營業ノ讓受ノ事實ヲ證スベキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リアルコールノ製造特許ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ特許證ヲ交付ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ專賣局長官ハアルコールノ製造ヲ特許セザルコトヲ得

一、取締上不適當ト認ムル場所ニ製造場ヲ設ク

二、資力不充分ト認メラルル者

三、前各號ノ外取締上不適當ト認ムル者

前項第一號及第三號ノ事實ノ有無ハ會社ニ在リテハ其ノ代表者ニ付、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ付亦之ヲ定



ム但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 アルコールノ製造場一個所トハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムベキモノヲ謂フ

第四條 アルコール製造者ハ製造場一個所毎ニ毎年其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ一年度内ニ製造スベキアルコールノ數量

製造方法及アルコール分ノ度數ヲ定メ其ノ年一月末日迄ニ第三號書式ノ許可申請書ヲ所轄地方專賣局ニ提出シ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニハ第四號書式ノ許可證ヲ交付ス

一項ノ許可申請書ニハ使用スベキ原料ヲ記載スベシ

地方專賣局長ハ製造許可申請ニ係ル數量ガ申請者ノ資力其ノ製造場ノ設備ニ比シ適當ナリト認ムルトキ又ハアルコールノ需給上必要アリト認ムルトキハ其ノ數量ヲ減少シテ許可スルコトヲ得

第五條 災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リアルコール專賣法第六條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシ事由ヲ記載シタル書面ハ年度終了後二十日內ニ所轄地方專賣局ニ提出スベシ

第六條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄地方專賣局ニ申請シ許可ヲ受クベシ

一、製造場又ハ藏置場ヲ新設、變更若ハ廢止セントスルトキ

二、一年度内ニ製造スベキアルコールノ數量、製造方法及アルコール分ノ度數ヲ變更セントスルトキ

三、前各號ノ外アルコール專賣法ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ

第七條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄地方專賣局ニ申告スベシ

一、製造用機械、器具、容器ヲ新設又ハ變更セントスルトキ

二、製造場若ハ藏置場ノ模範替ヲ爲シ又ハ敷地ヲ變更セントスルトキ

三、製造ヲ休止セントスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セントスルトキ

四、製造原料ヲ變更セントスルトキ

五、住所、居所、氏名、名稱又ハ會社ノ代表者ニ異動ヲ生ジタルトキ

六、アルコール、酒母又ハ膠其ノ他ノ半製品ニ亡失、腐敗其ノ他異狀アリタルトキ

前項第一號ノ新設又ハ變更アリタルトキハ當該官吏ハ其ノ機械、器具、容器ノ檢定ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ之ニ番號容釐其ノ他必要ナル事項ヲ標記スルコトヲ得

アルコール製造者ハ前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケタル後ニ非ザレバ製造用機械、器具、容器ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八條 アルコール製造者其ノ製造ニ係ル酒母又ハ膠ヲ製造場ヨリ移出スル爲許可ヲ受ケントスルトキハ第五號書式ノ許可申請書ヲ所

轄地方專賣局ニ提出スベシ

第九條 相續又ハ會社ノ合併ニ因リアルコールノ製造業ヲ承繼シタルトキハ第六號書式ノ申告書ヲ專賣局長官ニ提出シ特許證ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ申告書ニハ相續又ハ會社ノ合併ノ事實ヲ證スベキ書類並ニ被承繼者ノ特許證ヲ添付スルコトヲ要ス

第十條 アルコールノ製造業ヲ讓受ケアルコールヲ製造セントスル者ハ讓受前製造者ノ特許證並ニ製造者ト連署シタル第七號書式ノ特許承繼許可申請書ヲ專賣局長官ニ提出シ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者アルコール製造業ヲ讓受ケタルトキハ第八號書式ノ申告書ヲ專賣局長官ニ提出スベシ

第十一條 アルコール製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ事由ヲ具シ第九號書式ノ特許取消申請書ヲ專賣局長官ニ提出スベシ

第十二條 アルコール專賣法第十二條ノ規定ニ依リアルコール製造ノ特許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、膠其ノ他ノ半製品現存スルトキハ地方專賣局長ハアルコール製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メ製造其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得

第十三條 アルコール製造者其ノ特許證又ハ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ專賣局長官又ハ所轄地方專賣局長ニ申請シ之ガ再交付ヲ求ムベシ

第十四條 アルコール製造者ハ當該官吏ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ自己ノ所有ト否トヲ問ハズ製造用機械、器具、容器又ハ原料ヲ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第十五條 アルコール製造者アルコール專賣法第五條第二項ノ規定ニ依リ原料ノ指定ヲ受ケタルトキハ當該官吏ノ檢査ヲ受ケタル後ニ



非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條 左ニ掲グル場合ニ於テ當該官吏ガ承認ヲ受クベキコトヲ命ジタルトキハアルコール製造者ハ其ノ承認ヲ受クベシ

一 酒母、膠又ハアルコールヲ他ノ容器ニ移替ヘントスルトキ

二 アルコールヲ製造場内ニ移入セントスルトキ

三 前各號ノ外當該官吏ガ指定シタル事項ヲ爲サントスルトキ

第十七條 アルコールノ賠償價格ハ毎年三月ニ於テ其ノ翌年度ニ適用スベキモノヲ定メ之ヲ告示ス但シ特殊ノ事由生ジタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ賠償價格ニ付テハ其ノ製造場別生産能力又ハ使用シタル製造原料ニ依リ差等ヲ設クルコトヲ得

第十八條 アルコール製造者ハ專賣局長官ノ定ムル手續ニ依リ其ノ製造シタルアルコールヲ所轄地方專賣局ニ納付スベシ但シ所轄地方專賣局ノ認可ヲ得タルトキハ所轄地方專賣局以外ノ地方專賣局ニ之ヲ納付スルコトヲ得

第十九條 地方專賣局長ハアルコール製造者ノ製造シタルアルコールニシテ左ノ要件ヲ具備セザルモノハ之ヲ收納セザルコトヲ得

一 無色澄明ニシテ異臭ヲ有セザルコト

二 中性ニシテ浮游物ヲ含マザルコト

三 フーゼル油其ノ他ノ不純物ヲ含マザルコト

第二十條 前條ノ規定ニ依リ收納セザルアルコールハ地方專賣局長ノ承認ヲ受ケ適當ナル處理ヲ爲スベシ

第二十一條 アルコールノ製造方法ヲ試驗研究スル爲アルコールヲ製造セントスル者ハ第十一號書式ノ試可申請書ヲ專賣局長官ニ提出シ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リアルコール製造ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第十一號書式ノ許可證ヲ交付ス

第六條乃至第八條、第十一條乃至第十四條、第十八條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十四條及第二十九條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケアルコールヲ製造スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 アルコール製造者ハ第十二號書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製造ニ關スル事實ヲ記載スベシ

第二十三條 當該官吏ハ隨時アルコール製造場ニ臨ミアルコール、原料、製造用機械、器具、容器、帳簿又ハ書類ヲ検査スベシ

第二十四條 當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハアルコール、酒母、膠其ノ他ノ半製品、原料又ハ製造用機械、器具容器ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條 アルコール專賣法第三十二條ノ規定ニ依リアルコール製造ノ委託ヲ受ケントスル者ハ第三號書式ニ準ジ委託申請書ニ製造場毎ニ調製シタル敷地建物ノ詳細ナル圖面、製造用機械、器具、容器ノ目錄及アルコール製造方法書各二通ヲ添ヘ之ヲ專賣局長官ニ提出スベシ

第六條乃至第八條、第十三條、第十四條、第十八條、第二十二條乃至第二十四條及第二十九條ノ規定ハ委託ヲ受ケアルコールノ製造ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條第一項ノ規定ニ違反シ申告ヲ爲サズシテ製造用機械、器具、容器ヲ新設又ハ變更シタルトキ

二 第二十二條ノ規定ニ違反シ帳簿ヲ調製セズ又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二十七條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條第一項ノ規定ニ違反シ申告ヲ爲サズシテ製造場若ハ蔵置場ノ模様替ヲ爲シ又ハ敷地ヲ變更シタルトキ

二 第十四條ノ規定ニ違反シ當該官吏ノ承認ヲ受ケズシテ製造用機械、器具、容器及原料ヲ製造場ヨリ移出シタルトキ

三 第二十條ノ規定ニ違反シ地方專賣局長ノ承認ヲ受ケズシテアルコールノ處理ヲ爲シタルトキ

四 第二十九條ノ規定ニ違反シ當該官吏ノ承認ヲ受ケズシテ酒母又ハ膠ヲ處分シタルトキ

第二十八條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條第三項ノ規定ニ違反シ、檢定前ニ製造用機械、器具、容器ヲ使用シタルトキ

二 第十五條ノ規定ニ違反シ検査ヲ受ケズシテ原料ヲ使用シタルトキ



- 三 第十六條ノ規定ニ違反シ承認ヲ受ケズシテ酒母、膠又ハアルコールヲ他ノ容器ニ移替ヘタルトキ
- 四 第十六條ノ規定ニ違反シ承認ヲ受ケズシテ製造場内ニアルコールヲ移入シタルトキ
- 第二十九條 アルコール製造者其ノ製造ノ特許ヲ取消サレ又ハ其ノ業務ヲ廢止シタルトキ製造場又ハ藏置場ニ現存スル酒母又ハ膠ハ該當官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ處分スベシ但シ第十二條ニ該當スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三十條 アルコール專賣法第四十二條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ所得稅法又ハ營業收益稅法ノ規定ニ依ル所得又ハ純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ
- 前項ノ場合ニ於テ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ
- 第三十一條 アルコールノ製造業ヲ承繼シタル者ハ其ノ事業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

## 附 則

- 第三十二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三十三條 昭和十二年度ニ適用スベキアルコールノ賠償價格ハ其ノ年四月ニ於テ之ヲ定メ告示ス

## 人造石油製造事業法

(昭和十二年八月十日 法律第五十二號)

- 第一條 本法ハ液体燃料ノ供給ヲ確保スル爲人遺石油製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス
- 第二條 人造石油製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ
- 前項ノ人造石油製造事業ノ範圍及許可ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 前條許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上取締役ノ半數以上、資本ノ

半數以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(人造石油製造會社)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

人造石油製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第五條 人造石油製造會社ノ營ム人造石油製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第六條 人造石油製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間内人造石油製造會社ニハ其ノ事業ニ對シ又ハ其ノ事業ニ屬スル資本金額、從業者若ハ加工ノ用ニ供スル器具、機械類、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

第八條 人造石油製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ七年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第九條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル人造石油ニ付獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテ其ノ金額ヲ返還セシム

前條ノ規定ニ依リ返還並ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十一條 人造石油製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 人造石油製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第一百條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ社價ヲ募集スルコトヲ得但シ社價ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ



最終ノ貸借対照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ構成ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル計價ニ付キテハ工場抵當法ニ依リ會社ノ專業ニ關スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府ガ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 人造石油製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ  
政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 人造石油製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ人造石油製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第十五條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ販賣價格ノ變更其ノ他販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ改善ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府軍用上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ製造ニ關スル特殊設備ノ施設其ノ他軍用上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 人造石油製造會社ハ其ノ所有スル人造石油ヲ政府ガ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條 政府第二條ノ處分又ハ第十六條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲サントスルトキハ液体燃料委員會ノ議ヲ經ベシ  
液体燃料委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 人造石油製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ事業ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其職務ヲ行フ監督役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ人造石油製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 人造石油製造會社第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 人造石油製造會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタルトキ

二 第十三條第二項ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

四 第十五條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十五條第三項ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十五條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依リ職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ之ヲ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 人造石油製造會社ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ



付テハ此ノ限ニ在ラズ

## 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十三年勅令第四十號ヲ以テ同年一月二十五日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限り命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得第十五條第一項第三項、第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營ム者之ヲ準用ス

石油業法第八條第一項中「石油業委員會」ヲ「液体燃料委員會」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

## 人造石油製造事業法施行規則

(昭和十三年一月二十四日 商工省令第一號)

改正 昭和十三年十月二十六日商工省令第九十一號

- 第一條 人造石油製造事業法第二條ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 一 工場ノ名稱及位置
  - 二 製造設備及製造能力
  - 三 主要製品ノ種類

人造石油製造事業法施行令第一條第二項ノ規定ニ該當スル事業ヲ營ム場合ニ於テハ前項第二號及第三號ニ掲グル事項ハ其ノ事業ニ付之ヲ區別シテ記載スベシ

第二條 前條ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

- 一 事業開始ノ豫定期間ヲ記載シタル書類
  - 二 製造工程ヲ記載シタル書類
  - 三 人造石油製造事業法施行令第一條第二項ノ規定ニ該當スル事業ヲ營ム場合ニ於テハ事業ノ關聯ヲ明ニスル書類
  - 四 原料ノ使用數量及其ノ取得方法ヲ記載シタル書類
  - 五 製造設備及重要附屬設備ノ設計ノ概要ヲ記載シタル書類(設計圖ヲ添附スベシ)
  - 六 工事費算書
  - 七 事業資金ノ總額及其ノ調達方法ヲ記載シタル書類
  - 八 製造及販賣ノ豫定計畫書
  - 九 事業收支目録見書
  - 十 定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿
  - 十一 人造石油製造事業法第三條第一項第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類
  - 十二 人造石油製造事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載シタル書類
- 第三條 第一條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ
- 第四條 人造石油製造會社其ノ事業ヲ開始シタルトキハ運轉ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ
- 第五條 人造石油製造事業法施行令第五條ノ物品ハ左ニ掲グルモノトス
- 一 摺炭機、粉碎機、捏和機及煉炭機並ニ其ノ附屬裝置
  - 二 コークス爐(低溫乾溜爐ヲ含ム)及瓦斯發生爐ノ構成材料及附屬裝置
  - 三 硫安回收裝置及ベンゾール回收裝置並ニ其ノ附屬機械
  - 四 瓦斯清淨裝置、瓦斯調整裝置及瓦斯變換裝置並ニ其ノ附屬機械



- 五 壓縮機、送風機、壓送機、及ポンプ並ニ其ノ附屬裝置
  - 六 水素添加用ノ高壓器具及高壓機械並ニ其ノ附屬裝置
  - 七 合成爐及其ノ附屬裝置
  - 八 燐煤並ニ其ノ製造ニ直接必要ナル原料及材料
  - 九 燐煤ノ製造ニ必要ナル器具及機械
  - 十 吸收裝置及其ノ附屬機械
  - 十一 吸收劑並ニ其ノ製造ニ必要ナル器具及機械
  - 十二 石油又ハタール分解裝置及瓦斯重合裝置並ニ其ノ附屬機械
  - 十三 石油又ハタール精製裝置及其ノ附屬機械
  - 十四 前各號ニ掲グル機械又ハ裝置ノ部分品並ニ其ノ機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置
- 第六條 人造石油製造事業法第八條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 一 輸入セントスル物品ノ品名型式、能力、性質數量及價格
  - 二 輸入セントスル物品ノ用途及之ヲ使用スベキ工場其ノ他ノ設備ノ説明
  - 三 輸入ヲ必要トスル事由
  - 四 製造者及輸出者
  - 五 輸入豫定ノ時期及港
- 前項第五號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ
- 第七條 人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ輸入ヲ爲シタル會社ハ輸入後運滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届出書ニ輸入認可書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 輸入シタル物品ノ品名及數量
  - 二 輸入ノ年月日及港
- 第八條 人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ運滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届出書ニ輸入認可書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 一 輸入シタル物品ノ品名、數量及用途
  - 二 使用工場名及使用時期
  - 三 輸入ノ年月日及港
- 人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ目的タル用途ニ供セザルニ至リタルトキハ運滞ナク其ノ事由並ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ヲ記載シタル届出書ニ輸入認可書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 第九條 人造石油製造事業法施行令第七條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ニ輸入認可書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 一 用途ヲ變更セントスル物品ノ品名、數量及用途
  - 二 變更セントスル用途及當該物品ヲ使用スベキ工場其ノ他ノ設備ノ説明
  - 三 用途ノ變更ヲ必要トスル事由
  - 四 輸入ノ年月日及港
- 第十條 人造石油製造事業法施行令第九條第一項ノ人造石油ハ左ニ掲グルモノトス
- 一 第一種人造石油日本標準規格第七十四號石油製品試験方法第六條分溜試験ニ依ル九十五パーセント溜出溫度攝氏二百二十五度以下ノ人造石油
  - 二 第二種人造石油第一種人造石油以外ノ製品タル人造石油
- 人造石油製造事業法施行令第九條第二項ノ奨勵金ノ額ハ商工大臣之ヲ告示ス



第十一條 人造石油製造事業法第九條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル會社ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十二條 人造石油製造事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル會社ハ原料及材料ノ取得及使用製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他ノ事業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

第十三條 人造石油製造事業法第十一條ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 増加スベキ資本ノ總額及第一回拂込ノ金額
- 二 資本増加ノ方法
- 三 資本増加ヲ必要トスル事由

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

- 一 事業擴張ニ關スル説明書
- 二 増加スベキ資本ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
- 三 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
- 四 會社ノ資本及拂込ミタル株主總會ノ登記抄本
- 五 最終ノ貸借對照表

第十四條 人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 社債ノ總額
- 二 社債ノ利率
- 三 社債募集ヲ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分ケテ發行セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

二 社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ認可申請書ニ第一項各號ニ掲グル事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記スベシ

第十五條 前條ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

- 一 社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類（工事費計算書ヲ添附スベシ）
- 二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
- 三 會社ノ資本及拂込ミタル株主總會ノ登記抄本
- 四 最終ノ貸借對照表
- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本
- 六 信託證書案

七 工場抵當法ニ依リ抵當トナスベキ物件ノ目錄

八 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最後ノ財産目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

前條第一項ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第十二條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ前條ノ認可申請書ニ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類並ニ社債發行ノ條件及社債募集ノ方法ニ關スル説明書ヲ添附スベシ

第十六條 人造石油製造事業法第十二條第一項ノ認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第十七條 人造石油製造會社ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可申請書ヲ商



丁大臣ニ提出スベシ

第十八條 人造石油製造會社ノ事業計畫認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 事業計畫ノ概要
- 二 設備ノ擴張又ハ變更計畫
- 三 操業計畫ノ概要
- 四 販賣計畫
- 五 製造數量及販賣數量並ニ年始及年末在庫數量
- 六 原料ノ取得計畫
- 七 原料ノ使用數量並ニ年始及年末在庫數量
- 八 收支豫算

第十九條 人造石油製造事業法第十四條第一項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ讓渡ノ許可ヲ受ケストル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 讓渡スベキ事業ノ範圍
  - 二 讓渡ノ價格及時期
  - 三 讓渡ヲ必要トスル事由
- 讓渡スベキ事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ許可申請書ニ讓受ケントスル會社連署スベシ
- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 讓渡契約ヲ證スル書類
  - 二 讓渡價格算定ノ基礎ヲ明ニスル書類

三 讓渡スベキ事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ讓受ケントスル會社ニ付第二條各號ニ掲グル書類

第二十條 人造石油製造事業ノ讓渡終了シタルトキハ讓渡シタル會社ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

讓渡シタル事業ガ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ届出書ニ讓受ケタル會社連署スベシ

第二十一條 人造石油製造會社其ノ事業ノ廢止又ハ三月以上ノ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及休止ノ期間ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

人造石油製造會社三月未満ノ事業ノ休止ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

人造石油製造會社休止シタル事業ヲ再び開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第二十二條 人造石油製造事業法第十四條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書ニ當事者タル會社連署ノ上之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 合併ノ方法及條件
  - 二 合併ノ時期
  - 三 合併ヲ必要トスル事由
  - 四 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一項各號ニ掲グル事項
- 前條ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 合併契約ヲ證スル書類
  - 二 合併條件決定ノ基礎ヲ明ニスル書類
  - 三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一號乃至第九號及第十二號ニ掲グル書類並ニ定款
  - 四 合併ノ當事者タル會社ノ商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル財産目錄及貸借對照表



五 合併ノ相手ガ人造石油製造會社ニ非ザル會社ナルトキハ其ノ定款登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿

第二十三條 人造石油製造會社ノ合併終了シタルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ届出書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 登記簿ノ謄本

二 株主名簿

三 人造石油製造事業法第三條第一項第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類

第二十四條 人造石油製造事業法第十四條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ解散ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル認可申請書ニ解散ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本ヲ添付シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十五條 人造石油製造會社ハ毎年二月末日迄ニ其ノ前年ノ營業ノ概況、作業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ記載シタル事業年報ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十六條 人造石油製造會社ハ營業期毎ニ株主總會終始後遲滞ナク財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書類及株主名簿ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十七條 人造石油製造會社ハ毎月十五日迄ニ其ノ前月ノ原料使用數量並ニ製品ノ種類、製造數量、販賣數量及月末在庫數量ヲ記載シタル事業月報ヲ商工大臣ニ提出スベシ

人造石油製造會社ハ前項ノ事業月報ノ提出ト同時ニ人造石油製造事業法第三條第一項第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書類ヲ提出スベシ

第二十八條 人造石油製造事業法第十五條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第二十九條 第一條乃至第四條及第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ依リ人造石油製造會社ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ人造石油製

造工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

## 附 則

第三十條 本則ハ人造石油製造事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 本則施行ノ際現ニ人造石油製造事業法施行令第一條第一項各號ニ掲グル事業ヲ營ム者ニシテ本則施行後二月以内ニ第一條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ記載シタル届出書ヲ商工大臣ニ提出セザルモノハ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ届出書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

一 第二條第二號乃至第五號第八號及第十二號ニ掲グル書類

二 法人ニ在リテハ定款、組合ニ在リテハ契約書

三 事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル書類

四 本則施行前一年間ニ於ケル原料ノ使用數量ヲ記載シタル書類

五 本則施行前一年間ニ於ケル製造數量販賣數量及販賣價額ヲ記載シタル書類

六 最近一年間ノ收支計算書（法人ニ在リテハ最近ノ二營業期ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書類）

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ商工大臣ニ届出スベキ書類ハ人造石油製造工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

第三十三條 第二十五條、第二十六條及第二十七條第一項ノ規定ハ人造石油製造事業法附則第二項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營

ム者ニ之ヲ準用ス



表面

第 號 年 月 日交付

人造石油製造事業法第十五條第三項ノ證書

官職

氏

商工省印  
名

本證書用紙ノ  
寸法ハ日本標  
準規格第九十  
二號B列八番  
(64mm X 51  
mm)  
ニ依ルモノト  
ス

裏面

人造石油製造事業法摘要

第十五條第三項 政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證書ヲ携帯セシムベシ

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

附則 第二項本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限り命令ノ定ムル所ニ依リ第一條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

附則 第三項第十五條第一項第三項、第二十四條第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

### 人造石油製造事業法施行令

(昭和十三年一月二十四日 勅令第四十一號)

第一條 人造石油製造事業法第二條ノ人造製造事業ハ左ニ掲グル事業トス

一、石炭、亞炭又ハタールヲ原料トスル水素添加事業ニシテ人造石油ノ製造能力一ノ工場ニ付一年一萬キロリットル以上ノモノ

二、ガスヲ原料トスル石油合成事業ニシテ人造石油ノ製造能力一ノ工場ニ付一年天然ガスノミヲ原料トスルモノニ在リテハ千キロリットル以、其ノ他ノモノニ在リテハ一萬キロリットル以上ノモノ

三、石炭又ハ亞炭ノ低溫乾溜事業ニシテ原料炭處理能力一ノ工場ニ付一年十萬噸以上ノモノ

前項各號ノ一ニ該當スル事業ヲ營ム會社ガ其ノ事業ニ關聯シ同一工場ニ於テ他ノ前項各號ニ掲グル種類ノ事業ニシテ其ノ能力ガ前項各號ニ規定スル能力ニ達セザルモノヲ營ムトキハ之ヲ當該事業ノ一部ト看做ス

第二條 人造石油製造事業法第二條ノ許可ハ人造石油製造工場毎ニ且前條第一項各號ノ事業別ニ之ヲ爲スモノトス

第三條 商工大臣ハ石油ノ需要供給ヲ總勘シ人造石油製造事業ノ健全ナル發達ニ支障アリト認ムルトキハ人造石油製造事業法第二條ノ許可ヲ爲サザルコトヲ得

第四條 人造石油製造事業法第六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケントスル會社ハ所得稅法第二十四條又ハ營業收益稅法第十一條ノ規定ニ依リ所得又ハ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ所得稅及營業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ間ノ所得又ハ純益トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第五條 人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ器具、機械又ハ材料ハ商工大臣ノ定ムル物品ニシテ據メ商工大臣ノ認可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

第六條 人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケントスル會社ハ輸入申告書ニ前條ノ認可ヲ受ケタルコトヲ證スル



書類ヲ添附スベシ

輸入申告ハ人造石油製造會社ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第七條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ人造石油製造事業法第八條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ他ノ用途ニ供セントスル場合ニ於テハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨税關ニ申告スルコトヲ要ス

第八條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ輸入ノ日ヨリ三年以内ニ目的タル用途又ハ前條ノ規定ニ依ル他ノ用途ニ供セザルトキハ其ノ輸入税ヲ追徴ス但シ己ムヲ得ザル事由ニ依リ其ノ期間ノ延長ニ付商工大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨税關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 人造石油製造事業法第九條ノ獎勵金ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ヲ以テ定ムル人造石油ニ付之ヲ交付ス  
獎勵金ノ額ハ人造石油ノ市價及生産費ヲ標準トシ相當利益ヲ參酌シテ商工大臣毎年之ヲ定ム

第十條 商工大臣人造石油製造事業法第十六條ノ命令ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ命令ガ軍事上ニ影響ヲ及ボスベキモノナルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

第十一條 陸軍大臣又ハ海軍大臣人造石油製造事業法第十七條ノ命令ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ニ協議スベシ

第十二條 政府ハ軍事上其他公益ト緊急ノ必要アルトキハ人造石油製造事業法第十八條ノ規定ニ依リ人造石油製造會社ノ所有スル人造石油ヲ購入スルコトヲ得

第十三條 本令中商工大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官トス

附 則

本令ハ人造石油製造事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

人造石油製造事業法施行中改正ノ件

(昭和十五年三月三十一日 勅令第百六十五號)

人造石油製造事業法施行令中左ノ通改正ス

第三條ノ二 人造石油製造事業法第六條第二項ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額及積立金額ノ月間平均ヲ以テ之ヲ計算ス  
前項ニ於テ積立トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人税及臨時利得税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ人造石油製造事業法第六條第 一ノ規定ニ依リ法人税及營業税ノ免除ヲ受クル事業ト其ノ他ノ事業トヲ營ム法人ノ資本金額ヲ總資産價額ニ對スル當該人造石油製造事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計算ス前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金ノ割合又ハ所得若ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條ノ四 人造石油製造事業法第六條第二項ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第四條中「所得税又ハ營業收益税」ヲ「法人税又ハ營業税」ニ「所得税法第二十四條又ハ營業收益税法第十一條」ヲ「法人税法第十八條又ハ營業税法第十五條」ニ「所得税及營業收益税」ヲ「法人税及營業税」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十五年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和十三年一月二十四日公布 勅令第四十一號人造石油製造事業法施行令抄錄

第四條 人造石油製造事業法第六條ノ規定ニ依リ所得税又ハ營業收益税ノ免除ヲ受ケントスル會社ハ所得税法第二十四條又ハ營業收益税法第十一條ノ規定ニ依リ所得又ハ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ所得税及營業收益税ノ免除ヲ受クベキ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ



# 帝國燃料興業株式會社法

(昭和十二年八月十日公布 法律第五十三號)

## 第一章 總 則

- 第一條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石油製造事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス
- 第二條 帝國燃料興業株式會社ノ資本ハ一億圓トシ内五千萬圓ハ政府ノ出資トス
- 帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得
- 第三條 帝國燃料興業株式會社ハ株金金額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得
- 第四條 帝國燃料興業株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得
- 第五條 帝國燃料興業株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ帝國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得
- 第六條 帝國燃料興業株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第七條 帝國燃料興業株式會社ニ非ザルモノハ帝國燃料興業株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ
- ### 第二章 役 員
- 第八條 帝國燃料興業株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク
- 第九條 總裁ハ帝國燃料興業株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
- 副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ業務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
- 副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ分掌ス監事ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監査ス
- 第十條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス
- 理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ内ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ハ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラ

### 第三章 營 業

第十二條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石油製造事業ニ對スル投資ヲ爲スモノトス

帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外人造石油ノ製造又ハ販賣其ノ他ノ本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

### 第四章 燃 料 興 業 債 券

第十三條 帝國燃料興業株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得

燃料興業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九號ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十四條 燃料興業債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ燃料興業債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 燃料興業債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十七條 燃料興業債券ノ所有者ハ帝國燃料興業株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先立チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十八條 帝國燃料興業株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊燃料興業債券ヲ償還スベシ

### 第五章 準 備 金

第十九條 帝國燃料興業株式會社ハ毎營業年度ニ準備並トシテ資本ノ次項ヲ補フ爲利益並額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益並額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

### 第六章 監 督 及 助 成

第二十條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監督ス



第二十一條 帝國燃料興業株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第二十三條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ監督ト又ハ人造石油製造事業ノ振興上其他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ帝國燃料興業株式會社監督官ヲ置キ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 帝國燃料興業株式會社監督官ハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

帝國燃料興業株式會社管理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

帝國燃料興業株式會社監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條 政府帝國燃料興業株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第三十條 帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ在リテハ年百分ノ四、第四營業年度以降ニ在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ第十營業年度迄ニ之ヲ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ第四營業年度以降每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル燃料興業債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ  
每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第十營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給並ニ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ每營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條 帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超ユリ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條 帝國燃料興業株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間帝國燃料興業株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

## 第七章 罰 則

第三十四條 帝國燃料興業株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一、本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二、第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三、第十三條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ヲ發行シタルトキ

四、第十八條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五、第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ



第三十五條 帝國燃料興業株式會社ノ總裁、副總裁及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス  
第三十六條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス  
第三十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十九條 政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國燃料興業株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム  
第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ  
第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル残りノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ  
第四十二條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ  
第四十三條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ  
第四十四條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後運滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ運滞ナク創立總會ヲ召集スベシ  
第四十五條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ  
第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國燃料興業株式會社總裁ニ引渡スベシ  
第四十七條 登録税法第六條第一項第十一號中「又ハ東北興業債券」ヲ「東北興業債券又ハ燃料興業債券」ニ改ム  
帝國燃料興業株式會社法施行期日ノ件  
(昭和十二年九月十六日 勅令第五百號)  
帝國燃料興業株式會社法ハ昭和十二年九月十八日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第五百五十號關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ礦油ニ關スル件廢止ノ件  
(昭和十二年八月十日 勅令第四百十六號)

附 則

大正九年勅令第五百五十號ハ之ヲ廢止ス  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前從前ノ關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
關稅定率法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ礦油ノ件廢止  
(昭和十二年八月十一日 商工省令第十一號)

附 則

大正九年農商務省令第四十一號ハ之ヲ廢止ス  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前從前ノ關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル礦油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
(參考) 大正九年十一月二十六日農商務省令第四十一號ハ關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ礦油ニ關スル件ナリ



# 石油業法

(昭和九年三月二十八日 法律第二十六號)

改正 昭和十二年八月十日法律第五十二號

第一條 石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ石油精製業及石油輸入業ノ範圍並ニ許可ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 石油精製業又ハ石油輸入業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム會社併ヲ爲シ又ハ解散セントスルトキハ亦同ジ

第四條 石油ノ輸入ハ石油精製業者ガ其ノ精製ニ必要ナル石油ヲ輸入スル場合ヲ除クノ外石油輸入業者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ勅令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ石油ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ノ輸入數量ヲ標準トシテ算定シタル數量ノ石油ヲ常時保有スベシ

第六條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ其ノ所有スル石油ヲ政府ガ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

石油需給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第八條 政府第一條ノ許可又ハ前條ノ命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外液体燃料委員會ノ議ヲ經ベシ

第九條 石油精製業者又ハ石油輸入業者本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ政府ノ命ジタル事項ヲ執行セザルトキハ政府ハ

第一條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十條 行政官廳ハ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ其ノ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十一條 政府ノ許可ヲ受ケズシテ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二、第七條ノ命令ニ違反シタルトキ

第十四條 石油精製業者又ハ石油輸入業者第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第十條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ監督上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二、第十條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十六條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ未成年者又ハ禁煙者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

同ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ



附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和九年勅令第九十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)  
本法施行ノ際現ニ石油精製業ヲ營ム者又ハ石油輸入業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス本法施行ノ際輸入ノ爲輸送ノ途ニ在ル石油又ハ本法施行前注文ヲ發シタル石油ヲ輸入セントスル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ届出デタルトキハ第四條ノ規定ニ拘ラズ輸入ヲ爲スコトヲ得  
第五條ノ規定ハ本法施行後六月間之ヲ適用セズ

石油業法施行令

(昭和九年六月二十七日 勅令第九十六號)

改正 昭和十三年一月二十二日勅令第四十三號

改正 昭和十三年十一月二十四日勅令第七百三十三號

第一條 石油業法第一條ノ石油精製業ハ鑛物性ノ原料油(含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然ガスヲ含ム)ヨリ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油又ハ重油ヲ精製スル事業トス但シ石炭、亞炭若ハオイルシエールヨリ製造シタル原料油又ハガスノ合成ニ依リ製造シタル原料油ヨリ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油又ハ重油ヲ精製スル事業ヲ除ク  
石油業法第一條ノ石油輸入業ハ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油、重油又ハ原油ヲ輸入スル事業トス  
第二條 石油業法第一條ノ石油精製工場毎ニ之ヲ爲スモノトス  
輸入シタル原料油ノ精製工場ハ揮發油ヲ精製スルモノニ在リテハ一基ニ付一年五萬キロリットル以上ノ原料油處理能力ヲ有スル直溜裝置及一基ニ付一年二萬五千キロリットル以上ノ原料油處理能力ヲ有スル分解蒸溜裝置ヲ、揮發油ヲ精製セザルモノニ在リテハ一基ニ付一年二萬五千キロリットル以上ノ原料油處理能力ヲ有スル直溜裝置ヲ備フルコトヲ要ス  
第三條 商工大臣ハ石油ノ需要供給ヲ參酌シ石油業ノ健全ナル發達ニ支障アリト認ムルトキハ石油業法第一條ノ石油精製業又ハ石油輸入業ノ許可ヲ爲サザルコトヲ得

入業ノ許可ヲ爲サザルコトヲ得

第四條 石油業法第四條ノ規定ニ依リ石油輸入業者ニ非ザレバ輸入ヲ爲スコトヲ得ザル石油ノ種類ハ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油、重油及原油トシ同條ノ規定ニ依リ石油精製業者ノ輸入ヲ爲スコトヲ得ル石油ノ種類ハ鑛物性ノ重油及原油トス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル石油ヲ輸入スル場合ニ於テハ其ノ輸入者ハ石油輸入業者タルコトヲ要セズ

一、政府ノ輸入ニ係ル石油

二、見本、標本又ハ旅客ノ携帶品タル石油

三、船用品、航空機ノ機用品又ハ自動車ノ車用品タル石油

第六條 石油業法第五條ノ規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ハ輸入シタル鑛物性ノ揮發油、重油又ハ原油、(石炭、亞炭又ハオイルシエールヨリ製造シタル揮發油及重油並ニガスノ合成ニ依リ製造シタル揮發油及重油ヲ除ク)トシ其ノ保有スベキ數量ハ種別毎ニ一年間ニ輸入シタル數量ノ二分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ但シ石油業法第六條ノ規定ニ依リ石油ヲ購入シ、同法第七條ノ規定ニ依リ石油ノ需給ヲ調節スルタメ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ天災事變其ノ他ヤムコトヲ得ザル事由アリタルニ因リ其ノ保有數量ガ保有スベキ數量ヲ下リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ保有スベキ數量ノ計算方法及前項但書ノ場合ニ於テ保有スベキ數量ニ充タザル數量ノ補充方法並ニ石油精製業者若ハ石油輸入業者ガ其事業ヲ讓渡シ又ハ石油精製業若ハ石油輸入業ヲ營ム會社合併ヲ爲シタル場合ノ保有ニ關シ必要ナル事項ハ商工大臣之ヲ定ム  
第七條 石油業法第五條ノ規定ニ依ル石油ノ保有ハ命令ヲ以テ定ムル容量以上ノ石油タンクニ依リ之ヲ爲スベシ但シ商工大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

陸軍大臣、海軍大臣又ハ商工大臣軍事上其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ石油ノ保有ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條 政府ハ軍事上其ノ他公益上緊急ノ必要アルトキハ石油業法第六條ノ規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ所有スル石油ヲ購入スルコトヲ得

前項ノ石油ノ購入ニ付テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得



第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣軍事上必要アリト認メ石油業法第七條ノ命令又ハ第七條第二項ノ指定ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ニ協議スベシ

商工大臣石油業法第七條ノ命令又ハ第七條第二項ノ指定ヲ爲サントスル場合ニ於テ其ノ命令又ハ指定ガ軍事上ニ影響ヲ及ボスベキモノナルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

第十條 本令中商工大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、台灣ニ在リテハ台灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官トス

### 附 則

本令ハ石油業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和九年七月一日ヨリ施行)

石油精製業ヲ營ム者ニシテ石油業法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做サレタルモノニ付テハ本令施行後十年間第二項ノ規定ヲ適用セズ

## 石油業法施行規則

(昭和九年六月二十七日 商工省令第十六號)

改正 昭和十三年十二月二十五日商工省令第四百四號

第一條 石油精製業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一、精製工場ノ名稱及所在地
  - 二、精製設備及精製能力
  - 三、貯藏設備及貯藏能力並ニ貯藏設備ノ所在地
  - 四、原料油ノ種類及產地
  - 五、主要製品ノ種類
  - 六、事業開始ノ豫定期
- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

- 一、精製ノ方法
  - 二、原料油ノ取得方法
  - 三、工事計畫ノ概要 (設計圖ヲ添附スベシ)
  - 四、工事費豫算
  - 五、事業資金ノ總額及其ノ調達方法
  - 六、生産及販賣ノ豫定計畫
  - 七、事業收入ノ見込
  - 八、法人ニ在リテハ其ノ定款、組合ニ在リテハ其ノ組合同約
- 第二條 石油輸入業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一、營業所又ハ事務所ノ名稱及所在地
  - 二、石油ノ種類及產地
  - 三、輸入港
  - 四、貯藏設備及貯藏能力並ニ貯藏設備ノ所在地
  - 五、事業開始ノ豫定期
- 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ
- 一、輸入方法
  - 二、輸入及販賣ノ豫定計畫
  - 三、前條第二項第三號乃至第五號、第七號及第八號ニ掲グル事項

第三條 第一條第一項各號及前條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ商工大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可



申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第五條 石油精製業ノ事業計畫認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一、事業計畫ノ概要
- 二、精製設備及貯藏設備ノ改良計畫
- 三、操業計畫ノ概要
- 四、原料油又ハ燃料用重油ノ輸入數量
- 五、原料油及燃料用重油ノ使用數量並ニ年始及年末在庫數量
- 六、生産數量及販賣數量並ニ年始及年末在庫數量
- 七、收支豫算

第六條 石油輸入業ノ事業計畫認可申請書ニハ在ノ事項ヲ記載スベシ

- 一、事業計畫ノ概要
- 二、貯藏設備ノ改良計畫
- 三、輸入數量
- 四、販賣數量並ニ年始年末在庫數量
- 五、收支豫算

第七條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ運滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第八條 石油精製業者又ハ石油輸入業者石油ヲ輸入セントスルトキハ其ノ部度其ノ種類、種別、數量、價格、積出港、輸入港、積載船名及輸入ノ年月日ヲ豫メ商工大臣ニ届出ヅベシ但シ石油業法施行令第五條ニ掲グル石油ヲ輸入セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎月十五日迄ニ前月中ノ石油ノ購入又ハ輸入數量、處理數量、生産數量、販賣數量及月末在庫數量ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎年二月末日迄ニ其ノ前年ノ營業ノ概況、作業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ商工大臣ニ報告スベシ

第十一條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎年營業期經過後運滯ナク財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十二條 石油精製業者又ハ石油輸入業ノ讓渡ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ讓渡ノ價格及時期並ニ讓渡スベキ精製設備又ハ貯藏設備ヲ記載シ當事者連署ノ上之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一、讓渡契約

二、讓渡人又ハ讓受人ガ會社ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル社員總會ノ決議録ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本

三、讓受人ガ法人ナル場合ニ於テハ其ノ定款、組合ナル場合ニ於テハ其ノ組合規約

讓渡終了シタルトキハ當事者連署ノ上運滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十三條 前條ノ規定ハ石油精製業者又ハ石油輸入業ヲ營ム會社ノ合併ニ付之ヲ準用ス

第十四條 石油精製業者又ハ石油輸入業ヲ營ム會社ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スベシ

第十五條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ノ廢止又ハ六月以上ノ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及休止ノ期間ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

石油精製業者ハ石油輸入業者六月末滿ノ事業ノ休止ヲ爲シタルトキハ運滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

石油精製業者又ハ石油輸入業者休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ運滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十六條 石油業法施行令第六條ノ規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ハ左ノ數量トス



一、四月一日ヨリ九月三十日迄（前期保有期間）ハ前年ノ一月一日ヨリ十二月三十一日迄（前期引取期間）ノ間ニ税關ノ免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル數量ノ二分ノ一以上ニ相當スル數量

二、十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄（後期保有期間）ハ前年ノ七月一日ヨリ其ノ年ノ六月三十日迄（後期引取期間）ノ間ニ税關ノ免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル數量ノ二分ノ一以上ニ相當スル數量

石油業法施行令第五條ニ掲グル石油ノ數量ハ前項ノ税關ノ免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル數量ノ計算ニ付之ヲ算入セズ

第十七條 石油業法施行令第六條ノ規定ニヨリ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ハ左ノ種別ニ從ヒ前條ノ引取期間内ニ其ノ者ノ引取リタル礦物性ノ揮發油、重油若ハ原油又ハ之ト同等以上ノ品質ヲ有スルモノトス

一、揮發油

第一種 攝氏十五度ニ於ケル比重〇、七四二八ヲ超エザルモノ

第二種 攝氏十五度ニ於ケル比重〇、七四二八ヲ超エ〇、八〇一七ヲ超エザルモノ

二、重油及原油

高溫蒸溜法ニ依リ攝氏二百七十五度ニ至ル間ニ於テ蒸溜スル液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率

第一種 四十ヲ超ユルモノ

第二種 四十ヲ超エザルモノ

第十八條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ每保有期間開始ノ二月前迄ニ當該保有期間中保有スベキ石油ノ種類及數量、石油ノ保有ノ場所並ニ石油タンクノ容量及基數ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ届出ヲ爲シタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 石油業法施行令第七條ノ石油タンクノ容量ハ一基ニ付原油及重油ニ在リテハ千キロリットル以上揮發油ニ在リテハ第一種百キロリットル以上、第二種ハ五百キロリットル以上トス

第二十條 石油精製業者又ハ石油輸入業者前條ノ容量未滿ノ石油タンクニ依リ石油ノ保有ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由、保有スベキ石油ノ種別數量、石油ノ保有ノ場所並ニ石油タンクノ容量及基數ヲ具シ申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

石油精製業者又ハ石油輸入業者石油タンクニ依ル保有以外ノ方法ニ依リ石油ノ保有ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由、保有スベキ石油ノ種別及數量並ニ石油ノ保有ノ方法及場所ヲ具シ許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第二十一條 石油業法施行令第六條第一項但書ニ掲グル事由アリタルニ因リ石油ノ保有量ガ保有スベキ數量ヲ下リタルトキハ遲滞ナク其ノ事由及状況並ニ減少シタル數量ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ三月以内ニ其ノ保有スベキ數量ニ充タザル數量ヲ補充スベシ

商工大臣己ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十二條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ノ全部ヲ讓渡シタルトキハ讓渡人ノ輸入シタル石油ハ讓受人ノ保有スベキ石油ノ計算ニ付之ヲ讓受人ノ輸入シタル石油ト看做ス石油精製業者又ハ石油輸入業者ヲ營ム會社合併ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二十三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ石油ノ保有ノ場所毎ニ帳簿ヲ備ヘ毎日左ノ事項ヲ記載シ其ノ寫ヲ毎月取纏メ其ノ翌月十日迄ニ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一、搬入數量

二、搬出數量

三、保有量

第二十四條 石油業法第十條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第二十五條 第一條、第三條、第七條、第十二條及第十五條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ石油精製工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（鑛業法ノ適用ヲ受タル石油精製工場ニ在リテハ其ノ工場ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長以下之ニ同ジ）ヲ經由スベシ第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

第二條、第三條、第七條及第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ石油輸入業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所ノ所在地



ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

### 附 則

第二十六條 本則ハ石油業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和九年七月一日ヨリ施行)

第二十七條 本則施行ノ際現ニ石油精製業ヲ營ム者ハ本則施行後一月以内ニ左ノ事項ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

一、第一條第一項第一號乃至第五號ニ掲グル事項

二、第一條第二項第一號、第二號、第六號及第八號ニ掲グル事項

三、事業ヲ開始シタル時期

四、本則施行前一年間ニ於ケル原油料及燃料用重油ノ使用數量及輸入數量

五、本則施行前一年間ニ於ケル生産數量及販賣數量並ニ販賣價格

六、本則施行ノ日ニ於ケル石油ノ貯藏數量並ニ貯藏ノ場所及方法

七、最近一年間ノ收支決算 (法人ニ在リテハ最近ノ二營業期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面)

第二十八條 本則施行ノ際現ニ石油事業ヲ營ム者ハ本則施行後二月以内ニ左ノ事項ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

一、第二條第一項第一號乃至第四號ニ掲グル事項

二、第二條第二項第一號及第二號並ニ第一條第二項第八號ニ掲グル事項

三、事業ヲ開始シタル時期

四、本則施行前一年間ニ於ケル石油ノ輸入數量及輸入價格

五、本則施行前一年間ニ於ケル石油ノ販賣數量及販賣價格

六、本則施行ノ日ニ於ケル石油ノ貯藏數量並ニ貯藏ノ場所及方法

七、最近一年間ノ收支決算 (法人ニ在リテハ最近ノ二營業期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面)

第二十九條 本則施行ノ際現ニ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム者ハ石油精製業者在リテハ昭和九年七月一日ヨリ十二月三十一日迄

ノ期間ニ於ケル石油ノ生産、輸入及販賣ノ數量並ニ輸入及販賣ノ價格ヲ、石油輸入業者ニ在リテハ同期間ニ於ケル石油ノ輸入及販賣ノ數量及價額ヲ本則施行後一月以内ニ商工大臣ニ届出ツベシ此ノ場合ニ於テ商工大臣必要アリト認ムルトキハ届出ヲ爲シタル生産、輸入又ハ販賣ノ數量ヲ變更シテ其ノ届出ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル事項ニ付テハ事事計畫ヲ認可アリタルモノト看做ス

第三十條 本則施行ノ際現ニ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム者前第三條ノ届出ヲ怠リタルトキハ石油業法附則第二項ノ規定ニ依ル許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第二十七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル場合ニ於テ第二十七條第一項第一號又ハ第二十八條第一項第一號ニ掲グル事項ハ之ヲ石油業法第一條ノ規定ニ依リ石油精製業又ハ石油輸入業ノ許可ヲ受ケタル者ノ許可申請書ニ記載シタル事項ト看做ス

第三十一條 本則施行ノ際現ニ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム者ノ保有スベキ石油ノ數量ニ關スル第十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行前稅關ノ免許又ハ免許ヲ得テ引取リタル石油ハ之ヲ除外ス

第三十二條 石油業法附則第三項ノ規定ニ依リ本則施行ノ際輸入ノ爲輸送ノ途ニ在ル石油又ハ本則施行前注文ヲ發シタル石油ヲ輸入セシトスル者ハ本則施行後 月以内ニ其ノ種類、種別、數量、價額、輸入港、積出港、積載貯名並ニ積出及輸入ノ年月日又ハ注文ヲ發シタル年月日ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第三十三條 第二十七條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ石油精製工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

第二十八條ノ規定ニ依リ石油輸入業者ヨリ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ



別式様式  
表面

第 號	年 月 日	交付
石油業法第十條第二項ノ規定ニ依ル證票		
官職	氏	商工省印 名

横六〇糶 縦八・五糶

裏面

石油業法摘要

第十條第二項 行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ事務所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第十條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

### 石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル件

(昭和十年九月十九日 勅令第二百七十二號)

石油精製業者ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ニ付テハ昭和十一年六月三十日迄石油業法施行令第六條第一項本文ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ニ關スル件

(昭和十年九月十九日 商工省令第五號)

昭和十年勅令第二百七十二號ノ規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ハ石油業法施行規則第十七條ノ種別毎ニ同則第十六條及第三十一條ノ規定ニ依ル昭和十年前期保有期間ニ於テ保有スベキ數量ニ相當スル數量迄下ルコトヲ得石油精製業者又ハ石油輸入業者即項ノ規定ニ依リ其ノ保有スベキ數量ヲ減少セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ昭和十年勅令第二百七十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和十年十月一日ヨリ施行)

### 石油保有補助金交付規則

(昭和十一年七月十三日 商工省令第七號)

第一條 商工大臣ハ石油ノ保有ニ因ル負擔ヲ軽減スル爲石油業法第五條ノ規定ニ依リ石油ヲ保有シタル石油精製業者又ハ石油輸入業者



ニ對シ本則ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ石油業法施行規則第十六條ノ規定ニ依ル保有スベキ石油ノ最低數量ノ二分ノ一ノ數量ニ付之ヲ交付ス

第三條 補助金ノ額ハ石油業法施行規則第十七條ノ種別ニ從ヒ各石油一キロリットルニ付保有ニ要スル費用ヲ標準トシテ毎年商工大臣之ヲ定ム

前項ノ補助金ノ額ハ商工大臣之ヲ告示ス

第四條 石油業法第六條ノ規定ニ依リ石油ヲ購入シ、同法第七條ノ規定ニ依リ石油ノ需給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ジ又ハ天災事變其ノ他己ムコトヲ得ザル事由アリタルニ因リ保有量ガ保有スベキ數量ヲ下リタル場合ニ於テモ商工大臣ハ補助金ヲ交付スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ交付スベキ補助金ノ額ハ其ノ都度商工大臣之ヲ定ム

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ保有シタル石油ノ種別及數量ヲ具シ補助金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ補助金交付申請書ハ四月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ノ保有ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ノ保有ニ付テハ十月十五日迄ニ、十月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ノ保有ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ、一月一日ヨリ三月三十一日迄ノ間ノ保有ニ付テハ四月十五日迄ニ之ヲ提出スベシ

第六條 詐欺其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキハ商工大臣ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

## 附 則

本則ハ昭和十一年四月一日以後ノ石油ノ保有ニ付之ヲ適用ス

昭和十一年四月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ノ石油保有ニ對スル補助金ハ昭和十年商工省令第五號第二項ノ減少ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ當該期間ニ於ケル保有スベキ石油ノ最低數量ノ中石油業法施行規則第十六條ノ規定ニ依ル最低數量ノ二分ノ一ノ數量ヲ超ユル數

量ニ付之ヲ交付ス

昭和十一年四月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ノ石油保有ニ對スル補助金交付申請書ノ提出期間ハ第五條第二項ノ規定ニ拘ラズ昭和十一年七月三十一日迄トス

## 石油業法ヲ朝鮮、台灣及樺太ニ施行スルノ件

(昭和九年六月二十七日 勅令第百九十八號)

石油業法ハ第八條ノ規定ヲ除キ之ヲ朝鮮、台灣及樺太ニ施行ス

## 附 則

本令ハ昭和九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 石油業法施行規則

(昭和九年六月三十日 朝鮮總督府令第六十八號)

第一條 石油精製業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一、精製工場ノ名稱及所在地

二、精製設備及精製能力

三、貯藏設備及貯藏能力並ニ貯藏設備ノ所在地

四、原料油ノ種類及產地

五、主要製品ノ種類

六、事業開始ノ豫定期

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

一、精製ノ方法

二、原料油ノ取得方法



- 三、工場及設備ノ工事計畫ノ概要（設計圖ヲ添附スベシ）
  - 四、工場及設備ノ工事費豫算
  - 五、事業資金ノ總額及其ノ調達法
  - 六、生産及販賣ノ豫定計畫
  - 七、事業收支ノ見込
  - 八、法人ニ在リテハ其ノ定款、組合ニ在リテハ其ノ組合契約
- 第二條 石油輸入業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
- 一、營業所又ハ事務所ノ名稱及所在地
  - 二、石油ノ種類及産地
  - 三、輸入地
  - 四、貯蔵設備及貯蔵能力並ニ貯蔵設備ノ所在地
  - 五、事業開始ノ豫定期
- 前條ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ
- 一、輸入方法
  - 二、輸入及販賣ノ豫定計畫
  - 三、前項第二項第三號乃至第五號、第七號及第八號ニ掲グル事項
- 第三條 第一條第一項各號及前條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ
- 第四條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ前年九月三十日迄ニ認可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
- 第五條 石油精製業者ノ事業計畫認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一、事業計畫ノ概要
  - 二、精製設備及貯蔵設備ノ改良計畫
  - 三、換算計畫ノ概要
  - 四、原料油又ハ燃料用重油ノ輸入數量
  - 五、原料油及燃料用重油ノ使用數量並ニ年始及年末ノ在庫數量
  - 六、生産數量及販賣數量並ニ年始年末ノ在庫數量
  - 七、收支豫算
- 第六條 石油輸入業者ノ事業計畫認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一、事業計畫ノ概要
  - 二、貯蔵設備ノ改良計畫
  - 三、輸入數量
  - 四、販賣數量並ニ年始及年末ノ在庫數量
  - 五、收支豫算
- 第七條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ十四日以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
- 第八條 石油精製業者又ハ石油輸入業者石油ヲ輸入セントスルトキハ其ノ都度其ノ種類、種別、數量、價格、積出地、輸入地、積載貯名（汽車ニ依ル場合ニ在リテハ列車番號）及輸入ノ年月日ヲ豫メ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ石油業法施行令第五條ニ掲クル石油ヲ輸入セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎月十五日迄ニ前月中ノ石油ノ購入又ハ輸入數量、處理數量、販賣數量及月末在庫數量ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
- 第十條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎年二月末日迄ニ其ノ前年ノ營業ノ概況、作業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ朝鮮總督



ニ報告スヘシ

第十一條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ毎營業期經過後三月内ニ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十二條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ譲渡ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ譲渡ノ價格及時期並ニ譲渡スヘキ精製設備又ハ貯藏設備ヲ記載シ當事者連署ノ上之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、譲渡契約書

二、譲渡人又ハ譲受人ガ會社ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル株主總會ノ決議書又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル社員總會ノ決議書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本

三、譲受人ガ法人ナル場合ニ於テハソノ定款、組合ナル場合ニ於テハ其ノ組合契約書

譲渡終了シタルトキハ當事者連署ノ上十四日以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十三條 前條ノ規定ハ石油精製業者又ハ石油輸入業者ヲ營ム會社ノ合併ニ付之ヲ準用ス

第十四條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ヲ營ム會社ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且ツ解散ニ關スル株主總會ノ決議書又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十五條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ノ廢止又ハ六月以上ノ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハソノ事由及休止ノ期間ヲ記載シタル許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

石油精製業者又ハ石油輸入業者六月未満ノ事業ノ休止ヲ爲シタルトキハ十四日以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ  
石油精製業者又ハ石油輸入業者休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ十四日以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十六條 石油業法施行令第六條ノ規定ニ依リ石油業者又ハ石油輸入業者ノ保有スヘキ石油ノ數量ハ左ノ數量トス

一、四月一日ヨリ九月三十日迄(前期保有期間)ハ前年ノ一月一日ヨリ十二月三十一日迄(前期引取期間)ノ間ニ税關ノ免許又ハ認

許ヲ得テ引取リタル數量ノ二分ノ一以上ニ相當スル數量

二、十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄(後期保有期間)ハ前年ノ七月一日ヨリ其ノ年ノ六月三十日迄(後期引取期間)ノ間ニ税關ノ

免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル數量ノ二分ノ一以上ニ相當スル數量

石油業法施行令第五條第一號乃至第三號ニ掲グル石油ノ數量ハ前項ノ税關ノ免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル數量ノ計算ニ付之ヲ算入セズ

第十七條 石油業法施行令第六條ノ規定ニ依リ石油精製業者ノ保有スヘキ石油ハ左ノ種別ニ從ヒ前條ノ引取期間内ニ其ノ者ノ引取リタル礦物性ノ揮發油、重油若ハ原油又ハ之ト同等以上ノ品質ヲ有スルモノトス

一、揮發油

第一種 露氏十五度ノ時ニ於ケル比重〇、七四二八ヲ超エサルモノ

第二種 露氏十五度ノ時ニ於ケル比重〇、七四二八ヲ超エ〇、八〇一七ヲ超エサルモノ

二、重油及原油

測定蒸溜法ニ依リ露氏二百七十五度ニ至ル間ニ於テ蒸溜スル液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率

第一種 四十七ヲ超ユルモノ

第二種 四十七ヲ超エザルモノ

第十八條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ每保有期間開始ノ二月前迄ニ當該保有期間中保有スヘキ石油ノ種類及數量、石油ノ保有ノ場所並ニ石油タンクノ容量及基數ヲ朝鮮總督ニ届出ツベシ届出ヲ爲シタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 石油業法施行令第七條第一項ノ石油タンクノ容量ハ一基ニ付原油及重油ニ在リテハ千キロトツトル以上、揮發油ニ在リテハ

第一種八百キロトツトル以上、第二種五百キロトツトル以上トス

第二十條 石油精製業者又ハ石油輸入業者前條ノ容量未満ノ石油タンクニ依リ石油ノ保有ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由、保有スヘキ石油ノ種別及數量、石油ノ保有ノ場所並ニ石油タンクノ容量及基數ヲ具シ許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ



石油精製業者又ハ石油輸入業者石油タンクニ依ル保有以外ノ方法ニ依リ石油ノ保有ヲ爲サントストキハ其ノ事由、保有スベキ石油ノ種別及數量並ニ保有ノ方法及場所ヲ具シ許可申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第二十一條 石油業法施行令第六條第一項但書ニ掲グル事由ニ因リ石油ノ保有量ガ第十六條ノ規定ニ依リ保有スベキ數量ヲ下リタルトキハ十四日以内ニ其ノ事由及状況並ニ減少シタル數量ヲ朝鮮總督ニ届出ヅベシ  
前項ノ場合ニ於テ石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ三月内ニ其ノ保有スベキ數量ニ充タサル數量ヲ補充スベシ

朝鮮總督已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十二條 石油精製業者又ハ石油輸入業者其ノ事業ノ全部ヲ讓渡シタルトキハ讓渡人ノ輸入シタル石油ハ讓受人ノ保有スベキ石油ノ計算ニ付之ヲ讓受人ノ輸入シタルモノト算做ス石油精製業者又ハ石油輸入業者又ハ石油輸入業者ヲ營ム會社併ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第二十三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ石油ノ保有ノ場所毎ニ帳簿ヲ備ヘ毎日左ノ事項ヲ記載シ其ノ寫ヲ毎月取纏メ其ノ翌月十日迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一、搬入數量

二、搬出數量

三、保有量

第二十四條 石油業法第十條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第二十五條 第一條、第三條、第七條、第十二條及第十五條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ石油精製工場ノ所在地ヲ管轄スル道知事ヲ經由スベシ

第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ朝鮮總督ニ提出スベキ書類並ニ第二條、第三條、第七條及第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依ル石油輸入業者ヨリ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル道知事ヲ經由スベシ

## 附 則

第二十六條 本令ハ昭和九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 本令施行ノ際現ニ石油精製業者ヲ營ム者ハ本令施行後二月内ニ左ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ヅベシ

一、第一條第一項第一號乃至第五號ニ掲グル事項

二、第一條第二項第一號、第二號、第六號及第八號ニ掲グル事項

三、事業ヲ開始シタル時期

四、本令施行前一年間ニ於ケル原料油及燃料用重油ノ使用數量及輸入數量

五、本令施行前一年間ニ於ケル生産數量及販賣數量並ニ販賣價格

六、本令施行ノ日ニ於ケル石油ノ貯藏數量並ニ貯藏ノ場所及方法

七、最近一年間ノ收支決算（法人ニ在リテ最近ノ二營業期ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面）

第二十八條 本令施行ノ際現ニ石油輸入業者ヲ營ム者ハ本令施行後二月内ニ在リテハ左ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ヅベシ

一、第二條第一項第一號乃至第四號ニ掲グル事項

二、第二條第二項第一號及第二號並ニ第一條第二項第八號ニ掲グル事項

三、事業ヲ開始シタル時期

四、本令施行前一年間ニ於ケル石油ノ輸入數量及輸入價格

五、本令施行前一年間ニ於ケル石油ノ販賣數量及販賣價格

六、本令施行ノ日ニ於ケル石油ノ貯藏數量並ニ貯藏ノ場所及方法

七、最近一年間ノ收支決算（法人ニ在リテハ最近ノ二營業期ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面）

第二十九條 本令施行ノ際現ニ石油精製業者又ハ石油輸入業者ヲ營ム者ハ石油精製業者ニ在リテハ昭和九年七月一日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ期間ニ於ケル石油ノ生産、輸入及販賣ノ數量並ニ輸入及販賣ノ價格ヲ、石油輸入業者ニアリテハ同期間ニ於ケル石油ノ輸入及



販賣ノ數量及價格ヲ本令施行後一月内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ届出ヲ爲シタル生産輸入又ハ販賣ノ數量ヲ變更シテ其ノ届出ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル事項ニ付テハ事業計畫ノ認可アリタルモノト看做ス

第三十條 本令施行ノ際現ニ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム者前二條ノ届出ヲ怠リタルトキハ石油業法附則第二項ノ規定ニ依ル許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第二十七條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ第二十七條第一項第一號又ハ第二十八條第一項第一號ニ掲クル事項ハ之ヲ石油業法第一條ノ規定ニ依リ石油精製業又ハ石油輸入業ノ許可ヲ受ケタル者ノ許可申請書ニ記載シタル事項ト看做ス

第三十一條 本令施行ノ際現ニ石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム者ノ保行スヘキ石油ノ數量ニ關スル第十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令施行前稅關ノ免許又ハ認許ヲ得テ引取リタル石油ハ之ヲ除外ス

第三十二條 石油業法附則第三項ノ規定ニ依リ石油ヲ輸入セントスル者ハ本令施行後一月内ニ其ノ種類、種別、數量、價格、輸入地、積出地、積載船名(汽車ニ依ル場合ニ在リテハ列車番號)並ニ積出及輸入ノ年月日又ハ注文ヲ發シタル年月日ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三十三條 第二十七條ノ規定ニ依リ石油精製業者ヨリ朝鮮總督ニ提出スヘキ書類ハ石油精製工場ノ所在地ヲ管轄スル道知事ヲ經由スヘシ

第二十八條ノ規定ニ依リ石油輸入業者ヨリ朝鮮總督ニ提出スヘキ書類ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル道知事ヲ經由スヘシ

別記様式

第 號 年 月 日 交付

石油業法第十條第二項ノ規定ニ依ル證書

朝鮮總督府印	官職氏名
--------	------

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ事務所、所屬事務所、工場、貯油所其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス體票ヲ携帯セシムベシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二、第十條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ照會ノ陳述ヲ爲シタル者

第九セシチメートル、横十二セシチメートルシ中央線ノトコロヨリ二ツ折トナヌ



石油業法施行令第六條ノ特例ニ關スル件ノ規定ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ保有スベキ石油ノ數量ニ關スル件

(昭和十年九月二十八日 朝鮮總督府令第百一十一號)

石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ豫メ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ保有スベキ石油ノ數量ヲ石油業法施行規則第十七條ノ種別毎ニ同令第十六條及第三十一條ノ規定ニ依リ昭和十年前期保有期間ニ於テ保有スベキ數量ニ相當スル數量迄減少スルコトヲ得

附 則

昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

石油保有補助金交付規則

(昭和十一年八月十日 朝鮮總督府令第七十四號)

第一條 朝鮮總督ハ石油ノ保有ニ因ル負擔ヲ軽減スル爲石油業法第五條ノ規定ニ依リ石油ヲ保有シタル石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ本令ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ石油業法施行規則第十六條ノ規定ニ依ル保有スベキ石油ノ最低數量ノ二分ノ一ノ數量ニ付之ヲ交付ス

第三條 補助金ノ額ハ石油業法施行規則第十七條ノ種別ニ從ヒ各石油一キロリットルニ付保有ニ要スル費用ヲ標準トシテ毎年朝鮮總督之ヲ定ム

前項ノ補助金ノ額ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第四條 石油業法第六條ノ規定ニ依リ石油ヲ購入シ、同法第七條ノ規定ニ依リ石油ノ需給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ天災事變其ノ他ヤムコトヲ得サル事由アリタルニ因リ保有量ガ保有スベキ數量ヲ下リタル場合ニ於テモ朝鮮總督ハ補助金ヲ交付スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ交付スベキ補助金ノ額ハ其ノ都度朝鮮總督之ヲ定ム

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ保有シタル石油ノ種別及數量ヲ具シ補助金交付申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

前項ノ補助金交付申請書ハ四月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ノ保有ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ノ保有ニ付テハ十月十五日迄ニ、十月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ノ保有ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ、一月一日ヨリ三月三十一日迄ノ間ノ保有ニ付テハ四月十五日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第六條 詐欺其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキハ朝鮮總督ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルベシ

附 則

本令ハ昭和十一年四月一日以後ノ石油ノ保有ニ付之ヲ適用ス

昭和十一年四月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ノ石油保有ニ對スル補助金交付申請書ノ提出期間ハ第五條第二項ノ規定ニ拘ラス昭和十一年八月二十日迄トス

液体燃料委員會官制

(昭和十三年一月二十二日 勅令第四十二號)

第一條 液体燃料委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ石油業法第八條及人造石油製造事業法第十九條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外關係大臣ノ諮問ニ應ジ液体燃料ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

委員會ハ液体燃料ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 石油業法第七條ノ命令ニシテ軍事上機密ヲ要スルモノニ付テハ液体燃料委員ノ議ニ附セザルコトヲ得

第三條 委員會ハ會長一人及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス



前項定員外ノ必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一、關係各關高等官

二、學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨グズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 委員會ニ書記ヲ置ク商工大臣之ヲ命ズ書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

### 附 則

本令ハ人造石油事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス石油業委員會官制ハ之ヲ廢止ス

## 石油資源開發法

(昭和十三年三月二十八日 法律第三十一號 昭和十三年八月一日施行)

第一條 石油ヲ目的トスル鑛業業者(以下石油鑛業業者ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ツベシ之ヲ變更セントストキ亦同ジ政府鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ石油鑛業業者ニ對シ試掘助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依リ試掘ノ結果開發セラレタル油出ヨリ採油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ採油開始後五年

間毎年採油價額ノ百分ノ二以内ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ油田ノ地域及深度ハ政府之ヲ指定ス

第四條 前條第二項ノ指定ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ第二條ノ試掘助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

第六條 第三條ノ規定ニ依リ納付金及前條ノ規定ニ依リ返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ

國稅ニ次グモノトス

第七條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業業者ニ對シ其ノ鑛區ノ開發方法其ノ他必要ナル事項ニ付他ノ石油鑛業業者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

石油鑛業業者他ノ石油鑛業業者ノ鑛區ト隣接スル自己ノ鑛區ノ境界線ヨリ五十メートル以内ノ地域ニ於テ採掘ヲ爲サントストキハ鑛利保護上必要ナル事項ニ付豫メ隣接鑛區ノ石油鑛業業者ト協議ヲ爲スベシ

政府石油資源ノ開發促進上又ハ鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ前二項ノ協議ニヨリ決定ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業業者ニ對シ試掘又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府前項ノ規定ニヨリ試掘ヲ命ズタルトキハ第二條ノ試掘助成金ヲ交付ス

第九條 政府軍用上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニヨリ石油鑛業業者ニ對シ採油ノ制限又ハ増加ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ命令ノ定ムル所ニヨリ前項ノ規定ニヨリ生ジタル損失ヲ補償ス

第十條 政府ハ石油鑛業業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿簿類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ石油鑛業業者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得



第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第七條第一項ノ規定ニ依ル協議ヲ爲サズ又ハ協議調ハザル以前ニ探掘ヲ爲シタル者

二、第七條ノ決定ニ基カズ又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ決定ヲ變更セズシテ試掘又ハ探掘ヲ爲シタル者

三、第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四、第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第一條第一項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出テタル事業計畫ヲ實施セザル者

二、第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二、第十條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三、第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十一條、第十二條又ハ前條第一項若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ刑ヲ科ス

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 石油資源開發法施行規則

(昭和十三年七月三十日 商工省令第七十二號)

第一條 石油鑛業者ハ鑛山毎ニ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ年ノ二月末日迄ニ之ヲ商工大臣ニ

届出ヅベシ

前項ノ事業計畫ハ石油ヲ目的トスル鑛業權ヲ取得シタル年ニ在リテハ其ノ取得ノ日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ニ付之ヲ定メ其ノ取得ノ日ヨリ三十日以内ニ商工大臣ニ届出ヅベシ

第二條 事業計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一、試掘及探掘計畫ノ概要

二、原油又ハ天然瓦斯ノ採取見込量及其ノ處分方法

三、事業ニ要スル資材、技術員及傭夫ノ充足計畫ノ概要

四、收支豫算及事業資金ノ調達方法

第三條 石油鑛業者廢坑又ハ過水ノ作業ヲ爲サントスルトキハ作業案ヲ具シ其ノ作業ニ着手前之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第四條 鑛井中出油又ハ瓦斯ノ噴出アリタルトキハ石油鑛業者ハ運搬ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ鑛利ヲ損スルノ虞アル出水アルト

キ亦同ジ

第五條 石油鑛業者ハ鑛山毎ニ毎月ノ試掘及探掘狀況並ニ坑井別採油狀況ヲ翌月十五日迄ニ商工大臣ニ届出ヅベシ

第六條 試掘助成金ハ商工大臣ノ指定スル地域ニ於テ指定スル深度ノ試掘ヲ爲ス石油鑛業者ニ對シ商工大臣其ノ試掘計畫ヲ適當ト認ム

ル場合ニ於テ之ヲ交付ス

試掘助成金ハ掘鑿助成金及機械助成金トス

第一號ノ地域及深度ハ商工大臣之ヲ告示ス

第七條 掘鑿助成金ノ額ハ左ノ各號ニ該當スル金額ヲ限度トシ但シ商工大臣崩壊性地質其ノ他ノ事由ニ由リ特ニ多額ノ掘鑿費ヲ要スル

モノトハ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ掘鑿助成金ノ限度ハ機械助成金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ第一號ニ在リテハ一メートルニ付九圓以内、第二號ニ在リテハ

一メートルニ付七圓以内ヲ減ジタル額トス



掘鑿助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者第十條ノ認可ヲ受ケ豫定ノ掘止深度ニ達スル前ニ試掘ヲ廢止シタル場合ニ於テ商工大臣必要アリト認ムルトキハ掘鑿助成金ハ第一號ノ限度ヲ超エ之ヲ交付スルコトヲ得

第八條 掘鑿助成金ハ掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケントスル者試掘ヲ爲ス爲ニ鑿井機械、構、構並具、原動機、ポンプ、坑用鐵管又ハ其ノ附屬品ヲ購入スル場合ニ於テ之ヲ交付ス

掘鑿助成金ノ額ハ左ノ各號ニ該當スル金額ヲ限度トス

一、石油資源開發法第八條ノ規定ニ依ル場合

購入費ノ全額

二、其ノ他ノ場合

購入費ノ三分ノ二ノ額

第九條 掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル試掘計畫書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一、試掘セントスル鑛區ノ所在地及登錄番號

二、鑿井地點

三、掘止深度

四、鑿井方法

五、鑿井ノ著手及終了時期

六、主任技術者及主任鑿井手ノ氏名及履歷

掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ前項ノ試掘計畫書ノ外機械購入費明細書ヲ添附スベシ

第十條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者試掘計畫書ヲ變更セントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ試掘ニ着手シタル日ヨリ試掘日誌ヲ作り試掘作業ニ關スル狀況ヲ記入シ其ノ寫ヲ一週間毎ニ取調メ帶週中ニ商工大臣ニ提出スベシ

第十二條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケタル機械又ハ其ノ附屬品ヲ試掘計畫書ニ定ムル深度ノ試掘ヲ了ル前又ハ之ヲ了リタル後五年以内ニ處分セントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者營業權ヲ移轉シ承繼人ニ於テ第九條ノ試掘計畫書ニ定ムル試掘ヲ繼續セントスルトキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

相續ニ因リ試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ノ營業權ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十四條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ試掘助成金交付ノ指令ヲ取消シ、試掘助成金ノ額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル試掘助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルヒトアルベシ

一、試掘計畫書ニ定ムル深度ノ試掘ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキ

二、第十條ノ規定ニ違反シ試掘計畫書ヲ變更シタルトキ

三、石油資源開發法第八條第一項ノ命令ニ違反シタルトキ

四、石油資源開發法第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタルトキ

五、第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

六、石油資源開發法第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

七、第十二條ノ規定ニ違反シ機械又ハ其ノ附屬品ヲ處分シタルトキ

八、試掘助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

第十五條 石油資源開發法第三條第一項ノ規定ニ依ル納付金ハ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル地域及深度ノ油出ニ於テ採油ヲ爲ス者ノ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ總採油量ヲ其ノ坑井數(無出油井ヲ含ム)ヲ以テ除シタル量(一井當採油量)ガ左ニ掲グル採油量ニ達シタル場合ニ限り之ヲ納付セシム

油田ノ深度五百メートル以下ノトキ

二〇〇軒

油田ノ深度五百メートルヲ超ユルトキ

四四〇軒

油田ノ深度千メートルヲ超ユルトキ

七〇〇軒

油田ノ深度千五百メートルヲ超ユルトキ

一、二〇〇軒



油田ノ深度二千メートルヲ超ユルトキ 一、七五〇坪

第十六條 前條ノ納付金ノ額ハ探油價額ニ左ノ率ヲ乗ジタルモノトス

探油價額ハ商工大臣ノ檢定シタル原油ノ價格ニヨル

第十七條 石油資源開發法第七條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依ル協議調ヒタルトキハ關係石油鑛業者ハ連署ノ上運滯ナク其ノ決定事項ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ關係石油鑛業者ハ理由ヲ具シ運滯ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十八條 石油資源開發法第七條第四項ノ決定ニハ理由ヲ附ス

決定書ノ原本ハ之ヲ關係石油鑛業者ニ交付ス

第十九條 本則ノ規定ニヨリ商工大臣ニ提出スル書類ハ鑛區ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經油スベシ

### 附 則

本則ハ石油資源開發法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス石油試掘獎勵金交付規則ハ之ヲ廢止ス石油試掘獎勵金交付規則ニ依リ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ニ關シテハ仍同則ニヨル

石油試掘獎勵金交付規則第二條ノ規定ニヨリ爲シタル昭和十三年四月商工省告示第百十七號ハ第六條第三項ノ規定ニヨリ之ヲ爲シタルモノト看做ス

石油試掘獎勵金交付規則第三條ノ規定ニヨリ爲シタル申請ハ第九條ノ規定ニヨリ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本則施行ノ際現ニ石油鑛業者タル者ハ鑛山毎ニ昭和十三年八月一日ヨリ同十四年三月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ本則施行後一月以内ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

### 一 「ロータリー」式ニ依リ掘鑿スル場合

深 度	掘 鑿 助 成 金	其ノ他ノ場 合
六百メートル以下ノ部分	一メートルニ付 五十四圓	一メートルニ付 三十六圓
六百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 六十九圓	一メートルニ付 四十六圓
千メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 九十一圓五十錢	一メートルニ付 六十一圓
千五百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百三十圓五十錢	一メートルニ付 八十七圓
二千メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百九十圓五十錢	一メートルニ付 百二十七圓

### 二 網式又ハ可撻式ニ依リ掘鑿スル場合

深 度	掘 鑿 助 成 金	其ノ他ノ場 合
三百メートル以下ノ部分	一メートルニ付 三十六圓	一メートルニ付 二十四圓
三百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 七十七圓四十錢	一メートルニ付 五十一圓六十錢
六百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百二十一圓五十錢	一メートルニ付 八十一圓
九百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百七十一圓九十錢	一メートルニ付 百十四圓六十錢



油田ノ深度	一井當採油量	掘鑿助成金及機械助成金ノ交付ヲ受ケタル者	掘鑿助成金ノミニ交付ヲ受ケタル者	試掘助成金ノ交付ヲ受ケザル者
五百メートル以下ノトキ	二〇〇坪以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一〇、六八	百分ノ二
五百メートルヲ超ユルトキ	四四〇坪以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一〇、六八	百分ノ二
千メートルヲ超ユルトキ	七〇〇坪以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一〇、六八	百分ノ二
千五百メートルヲ超ユルトキ	一、四〇〇坪以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一〇、六八	百分ノ二
二千メートルヲ超ユルトキ	二、七五〇坪以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一〇、六八	百分ノ二

### 滿洲油化工業株式會社法公布

(昭和十三年二月)

二月十五日ノ參議府會議ヲ通過シタ滿洲油化工業株式會社法ハ同月十七日勅令ヲ以テ左ノ如ク公布即日施行サレタ

### 滿洲油化工業株式會社法

(昭和十三年二月十七日勅令)

- 第一條 政府ハ液体燃料製造工業ノ確立ヲ圖ル爲メ滿洲油化工業株式會社ヲ設立セシム
- 第二條 會社ハ低溫乾留水素添加法ニ依ル液体燃料ノ製造及副産物ノ加工ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トス  
會社ハ産業部大臣認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得
- 第三條 會社ノ資本金額ハ二千萬圓トシ内一千万圓ハ政府ノ出資トス
- 第四條 會社ノ株式ハ記名式トシ一株ノ金額ハ五十圓トス
- 第五條 會社ノ株式ハ會社ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ
- 第六條 會社ハ産業部大臣ノ認可ヲ受ケ拂込資本金額ノ二倍ヲ限り社債ヲ募集スルコトヲ得
- 第七條 會社ニ理事長一人、理事五人以内及監事三人以内ヲ置ク
- 第八條 理事長ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス理事長事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ  
理事ハ理事長ヲ補佐シ會社ノ業務ヲ掌理ス監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス
- 第九條 理事長、理事及監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス
- 第十條 理事長及理事ノ任期ハ四年、監事ノ任期ハ三年トス
- 第十一條 理事長及常務ニ從事スル理事ハ産業部大臣ノ認可ヲ受タルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ
- 第十二條 會社ハ創立後康徳八年三月三十日ニ終了スル營業年度ヲ限り毎營業年度決算期ニ於テ各株式ノ第一回拂込金額ニ對シ配當ス



ベキ利益金が年六分ノ割合ニ達セザル場合ニ於テハ政府持株及定款ヲ以テ定ムル株式以外ノ株式ニ對シ其ノ第一回拂込金額ニ付母六分ノ割合ノ配當ヲ爲ス迄ハ政府持株及定款ヲ以テ定ムル株式ニ對シ配當ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條 會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ豫メ之ヲ主管部大臣ニ提出スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條 理事長 理事及監事ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集並ニ合併及解散ノ決議ハ産業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバソノ効ヲ生ゼズ

第十四條 會社ハ産業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ重要財産ヲ他人ニ讓渡シ又ハコレヲ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

第十五條 會社ハ産業部大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバソノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止スルコトヲ得ズ

第十六條 産業部大臣ハ會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條 産業部大臣ハ會社ノ決議方法若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハソノ決議ヲ取消スコトヲ得、産業部大臣ハ會社ノ理事長 理事又ハ監事ノ行爲若ハ法令定款若ハ本法ニ依ル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 産業部大臣本法ニ基ク處分ヲ爲サントスルトキハ經濟部大臣ト協議スベシ

## 附 則

第十九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 政府ハ設立委員ヲ命ジ會社ノ設立ニ關スル一切ノ業務ヲ處理セシム

第二十一條 設立委員ハ定款ヲ作成シ産業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 株式總數ノ引受アリタルトキハ設立委員ハ運籌ナク株金ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員會運籌ナク創立總會ヲ召集スベシ

前項ノ場合ニ於テハ會社法第八十七條第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十三條 設立委員ハ會社ノ設立登記ヲ爲シ運籌ナクソノ事務ヲ理事長ニ引渡スベシ

## 瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則

第一條 商工大臣ハ瓦斯發生爐ノ設置ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

前項ノ瓦斯發生爐ノ型式及種類ハ別ニ定ムル試験ニ合格シタルモノニ限ル

第二條 獎勵金ハ瓦斯發生爐（之ト共ニ設置スル附屬裝置ヲ含ム以下同ジ）ヲ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ設置スル場合ニ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ノ所有者ニ對シ之ヲ交付ス

第三條 獎勵金ノ額ハ瓦斯發生爐一基ニ付其ノ設置ニ要シタル費用ノ半額以内ニシテ三百圓ヲ限度トス

第四條 獎勵金ノ交付ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ左掲グル事項ヲ記載シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一、瓦斯發生爐ヲ設置スル車輛ノ種類及用途

二、瓦斯發生爐ノ型式及種類並ニ其ノ製作者ノ氏名及住所

三、瓦斯發生爐ノ取附方法

四、瓦斯發生爐ニ使用スル燃料ノ種類

五、瓦斯發生爐設置ニ要スル費用ノ豫算及交付ヲ受ケントスル獎勵金ノ額

第五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者瓦斯發生爐ヲ設置シタルトキハ商工大臣ニ獎勵金交付ノ申請書ヲ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ瓦斯發生爐ノ設置ニ要シタル費用ニ關スル概算書及瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ付テハ監督官廳、自動車ニ付テハ主タル使用地ヲ管轄スル地方長官 東京府ニ在リテハ警視總監）ノ瓦斯發生爐ヲ設置シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二年間商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ設置シタル瓦斯發生爐ヲ讓渡シ、取外シ若ハ其ノ使用ヲ廢止シ又ハ之ヲ設置シタル車輛ヲ讓渡スコトヲ得ズ

前項ノ讓渡ノ許可ノ申請ハ讓受人ト連署ノト之ヲ爲スベシ

第七條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ瓦斯發生爐ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀



況ヲ検査スルコトヲ得

第八條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ノ金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一、本則又ハ本則ニ基キ命ジタル事項ニ違反シタルトキ

二、獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三、詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタルトキ

四、設置費ノ決算額ガ豫算額ト著シク相違スルトキ

第九條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ瓦斯機關車又ハ瓦斯自動車ニ付テハ鐵道又ハ軌道ヲ敷設シタル地（二府縣以上ニ亙リ敷設セル鐵道又ハ軌道ニ在リテハ其ノ起點所在地）ヲ管轄スル地方長官ヲ、自動車ニ付テハ主タル使用地ヲ管轄スル地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ヲ經由スベシ

### 附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 軍需用揮發油、重油取得方法統一

（一四燃規第四〇一二號 昭和十四年九月二十日）

### 陸 軍

一、陸軍々用品タル自動車用燃料（自動車用揮發油及ビ同デイズル油）ハ陸軍兵器本廠ニオイテ直接供給會社（配給機構整備ノ上ハ石油共販株式會社ヨリ購入ノ豫定）ヨリ統一取得スルヲ原則トス

二、各部隊ガ地方販賣業者ヨリ購入スル場合ハ必ズ陸軍省發行ノ別紙様式第一ノ自動車燃料購入證ヲ以テ購入スルニツキ右購入證明書ナキモノハ揮發油及重油販賣取締規則第二條ニ謂フ軍用品トシテ取扱ハザルコト

三、部隊ニ於テ部外ノ自動車ヲ使用シタル場合之ニ要スル燃料ハ軍ヨリ交付セズ、但シ燃料ヲ交付スベキコトヲ條件トシテ一定期間軍ノ用途ニ使用シタル場合ハ所要量ヨリ民需トシテノ配當量ヲ控除シタル量ヲ現品ヲ以テ交付スルコトヲ得コノ際現品ノ交付ニ換フルニ購入證ノ交付ヲ以テスルコトヲ得ズ

四、軍用自動車検査法ニ基ク検査受檢ノタメ軍用自動車検査法施行令第三條ニヨル販賣ヲ交付シタル場合ハ本販賣（燃料代金）ニ應ズル燃料ニ對シ又部外工場ニ設クシタル車輛類ノ運行検査ヲ行フ場合運行検査車輛用燃料ニ對シ配給證（別紙様式第二）ヲ受檢者又ハ受檢部外工場ニ交付シ購入セシム

五、軍需關係賣材輸送其他必要緊切ニシテ止ムヲ得ザルモノニ對シテハ優先配給要望書ヲ發行スルコトアリ此ノ場合ニオイテハ發行擔任官ハ陸軍省整備局資源課長トス

右發行擔任官ノ發行シタル優先配給要望書アルモノニ限り各地方廳ニ於テ適當ニ考慮シ一般ノ購買券ヲ交付スルモノトス（右發行擔任官以下ノ發行シタル優先配給要望書ニ對シテハ全然考慮ノ要ナキハ勿論トス）

### 海 軍

一、海軍々需用トシテ揮發油及重油ヲ民間ヨリ購入セントスル場合ハ主管部局發行ノ軍需配給證明書ヲ以テ購入セシムルニ付右軍需配



給證明書無キモノハ揮發油及ビ重油販賣取締規則第二條ニ謂フ軍用品トシテ取扱ハザルコト

二、海軍關係上事等ノ需要ニシテ必要緊切ニシテ已ムヲ得ザルモノニ對シテハ主管部ニ於テ充足軍需優先配給證明書ヲ發行スルコトアリ、右主管部局ノ發行シタル充足軍需優先配給證明書アルモノニ限り各地方廳ニ於テ適當ニ考慮シ一般ノ購買券ヲ交付スルモノトス  
(主管部局外ニ於テ發行セル充足軍需優先配給證明書ニ對シテハ全然考慮ノ要ナキハ勿論トス)

三、主管部局トハ左ノ部局トス

- |         |           |
|---------|-----------|
| 海軍省軍需局  | 海軍省醫務局    |
| 海軍省海理局  | 海軍省建築局    |
| 海軍省教育局  | 海軍省海軍艦政本部 |
| 海軍省航空本部 | 海軍省水路部    |

一第式様(紙別)

○ ○				
※交付番號				
自動車用燃料購入證 (昭和十四年度)				
年月日	交付	部隊	使用	品名 ※(揮發油) (重油)
	※昭和	※	※	十八立
	年月日			
右陸軍軍需トシテ購入スヘキコトヲ證ス				
陸軍省 印				

(色白ハ紙用)

○ ○				
※交付番號				
自動車用燃料購入證 (昭和十四年度)				
年月日	交付	部隊	使用	品名 ※(揮發油) (重油)
	※昭和	※	※	九十立
	年月日			
右陸軍軍需トシテ購入スヘキコトヲ證ス				
陸軍省 印				

(色緑ハ紙用)

○ ○				
※交付番號				
自動車用燃料購入證 (昭和十四年度)				
年月日	交付	部隊	使用	品名 ※(揮發油) (重油)
	※昭和	※	※	九百立
	年月日			
右陸軍軍需トシテ購入スヘキコトヲ證ス				
陸軍省 印				

(色桃ハ紙用)



面裏ノ一第式標紙別

- 注 意
- 一、本證ハ陸軍部隊ニ於テ直接自動車用燃料ヲ購入スル場合ニ限り使用スルモノトス
  - 二、本證ハ之ヲ陸軍部隊以外ノ者ニ交付シ其ノ者ヲシテ自動車用燃料ヲ購入セシムルコトニ使用スルヲ得ス
  - 三、本證ハ部隊ニ於テ※印即チ交付番號、品名、使用部隊（例ヘバ〇〇市（町）△△部隊）交付年月日欄ニ所要ノ事項ヲ記入シ部隊印ヲ押印スルモノトス
  - 四、本證ヲ受領セル自動車用燃料販賣業者ハ之ヲ一ヶ月毎ニ取纏メ府縣當局ニ提出スルモノトス
  - 五、府縣當局ハ速ニ之ヲ取纏メ商工省燃料局ニ提出スルモノトス
  - 六、本證ハ昭和十五年三月末日迄有効トス

二第式標紙別

自動車用燃料配給證

※交付番號

品名	(揮發油)	(重油)
數量		
(旅費)		
使用者	府	市
使用工場	縣	町
		村
交付年月日	昭和	年月日
發行官職官氏名印		

右陸軍軍需トシテ配給スヘキコトヲ證ス

陸軍省 印

面裏ノ二第式標紙別

- 注 意
- 一、本證ハ軍用自動車検査法ニ基ク検査及運行検査ニ際シ自動車用燃料ヲ購入スル場合ニ限り使用スルモノトス
  - 二、本證ハ所要枚數ヲ豫メ陸軍兵器本廠ニ請求シ検査ニ際シ検査官ニ於テ内容記入ノ上使用者又ハ使用後速ニ陸軍兵器本廠ニ送付スルモノトス
  - 三、※印ハ陸軍兵器本廠ニ於テ記入ノ上交付スルモノトス
  - 四、( ) ハ軍用自動車検査法ニ基ク検査ノモノニ付特ニ記入スルモノトス
  - 五、本證ヲ受領セル自動車燃料販賣業者ハ之ヲ一ヶ月毎ニ取纏メ府縣當局ニ提出スルモノトス
  - 六、府縣當局ハ速ニ之ヲ取纏メ商工省燃料局ニ提出スルモノトス



軍需配給證明書

三第式標(紙別)

證明番號	品種	數量	受給者	受給場所	要配給期日	充當工事名	理由其ノ他

昭和 年 月 日

部長

氏

名印

充足軍需(優先)配給證明書

(紙別)

證明番號	品種	數量	受給者	受給場所	要配給期日	充當工事名	理由其ノ他

昭和 年 月 日

部長

氏

名印

陸軍軍用石油販賣方法

(昭和十五年燃規第一六六〇號 昭和十五年四月一日實施)

- 一、陸軍軍用品タル普通揮發油(航空揮發油ヲ除ク以下同ジ)重油ハ陸軍兵器本部ニ於テ直接石油共販株式會社ヨリ統一取得スルヲ原則トス
- 二、各部隊ガ地方販賣業者ヨリ普通揮發油又ハ重油ヲ購入スル場合ハ必ず陸軍省ノ證明アル別紙様式第一ノ石油第一種軍需割當證明書ヲ以テ購入ス
- 三、軍用自動車検査法ニ基ク検査ヲ受タル爲ノ旅費ニ應ズル普通揮發油ニ對シテハ陸軍省ノ證明アル別紙様式第二(發行官ハ軍用自動車検査官)ノ普通揮發油軍需割當證明書ヲ受驗者ニ交付シ購入セシム
- 四、各部隊ガ部外工場ニ設注シタル發動機類ノ採用ノ爲ノ運行及性能検査用普通揮發油並ニ軍需品製造用(光學兵器等拭淨、ゴム溶解又ハ塗料溶解ノ類)普通揮發油ニ對シテハ軍需ニ準ジ陸軍省ノ證明アル別紙様式第三ノ軍需割當證明書(發行部隊及發行官ハ別紙第四記載)ヲ部外業者ニ交付購入セシム
- 五、各部隊ニ於テ部外ノ自動車ヲ使用シタル場合ニ要スル普通揮發油ハ交付セザルモノトス、但シ特ニ迅速ヲ要シ自動車ニ依ルノヤムナキトキニ於テ普通揮發油ヲ交付スベキコトヲ條件トシテ軍用用途ニ專用スル場合ハ所要量ヨリ民需トシテノ配給權ヲ控除シタル量ヲ現品ヲ以テ交付スルコトヲ得此ノ場合現品ノ交付ニ換フルニ割當證明書ヲ以テスルコトヲ得ズ
- 六、地方販賣業者ガ本要領ニ依リ軍用品タル普通揮發油又ハ重油ヲ販賣スル場合其ノ引換トシテ交付ヲ受ケタル石油第一種軍需割當證明書普通揮發油軍需割當證明書、軍需割當證明書ハ從前ト同様之ヲ嚴重ニ保管シ毎月取廻メ販賣報告書ト共ニ各地方廳ニ提出セシメ各地方廳ニ於テハ之ヲ取廻メ毎月十五日迄ニ販賣集計表ト共ニ燃料局宛送付ス
- 七、昭和十五年三月三十一日以前ニ於テ從前ノ様式ニ依リ發行シタル自動車用燃料購入證、自動車用燃料配給證及優先配給要領書ハ昭和十五年四月三十日迄有効トス



地 赤

(別紙第一)

發行部隊	發行番號	發行年月日	及有効期限	資源名	數量(旅費)	検査官職官氏名印	受配給者住所氏名
		昭和 年 月 日	昭和 年 月 日迄	普通揮發油			

第 號

普通揮發油軍需割當證明書

數量

受配給者住所氏名

有効期限

發行年月日

検査官職官氏名印

右陸軍ノ配當額内ヨリ割當タルコトヲ證ス

陸 軍 省 印

地 赤

(別紙第一)

發行部隊	發行番號	割當證明區分	發行年月日	及有効期限	資源名	數量	割當額控除部隊	受配給者住所氏名	配給者住所氏名
		第一種軍需	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日迄					

第 號

石油第一種軍需割當證明書

數量

受配給者住所氏名

受駐者住所氏名

配給者住所氏名

有効期限

發行年月日

發行官

右陸軍ノ配當額内ヨリ割當タルコトヲ證ス

陸 軍 省 印



軍需割當證明書發行部隊及發行官一覽表

陸軍省	陸軍省整備局資源課長
陸軍航空本部	陸軍航空本部第八課長
陸軍航空本部	陸軍航空本部廠長
陸軍兵器本部	陸軍兵器本部作業課長
陸軍兵器本部	陸軍兵器本部會計部長
陸軍運輸部	陸軍運輸部部長
陸軍被服本部	陸軍被服本部廠長
陸軍糧秣本廠	陸軍糧秣本廠長
陸軍衛生材料本廠	陸軍衛生材料本廠長
千住製絨所	千住製絨所長
臨時陸軍東京經理部	臨時陸軍東京經理部長

陸軍省	陸軍省整備局資源課長
陸軍航空本部	陸軍航空本部第八課長
陸軍航空本部	陸軍航空本部廠長
陸軍兵器本部	陸軍兵器本部作業課長
陸軍兵器本部	陸軍兵器本部會計部長
陸軍運輸部	陸軍運輸部部長
陸軍被服本部	陸軍被服本部廠長
陸軍糧秣本廠	陸軍糧秣本廠長
陸軍衛生材料本廠	陸軍衛生材料本廠長
千住製絨所	千住製絨所長
臨時陸軍東京經理部	臨時陸軍東京經理部長

地							青					
發行官	發行年月日	有効期限	受託者住所氏名	受託者住所氏名	數量	資源名	受配者住所氏名	割當額	資源名	發行年月日	發行番號	發行部隊
右軍需品トシテ割當タルコトヲ認ス	昭和年月日	昭和年月日迄								軍需ニ準スルモノ		
陸軍省印												



## 石油配給統制規則

(昭和十四年九月二十三日商工省令第五十六號)

昭和十二年法律第九十二號第一條、第二條及第三條ノ規定ニ依リ石油配給統制規則左ノ通り定ム

商工大臣 伍堂 卓雄

第一條 本則ニ於テ石油トハ、礦物性ノ揮發油、燈油、輕油、重油及商工大臣ノ指定シタル、礦物性ノ機械油ヲ謂フ

第二條 石油精製業者、石油輸入業者、又ハ人遺石油製造業者ハ、商工大臣ノ指定タル會社(以下統制會社ト稱ス)以外ノ者ニ石油ヲ販賣)本則施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム以下同ジ)スルコトヲ得ズ

但シ特別ノ事情ニ依リ、商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ、此ノ限リニ在ラズ

第三條 石油ノ輸出(積戻ヲ除ク、以下同ジ)移出、又ハ移入ハ統制會社ニ非ザレバ此ヲ爲スコトヲ得ズ

但シ見本、標本又ハ旅客ノ携帶品タル石油ヲ輸出、移出又ハ移入スル場合及特別ノ事情ニ依リ、商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

第四條 統制會社ハ商工大臣ノ指定シタル石油ノ販賣業者(以下指定販賣業者ト稱ス)以外ノ者ニ石油ヲ販賣スルコトヲ得ズ

但シ特別ノ事情ニ依リ、商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 統制會社又ハ指定販賣業者ハ、毎月ノ石油ノ配給計畫ヲ定メ、豫メ統制會社ニ在リテハ、商工大臣、指定販賣業者ニ在リテハ地方長官ノ承認ヲ受クベシ、之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

統制會社又ハ指定販賣業者ハ、前項ノ規定ニ依リ石油ノ配給計畫ノ承認ヲ受ケントスルトキハ、申請書ヲ、統制會社ニ在リテハ前月十日迄ニ商工大臣ニ、指定販賣業者ニ在リテハ、前月廿日迄ニ地方長官ニ提出スベシ

第六條 統制會社又ハ指定販賣業者ハ帳簿ヲ備ヘ、左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一、購入シタル石油ノ種類別數量、價格及購入ノ年月日並ニ賣渡人ノ氏名名稱及住所

二、販賣シタル石油ノ種類別數量、價格及販賣ノ年月日並ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三、使用シタル石油ノ種類別數量、用途及使用ノ年月日

統制會社ハ前項ノ帳簿ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一、輸出シタル石油ノ種類別數量、價格、輸出先及輸出ノ年月日

二、移出シタル石油ノ種類別數量、價格、移出先及移出ノ年月日

三、移入シタル石油ノ種類別數量、價格、移入先及移入ノ年月日

第七條 統制會社又ハ指定販賣業者ハ毎月十日迄ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ、統制會社ニ在リテハ商工大臣ニ、指定販賣業者ニ在リテハ、地方長官ニ提出スベシ

一、前月中ニ購入シタル石油ノ種類別數量、價格及購入ノ年月日、並ニ其ノ賣渡人ノ氏名名稱及住所

二、前月中ニ販賣シタル石油ノ種類別數量、價格及販賣ノ年月日、並ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所

三、前月中ニ使用石油ノ種類別數量、用途及使用ノ年月日

統制會社ハ前項ノ報告書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外、左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一、前月中ニ輸出シタル石油ノ種類別數量、價格、輸出先及輸出ノ年月日

二、前月中ニ移出シタル石油ノ種類別數量、價格、移出先及移出ノ年月日

三、前月中ニ移入シタル石油ノ種類別數量、價格、移入先及移入ノ年月日

第八條 商工大臣石油ノ需給ヲ調整スル爲、特ニ必要アリト認ムルトキハ、石油ノ販賣業者ニ對シ、石油ノ販賣ニ付、必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

## 附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



本則施行ノ際現ニ石油精製業、石油輸入業又ハ人造石油製造業ヲ營ム者ハ、昭和十四年九月卅日迄ハ、第二條及第三條ノ規定ニ拘ラズ、石油ノ販賣、輸出、移出又ハ移入ヲ爲スコトヲ得

但シ本則施行後、昭和十四年九月三十日迄ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ハ、同年十月一日以後之ヲ爲スコトヲ得ズ  
統制會社ハ昭和十四年十月三十一日迄ハ、第四條ノ規定ニ拘ラズ石油ヲ販賣スルコトヲ得  
但シ本則施行後、昭和十四年十月三十一日迄ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ハ、同年十一月一日以後之ヲ爲スコトヲ得ズ  
第五條ノ規定ハ昭和十四年十月三十一日以前ノ、石油ノ配給計畫ニ付テハ之ヲ適用セズ

### 朝鮮石油配給統制規則

(昭和十五年三月一日實施)

第一條 本令ニ於テ石油ト稱スルハ鑛物性ノ揮發油、燈油、輕油、機械油及車油ヲ謂フ

第二條 石油精製業者、石油輸入業者又ハ人造石油製造業者ハ朝鮮總督ノ指定シタル配給團體「以下配給團體ト稱ス」ノ團體員以外ノ者ニ石油ヲ販賣「本令施行前ニシタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム以下同ジ」スルコトヲ得ズ但シ直接軍ニ販賣スルトキ又ハ特別ノ事由ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハコノ限ニ在ラズ

第三條 石油ノ輸出「積戻ヲ含ム以下同ジ」ヲナサントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケベシ

石油ノ移出又ハ移入ヲナサントスル者ハ朝鮮總督ノ指定シタル供給團體「以下供給團體ト稱ス」ノ證明ヲ受ケベシ  
御用品、軍用品、見本、標本、旅客携帶品、船用品、航空機用品又ハ自動車用品タル石油ノ輸出、移出又ハ移入ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

第四條 配給團體ノ團體員ハ配給團體ノ販賣指圖ニ依ルニ非ザレバ朝鮮總督ノ指定シタル石油「以下指定石油ト稱ス」ノ販賣ヲナスコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハコノ限ニ在ラズ

第五條 朝鮮總督ノ指定シタル「統制團體ト稱ス」ハ其團體員ノ取扱ニ係ル指定石油ノ毎月ノ配給計畫ヲ定メ豫メ朝鮮總督ノ承認ヲ受

クベシコレヲ變更セントスルトキ亦同ジ

統制團體前項ノ規定ニ依リ指定石油ノ配給計畫ノ承認ヲ受ケントスルトキハ申請書ヲ前月十五日迄ニ朝鮮總督ニ提出スベシ

第六條 配給團體ノ團體員ハ帳簿ヲ備ヘ指定石油ニ付左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一、受人タル石油ノ種類別數量價格及ビ受入年月日並ニソノ引渡人ノ住所氏名及ビ名稱

二、賣渡シタル石油ノ種類別數量價格及ビ賣渡ノ年月日並ニソノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

三、使用シタル石油ノ種類別數量用途、使用ノ年月日

四、輸出、移出又ハ移入シタル石油ノ種類別數量及ビソノ輸出、移出又ハ移入シタルトキ

第七條 配給團體ハソノ團體員ノ取扱ニヨリ指定石油ニ付左ニ掲グル事項ヲ統制團體ヲ經テ毎月十五日迄ニ朝鮮總督ニ届出ツベシ

一、前月中ニ受人又ハ賣渡シタル石油種類別數量

二、前月中ニ輸出、移出又ハ移入シタル石油ノ種類別數量及ビソノ輸出、移出シタル先

第八條 朝鮮總督石油ノ需給ヲ調整スルタメ特ニ必要アリト認ムルトキハ石油ノ販賣業者ニ對シ石油ノ販賣ニ付必要ナル命令又ハ處分ヲナスコトヲ得

第九條 本令ノ規定ニヨリ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直ニ朝鮮總督府ニ差出スベシ

### 附 則

本令ハ發布ノ日ヨリコレヲ施行ス、但シ第五條ノ施行期日ハ別ニコレヲ定ム

昭和十三年朝鮮總督府令第六十一號中間表甲號輸入稅表番號百十二項ヲ削ル







四、燈油

規格分類名稱	規			格		點燈試驗
	比	反	引	九	硫	
	重	應	火	五	黃	
			點	%	分	
				出		
				溫		
				度		
				(		
				以		
				下		
特殊燈油	〇・八一五以下	中性	三〇度(C)以上	二六〇度(C)以下	〇・〇五%以下	優
白	〇・八三五	〃	〃	三〇〇度(C)	〇・一〇%	良
茶	〇・八四五	〃	〃	三三〇度(C)	〇・一五%	〃
ソルベント	〇・八〇三以上	〃	〃	二二〇度(C)	初溜一四〇度(C)以上	〃
特ソルベント	〇・八〇三	〃	〃	二〇五度(C)	初溜一三〇度(C)	〃
一號燈油	(海軍規格一號石油)	〃	〃			
二號	(海軍規格二號石油)	〃	〃			
三號	(海軍規格三號石油)	〃	〃			
四號	〃	〃	〃			
外A一號燈油	〇・八一五以下	〃	〃	三五〇度(C)以下	〇・一〇%以下	〃
外B一號	〇・八二〇	〃	〃	二五〇度(C)	〇・〇二%	〃
外二號	〇・八四五	〃	〃	二七五度(C)	〇・〇三%	〃
外三號	〇・八四五	〃	〃	二七五度(C)	〇・〇二%	〃
外四號	〇・八四五	〃	〃	二五〇度(C)	〇・〇二%	〃
外五號	〇・八二	〃	〃	二五〇度(C)	〇・〇二%	〃
外六號	〇・八一	〃	〃	一九五度(C)	〇・〇二%	〃
外七號	〇・八一	〃	〃	一九五度(C)	〇・〇二%	〃
外八號	〇・八四五	〃	〃	三三二度(C)	〇・〇二%	〃

五、輕油

規格分類名稱	規			格		相
	比	引	九	硫		
		火	%	黃		
		點	出	分		
			溫			
			度			
			(			
			以			
			下			
特一號油	〇・八一五以上	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
特二號油	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	淡黃色乃至淡褐色透明	〃
特三號油	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
一號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
二號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
三號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
四號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外一號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外二號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外三號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外四號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外五號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外六號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外七號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃
外八號	〇・八二	〃	〃	八七〇度(C)以下	無色乃至淡黃色透明	〃

六、機械油

規格分類名稱	規			格		水容
	引	粘	凝	硫	抗	
	火	度	固	分	乳	
	點	(	點	%	化	
		度			試	
		(			蝕	
		)			腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	
					蝕	
					腐	
					驗	
					試	



規格分 類名稱	規							格				
	反應	引火点	粘度(50度C)	凝固点	殘留炭素分	灰分	泥水分	硫黄分				
一號白スピンドル油 中性	〃	一三〇度(C)以上	五〇秒—八〇秒	三—五秒以上		(一)一〇度(C)以下						合格
二號	〃	一一五度(C)〃	一三〇秒以下	一		一						合格
一號 スピンドル油	〃	一六〇度(C)〃	一三〇秒—一八〇秒	六〇秒以上		(一)一〇度(C)以下						合格
二號	〃	一三〇度(C)〃	五〇秒—八〇秒	三—五秒		(一)一〇度(C)以下						合格
三號	〃	一一五度(C)〃	一三〇秒以下	一		一						合格
一號 台車油	〃	一六〇度(C)〃			五〇秒— 七〇秒							〇.二%以下
二號	〃	一三〇度(C)〃			一〇〇秒以下							一.〇%〃
三號	〃	一〇〇度(C)〃			一五〇秒							一.〇%〃

七、重油

規格分 類名稱	規							格				
	反應	引火点	粘度(50度C)	凝固点	殘留炭素分	灰分	泥水分	硫黄分				
一號重油 中性	〃	五〇度(C)以上	四〇秒—七〇秒	〇度(C)以下 (一)一〇度(C)以下	四.〇%以下	〇.五%以下	一.〇%以下	一.五%以下				
特二號重油 中性	〃	六〇度(C)〃	五〇〇秒以下				二.〇%〃					
二號重油 中性	〃	六〇度(C)〃	八五〇秒				一.〇%〃					

滿洲國機械油配給統制

- 一、配給ヲ統制スル機械油ハ石油類以外ノ礦物性油中特殊石油類ヲ除キタルモノトス
- 一、機械油ノ製造業者輸入業者及販賣業者(自己割當分ヲ除ク)ハ割當證明書ノ提出無キ者ニ機械油ノ供給ヲナス事ヲ得ザルモノトス
- 一、割當證明書ハ實需要者ニ代位スル販賣業者(原則トシテ製造業者輸入業者又ハ其特約店タル者)ニ對シテ四—六、二—九、十一—十二、一—三月ノ各四半期毎ニ交付ス
- 一、實需要者ニ對シテハ年間(四、三)一軒以上ヲ需要スル販賣業者ニ對シテハ其供給先タル實需要ニシテ年間需要量一軒未満ノ者ノ所要分ニ付一括シテ割當ヲナス
- 但シ特殊ノ需要ニ付テハ年間需要量一軒未満ノ者ニ付テモ直接實需者ニ對シ割當ヲナス
- 一、割當證明書ハ生産地別即、日本、朝鮮、滿洲(關東洲ヲ含ム)及第三國別ニ發行ス
- 一、日本生産品ノ割當ヲ受ケタル者ニ受託者ハ割當證明書ヲ付シテ朝鮮總督府ニ輸出承認ノ申請ヲナスモノトス
- 一、滿洲製産品ノ割當ヲ受ケタル者ハ營業者ヨリ供給ヲ受ケタルモノトス
- 一、第三國製産品ノ割當ヲ受ケタル者ハ割當證明書ヲ添付シテ營業者ニ設在シ營業者ハ割當證明ヲ添付ノ上臨時爲替局ニ信用狀取付許可ノ申請ヲナスモノトス
- 一、割當ヲ受ケタルモノハ割當期間經過後三ヶ月以内(當分六ヶ月以内)デ割當入手ノ實績(別紙様式第三號)ヲ提出スル事
- 一、需要種別ハ左ノ通トス
  - A、軍ノ指示ニ依ル額
  - B、滿洲國政府ノ各機關需要ノ要額
  - C、國策ニ基ク生産量擴充計劃遂行上ニ要スル額、前項ノ補助的遂行ニ要スル額
  - D、以上ニ屬セザルモ官廳免許ヲ得タルモノ其ノ他特ニ考慮スベキ事業ニ要スル額



五、其他一般類

一、準備需ハ全額備年額當ヲナシ官需以下ニ付テハ總額數ニ對スル供給數ノ百分ヲ基準トシテ之ニ適宜ノ數ヲ加減シタル率ニ依リ額當スルモノトス

機械油入手實績報告書  
 下表通四半期分入手シタルニ付此段報告申上候  
 專賣局長殿 住所 氏名

種別	實績	入手數	差引不足量	備考

下付類記入注意事項

- 一、割付證明書ハ年間消費量一許以上ノモノニ付テハ需要者ニ年間消費量一許未滿ノモノニ付テハ販賣業者（從來機械油ノ販賣ヲ業トシタルモノ）ニ對シ販賣スルモノニシテ夫々申請セシメルコト
- 但シ支店、出張所等ニシテ直接購入ヲナサザル事
- 需要者別ハ次ノ通り
- 一、軍ノ指不ニヨル額
- 一、滿洲國政府各機關ノ需要
- 前項ノ補助的遂行ニ要スル額

- 一、以上ニ屬セザル官廳ノ免許ヲ得タルモノト、其他特ニ考慮スベキ事業ニ要スル額其他一般
- 一、前年分自康德六年四月至康德七年三月及各四半期分別紙ニスル事
- 一、康德六年第一回一半期分（四月一六月）ハ入手ノ實績ヲ記入シ期末手持數ヲ計算ニ朱書スル事
- 一、生産別中ニハ滿洲國ハ關東州ヲ含ム
- 一、第三國生産ニツイテハ日滿兩國品ヲ以テ代用スルコト若シ代用スルコト能ハザルトキハソノ事由並所費外貨資金額ヲ別紙ニ明記スルコト
- 一、備考欄ニハ用途ヲ簡單ニ記載スル事
- 一、受託者欄ニハ製造人名及取扱商人名ヲ記載スル事
- 數量單位ハ立トス
- 但シグリースハ疋ヲ單位トス

社団法人全國石油販賣業聯合會定款

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ全國石油販賣業聯合會ト稱ス
- 第二條 本會ハ全國石油販賣業者一致シ石油國策ヲ遵奉シ緊密ナル聯絡並ニ其親和協調ニヨリ我國石油業界ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ノ地區ハ日本内地一圓トス
- 第四條 本會ハ事務所ヲ東京市ニ置キ、支那ヲ各道府縣ニ置ク
- 第五條 本會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ
  - 一、會員相互間ノ親和、協調聯絡及其統制ニ關スル事項
  - 一、石油販賣業者ノ營業ノ改善向上ニ關スル事項



- 三、石油販賣業ニ關スル調査研究及指導ニ關スル事項
- 四、講習會、講演會等ノ開催ニ關スル事項
- 五、會報其ノ他ノ印刷物ノ發行ニ關スル事項
- 六、前各號ニ掲グルモノ、外本會ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル一切ノ事項

第二章 會 員

第六條 本會ノ會員ハ普通會員、特別會員、贊助會員ノ三種トス、普通會員ハ全國石油販賣業者及本會ノ趣旨ヲ實成シテ入會シタルモノトス、特別會員ハ道府縣石油販賣株式會社、商業組合並ニ石油販賣業者ノ組織スル團體トス、贊助會員ハ石油ノ精製業者、輸入業者、採掘業者並ニソノ組織スル團體トス

第七條 前條ニ掲ゲタル資格ヲ有スル者ハ本會理事會ノ承認ヲ得テ本會ニ加入スルコトヲ得

第八條 會員ハ別ニ定ムル會費規程ニ基テ會費ヲ本會ニ納入スベシ

第九條 會員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一、會員タル資格ノ喪失
- 二、除名

第十條 會員脱退セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記シ三箇月前ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第十一條 會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本會ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス、但臨機緊急ヲ要スル場合ニハ理事會之ヲ專行シ次期ノ總會ニ報告スベシ

- 一、本會ノ目的ニ反スル行爲アリタルトキ
- 二、會費ノ支拂ヲ怠リタルトキ
- 三、定款又ハ總會ノ決議ニ違反シタルトキ

第十二條 本會ハ理事會ノ決議ヲ經テ學識名望アル者又ハ本會ニ對シ功勞アルモノヲ名譽會員ニ推薦スルコトヲ得、名譽會員ハ會費負擔ノ要ナク總會ノ議決ニ加ハラズ且役員ニ選舉セラレザルモノトス但總會、評議員會又ハ理事會ニ任意出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三章 役 員

第十三條 本會ニ理事十九名、監事三名ヲ置ク、理事ハ會長一名、副會長三名、專務理事若干名ヲ互選ス、但會長ハ必要ニ應シ評議員會ノ決議ニ依リ會員外ヨリ專務理事ヲ選任スルコトヲ得

第十四條 本會ニ評議員若干名ヲ置ク

第十五條 評議員ハ普通會員中ヨリ選舉ス、評議員ノ選舉ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 理事及監事ハ評議員ノ選舉ニヨリ評議員中ヨリ之ヲ選任ス

第十七條 理事ノ任期ハ二箇年トシ監事ノ任期ハ二箇年トス但再選ヲ妨ゲズ、補缺選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス、理事及監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄仍其ノ職ヲ行フモノトス

第十八條 理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタル場合ト雖モ會務ニ支障ナキ限り補缺選舉ヲ行ハザルコトヲ得

第十九條 理事及監事ハ名譽職トス但評議員會ノ決議ニ依リ報酬、手當又ハ賞與ヲ支給スルコトヲ得、理事及監事ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ

第二十條 會長ハ本會ノ會務ヲ統轄シ本會ヲ代表ス、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス、專務理事ハ會長及ビ副會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理シ會長副會長共ニ事故アルトキハ之ヲ代理ス

第二十一條 本會ハ評議員會ノ決議ニヨリ名譽會長相談役及ビ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第二十二條 本會ニ主事及書記若干名ヲ置ク、主事ハ理事ノ命ヲ受ケテ會務ヲ處理シ書記ハ理事及主事ノ命ヲ受ケテ庶務ニ從事ス主事ノ中一名ヲ專務主事、書記ノ中一名ヲ書記長トス、主事及書記ハ有給トス

第四章 會 議

第二十三條 會議ヲ分チテ總會、評議員會、理事會トス

第二十四條 總會ハ通常總會臨時總會ノ二種トス、通常總會ハ毎年一回五月ニ之ヲ開ク、臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク



一、會長又ハ理事會ニ於テ必要ト認メタルトキ  
二、會員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ本會ニ請求アリタルトキ  
第二十五條 總會ノ招集ハ少クトモ三週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ會員ニ通知スルコトヲ要ス  
第二十六條 總會ハ會長之ヲ招集ス  
第二十七條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス、會員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス、前項ノ代理人ハ會員タルコトヲ要ス  
第二十八條 總會ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ副會長若ハ專務理事之ニ當ル  
第二十九條 會員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス  
第三十條 總會ノ決議ハ理事之ヲ作り、議長、監事及ビ出席代議員二人以上記名捺印スベシ  
第三十一條 評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ理事會ハ理事ヲ以テ組織ス  
第三十二條 評議員會ハ本會ノ豫算及決算其他總會ヲ附議スベキ事項及其他重要ナル會務ヲ審議ス  
第三十三條 理事會ハ本會專業ヲ執行ニ關シ凡テノ事項ヲ審議ス  
第三十四條 第二十六條、第二十七條第一項、第二十五條、第三十條、第三十一條ノ規定ハ評議員會及ビ理事會ニ準用ス  
第三十五條 會長副會長及理事ハ評議員會ニ出席シ決議ニ加ハルモノトス  
第三十六條 監事ハ評議員會及理事會ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得  
第三十七條 評議員ハ評議員ニ非ザル會員ヲ代理人トシテ評議員會ニ出席セシメ議決權ヲ行フコトヲ得、前項ノ場合ノ代理人ハ二人以上ノ代理人タルコトヲ得、代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ本會ニ差出スベシ  
第五章 資産及會計  
第三十八條 本會ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス  
第三十九條 本會ノ經費ハ會費及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 本會ノ收支計算書、貸借對照表、財産目錄及事業報告書ハ通常總會ニ報告シ其承認ヲ受クルモノトス  
第四十一條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備フ  
一、會員名簿  
二、出納帳  
三、財産台帳  
四、其他必要ナル帳簿  
第四十二條 本會ノ資産ハ會員ノ出資金元本又ハ寄附金元本ヨリ成ル會員ノ出資金額ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
第四十三條 本會ノ資産ハ之ヲ處分シ又ハ之ヲ消費スルコトヲ得ズ、但己ムヲ得ザル事由アル場合會員ノ總會ノ決議ヲ經タルトキハ之ノ限リニ非ス  
第六章 支部  
第四十四條 本會ハ事業執行上ノ便ヲ圖ル爲道府縣毎ニ支部ヲ設クルコトヲ得、支部ハ其ノ必要ニ應ジ部會ヲ設クルコトヲ得  
第四十五條 支部ノ設置區域内ニ於ケル會員ハ本定款ノ外支部會則ヲ遵守スヘシ  
第四十六條 支部ハ社團法人全國石油販賣業聯合會何々支部ト稱ス  
第四十七條 支部ニハ左ノ役員ヲ置ク  
一、支部長一名  
二、副支部長一名又ハ二名  
三、其他支部會則ヲ以テ定ムル役員支部長及ビ副支部長ハ本會ノ承認ヲ受クヘシ  
第四十八條 支部ハ各道府縣毎ニ普通會員中ヨリ選出シタル委員ヲ以テ支部會則ヲ作成シ本會ノ承認ヲ得テ設置スヘシ、前項支部設置委員選出ニ關スル規定ハ別ニ定ム  
第四十九條 本會ハ何時ニテモ支部役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得但次ノ本會總會ニ之ヲ報告スヘシ



第五十條 支部ハ本會ヨリ交付スル經費ノ外支部會則ノ定ムル所ニヨリ特ニ其ノ區域内ニ於ケル會員ヨリ會費ヲ徵收スルコトヲ得  
第五十一條 支部ハ毎年豫算ヲ作り本會ノ承認ヲ受クヘシ、支部ハ毎年會計年度終了後速ニ前年度ノ決算及會務ノ狀況ヲ本會ニ報告ス  
ヘシ

第五十二條 支部ハ本會ノ指揮ヲ拒ムコトヲ得ス

#### 第七章 定款ノ變更及解散

第五十三條 本定款ヲ變更セントスルトキハ會員ノ總會ニ於テ出席會員ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五十四條 本會ハ會員ノ總會ノ決議ニヨリ解散ス、議決ニ付テハ前條ヲ準用ス

第五十五條 本會解散シタル場合其ノ財産ノ歸屬者並ニ其ノ處分方法ハ會員ノ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム、議決ニ付テハ第五十三條ヲ準用ス

### 社團法人全國石油販賣業聯合會何々支部會則

第一條 本支部ハ全國石油販賣業聯合會何々支部ト稱ス

第二條 本支部ハ全國石油販賣業聯合會ノ定款第二及第五條ニ記載ノ目的及事業ヲ該聯合會ト協力シ遂行スルヲ以テ目的トス

第三條 本支部ノ地域ハ何々道府縣一圓トス

第四條 本支部ノ會員ハ普通支部會員、特別支部會員ノ二種トス普通支部會員ハ全國石油販賣業聯合會普通會員ニシテ何々道府縣内ニ於テ石油販賣業ニ従事スルモノ又ハ本支部ノ趣旨ヲ賛成シテ入會シタルモノトス

特別支部會員ハ全國石油販賣業聯合會ノ特別會員ニシテ何々縣ニ於ケル石油販賣株式會社、商業組合並ニ石油販賣業者ノ組織スル團體トス

第五條 前條ニ掲ゲタル資格ヲ有スル者ハ本支部幹事會ノ承認ヲ得本支部ニ入會スルコトヲ得

第六條 本支部會員ハ全國石油販賣業聯合會定款第八條ニ規定スル會費ヲ納入スル外本支部會費トシテ別ニ定ムル本支部會費規程ニ基

ク支部會費ヲ本支部ニ納入スベシ

第七條 本支部會員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一、會員タル資格ノ喪失

二、除名

第八條 本支部會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本支部ハ幹事會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

一、本支部ノ目的ニ反スル行爲アリタルトキ

二、會費ノ支拂ヲ怠リタルトキ

三、本支部會則又幹事會ノ決議ニ違反シタルトキ

第九條 本支部ニ幹事若干ヲ置ク

幹事ハ支部長一名、副支部長二名、常任幹事若干名、會計幹事若干名ヲ互選ス

第十條 幹事ハ本支部會員ノ選舉ニヨリ本支部會員中ヨリ之ヲ選任ス

第十一條 幹事ノ任期ハ三ケ年トス但再選ヲ妨ゲズ

第十二條 幹事ハ名譽職トス但本支部總會ノ決議ニヨリ報酬、手當又ハ賞與ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 支部長ハ本支部ノ會務ヲ統轄シ本支部ヲ代表ス

副支部長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキハ之ヲ代理ス

常任幹事ハ支部長及副支部長ヲ補佐シテ事務ヲ掌理シ支部長、副支部長共ニ事故アルトキハ之ヲ代理ス

會計幹事ハ本支部會計事務ヲ掌理ス

第十四條 本支部ハ幹事會ノ決議ニヨリ相談役及顧問ヲ置クコトヲ得

第十五條 本支部ニ書記若干名ヲ置ク

書記ハ有給トス



書記ノ中一名ヲ書記長トス

第十六條 本支部ノ會議ヲ分チテ支部總會及幹事會トス

支部總會ハ毎年一回五月之ヲ開ク臨時支部總會ハ支部長又ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第十七條 支部總會ハ支部長之ヲ招集ス

第十八條 總會ノ決議ハ出席本支部會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキ議長之ヲ決ス本支部會員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ本支部會員タルコトヲ要ス

第十九條 總會ノ議長ハ支部長之ニ當ル支部長事故アルトキハ副支部長若クハ常任幹事之ニ當ル

第二十條 本支部會員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第二十一條 總會ノ決議録ハ幹事之ヲ作り議長、幹事及出席本支部會員二人以上記名捺印スベシ但其ノ決議録ノ寫ヲ全國石油販賣聯合會ヘ送附スルモノトス

第二十二條 幹事會ハ幹事ヲ以テ組織シ本支部ノ豫算及決算並ニ目的及事業ノ執行ニ關シ凡テノ事項ヲ審議ス

第二十三條 支部長、副支部長ハ幹事會ニ出席シ決議ニ加ハルモノトス

第二十四條 本支部ノ年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二十五條 本支部ノ經費及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 本支部ノ收支計算書貸借對照表、財産目錄及事業報告書ハ支部總會ニ報告シ其承認ヲ受クルモノトス

第二十七條 本支部ニ左ノ帳簿ヲ備フ

一、本支部會員名簿

二、現金出納帳

三、財産台帳

四、其他必要ナル帳簿

第二十八條 本支部會則ヲ變更セントスルトキハ支部總會ニ於テ出席支部會員ノ四分ノ三以上同意アルコトヲ要ス

第二十九條 本支部ハ支部總會ノ決議ニヨリ解散ス決議ニ付テハ前條ヲ準用ス

第三十條 本支部解散シタル場合其財産ノ處分方法ハ支部總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム決議ニ付テハ第二十八條ヲ準用ス

第三十一條 第二十八條、第二十九條及第三十條ノ事項ハ全國石油販賣聯合會ノ承認ヲ要スルモノトス



# 軍需工業動員法

(大正七年四月十七日 法律第三十八號)

第一條 本法ニ於テ軍需品ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一、兵器、艦艇、航空機、彈藥並軍用器具機械及物品
- 二、軍用ニ供シ得ヘキ船舶、海陸聯絡輸送設備、鐵道軌道及其ノ附屬設備其ノ他ノ輸送用物件
- 三、軍用ニ供シ得ヘキ燃料、被服及糧秣
- 四、軍用ニ供シ得ヘキ衛生材料及獸醫材料
- 五、軍用ニ供シ得ヘキ通信用物件
- 六、前各號ニ掲クルモノノ生産又ハ修理ニ要スル材料、原料、器具機械、設備及建築材料
- 七、前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル軍用ニ供シ得ヘキ物件

第二條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲ニ必要アルトキハ左ノ各號ニ掲クル工場及事業場並其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

- 一、軍需品ノ生産又ハ修理ヲ爲ス工場及事業場
- 二、前號ニ掲クル工場及事業場ニ要スル原料若ハ燃料ヲ生産シ又ハ電力若ハ動力ヲ發生スル工場及事業場
- 三、前各號ニ掲クル工場ニ轉用スルコトヲ得ル工場

第三條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲ニ必要アルトキハ土地並家屋倉庫其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ必要アルトキハ第一條第一號ニ掲クル物件ノ全部又ハ一部ヲ管理スルコトヲ得

第四條 前二條ノ場合ニ於テ政府ハ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得

第五條 前三條ノ規定ニ依ル處分ニ因リ生シタル損害ハ政府之ヲ補償ス

第六條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品又ハ第二條第二號ノ原料若ハ燃料ノ讓渡、使用、消費、所持、移動若ハ輸出入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 戰時ニ際シ第一條ニ掲グル物件ニシテ徵發令中ニ規定ナキモノヲ使用又ハ收用セムトスルトキハ徵發令ノ規定ヲ準用ス

第八條 政府ハ戰時ニ際シ兵役ニ在ル者ヲ徵兵令ニ拘ラス勅令ノ定ムル所ニ依リ召集シテ軍事輸送機關又ハ第二條ノ規定ニ依リ政府ノ官理スル工場若ハ事業場ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第二條各號ニ掲グル工場又ハ事業場ニシテ國ノ經營ニ係ルモノニ關シ之ヲ準用ス

第九條 政府ハ戰時ニ際シ勅令ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ在ラサル者ヲ徵用シテ前條ニ掲クル業務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ收用シタル工場、事業場、土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ五年内ニ拂下クルトキハ舊所有者又ハ其ノ承繼人ニ於テ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十一條 政府ハ軍用上必要アルトキハ第二條各號ニ掲クル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ其ノ管理者ニ對シ其ノ事業ニ使用スル設備器具機械、從業者若ハ材料原料器具機械ノ供給者又ハ生産發生若ハ修理ノ能力若ハ數額其ノ他事業ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 政府ハ軍用上必要アルトキハ鐵道、軌道、船舶、海陸聯絡輸送設備其ノ他ノ輸送用物件ノ所有者又ハ管理者ニ對シ車輛、軌條、船舶又ハ海陸聯絡輸送設備ノ數額、構造、輸送能力、從業者其ノ他必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 政府ハ軍用上必要アルトキハ軍需品又ハ第二條第二號ノ原料若ハ燃料ノ取引又ハ保管ヲ業トスル者ニ對シ其ノ取引ノ相手方取引又ハ保管ノ數額ニ保管ノ設備其ノ他事業ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 政府ハ軍用上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條各號ニ掲クル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ前條ニ掲クル者シニテ一定ノ資格アルモノニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ軍需品ノ生産、修理若ハ貯藏ヲ爲サシメ又ハ軍用上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得



政府ハ前項ノ規定ニ依リ利益保證又ハ獎勵金下附ヲ受クル事業ヲ監督シ又ハ之ガ爲必要ナル命令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
第十五條 第五條ノ規定ニ依ル補償金及前條ノ利益保證又ハ獎勵金ノ算定並第十條ノ規定ニ依ル拂下價額ハ軍需評議會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

軍需評議會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 當該官吏又ハ吏員ハ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ報告ヲ命ジ得ル事項調査ノ爲又ハ第十四條ノ規定ニ依ル監督若ハ處分ヲ爲ス爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 工業的發明ニ係ル物又ハ方法ニ關シ豫メ政府ノ承認ヲ得タル事項又ハ設備ニ付テハ報告ヲ命ジ、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ズ

第十八條 利益保證又ハ獎勵金ヲ受クル事業ヲ承繼スル者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令之ニ依リテ爲ス處分又ハ利益保證若ハ獎勵金下付ニ附シタル條件ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第二條又ハ第三條ノ規定ニ依ル管理、使用又ハ收用ヲ拒ミタル者

二、第四條ノ規定ニ依ル供用ヲ拒ミタル者

三、第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十條 第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス  
戰時ニ際シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ罰則條ニ同ジ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第八條ノ規定ニ依ル召集ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事スルコトヲ拒ミタル者

二、第九條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事スルコトヲ拒ミタル者

三、第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

四、第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五、第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ實情ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十二條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者若ハ其ノ職ニ依リ知得シタル事業上ノ秘密ヲ洩洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同ジ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ洩洩シ又ハ竊用シタルトキ罰則條ニ同ジ

### 軍需工業動員法ノ適用ニ關スル法律

(昭和十二年九月九日 法律第八十八號)

軍需工業動員法中戰時ニ關スル規定ハ支那事變ニ亦之ヲ適用ス

### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工場事業場管理令

(昭和十二年九月二十四日 勅令第五百二十八號)

第一條 軍需工業動員法第二條ノ規定ニ依ル工場及事業場並ニ其ノ附屬設備(以下工場事業場ト稱ス)ノ管理ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 主務大臣工場事業場ヲ管理セントスルトキハ内閣總理大臣ニ協議スベシ

第三條 管理ハ主務大臣ノ發スル管理令書送達ノ時ヨリ開始ス但シ管理令書ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

管理令書ノ送達ハ管理スベキ工場事業場ノ事業主ニ對シ之ヲ爲ス但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ工場事業場ノ長其ノ他之ニ準ズル者ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得



第四條 管理令書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一、工場事業場ノ名稱及所在ノ場所

二、管理ノ範圍

三、第十三條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ノ一部ヲ行フ官衙ノ長アルトキハ其ノ長及其ノ職權ノ範圍

四、監理官ノ官職氏名

五、其ノ他必要ト認ムル事項

第五條 第二條及第三條ノ規定ハ管理ノ範圍ヲ變更シ又ハ管理ヲ廢止スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條第二項ノ規定ハ前條第三號乃至第五號ノ事項ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 主務大臣ハ其ノ管理ニ依ル工場事業場ニ於ケル軍需品又ハ軍需品ノ生産若ハ修理ニ要スル原料、燃料、電力若ハ動力ノ生産

修理又ハ發生ニ關シ當該工場事業場ノ業務ニ付事業主ヲ指揮監督ス

第七條 主務大臣ハ其ノ管理ニ係ル工場事業場ニ付監理官ヲ置キ當該工場事業場ノ業務ノ監督ニ從事セシム

第八條 管理ニ係ル工場事業場ノ事業主當該工場事業場ノ經營ヲ廢止シ又ハ休止セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第九條 管理ニ係ル工場事業場ノ事業主ハ本令又ハ本令ニ依ル命令ノ適用ニ付事業主ニ代ルベキ事業管理人ヲ選任スルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ事業管理人ノ選任ヲ命ズルコトヲ得

事業主左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ事業管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

一、法人ナルトキ

二、營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ナルトキ

三、本令施行地ニ居住セザルトキ事業管理人ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第二項及第三項ノ場合ニ於テ事業主事業管理人ヲ選任セズ又ハ選任スルコト能ハザルトキハ主務大臣ハ工場事業場ノ經營ニ付權限ヲ

有スル者ノ中ヨリ事業管理人ヲ選任スルコトヲ得

第十條 事業管理人ガ本令又ハ本令ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十一條 工場事業場ノ管理ニ因リ生ジタル損害ノ補償ヲ請求セントスル者ハ管理廢止ノ後命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ請求スベシ但シ

主務大臣ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度ノ終リタル後又ハ損害ノ生シタル都度之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 管理ニ係ル工場事業場ノ經營ヲ承繼スル者ハ本令又ハ本令ニ依ル命令ニ基ク前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十三條 主務大臣ハ本令ニ依ル管理ニ係ル工場事業場ニ對スル職權ノ一部ヲ所轄官衙ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官衙ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル職權ヲ其ノ所屬官衙ノ長ヲシテ行ハシムコトヲ得

第十四條 本令中主務大臣トアルハ軍機保護上其ノ他軍事上特ニ必要アル工場事業場ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮、台灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地又ハ樺太ニ在リテハ各朝鮮總督、台灣總督、

滿洲國駐劄特命全權大使又ハ樺太總長官トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 昭和十二年法律第八十八號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ 施行スルノ件

(昭和十二年九月十七日 勅令第五百五號)

昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和十二年九月十日公布法律第八十八號ハ軍需工業動員法ノ適用ニ關スル件ナリ



關東洲及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ依ルコトヲ  
定メタル軍需工業動員法ノ適用ニ關スル件

(昭和十二年十月二十二日 勅令第六百四號)

關東洲及南滿洲鐵道附屬地ニ於テハ大正七年勅令第三百六十九號ニ於テ依ルコトヲ定メタル軍需工業動員法ノ適用ニ關シテハ昭和十二年法律第八十八號ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和十二年九月十日公布法律第八十八號ハ軍需工業動員法ノ適用ニ關スル件及大正七年七月二日公布勅令第三百六十九號ハ關東洲及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル軍需工業動員ニ關スル件ナリ

軍 需 評 議 會 規 程

(昭和十二年十一月二十二日 勅令第六百六十五號)

第一條 軍需評議會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ軍需工業動員法第十五條第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ關セシメタル事項ヲ調査審議ス

第二條 軍需評議會ハ會長一人及委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ内閣總理大臣ノ奏請ニヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 軍需評議會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ補償金ノ算定ニ關スル事項ノ調査ニ從事ス

第七條 軍需評議會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 軍需評議會ハ必要アリト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第九條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外軍需評議會ニ關シ必要ナル事項ハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍需工業動員法ヲ朝鮮台灣及樺太ニ施行スル件

(大正七年十月二日 勅令第三百六十八號)

軍需工業動員法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東洲ニ於ケル軍需工業動員ニ關スル件

(大正七年十月二日 勅令第三百六十九號)

沿革 昭和十二年十二月勅令第六八五號改正

關東洲ニ於ケル軍需工業動員ニ關シテハ軍需工業動員法ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



## 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律

(昭和十二年九月九日 法律第九十二號)

- 第一條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得
- 一、命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限ヲ爲スコト
  - 二、當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト
- 第三條 政府ハ第一條ノ制限若ハ禁止又ハ前條ノ命令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得
- 第五條 第二條ノ規定ニ依リ命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 第三條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ
- 第七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使臣人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業ニ關シ前條ノ違反行違ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第八條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

## 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法ハ支那事變終了後一年内ニ之ヲ廢止スルモノトス

## 貿易調節及通商擁護ニ關スル件

(昭和九年四月七日 法律第四十五號)

沿革 昭和十一年五月法律第一號改正

- 第一條 政府ハ外國ノ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ關稅定率法別表輸入稅ノ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ輸入稅ヲ課シ若ハ輸入稅ヲ減免シ又ハ輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得
- 第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價格ノ三倍カ七千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價格ノ三倍以下トス
- 前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ



第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付キ亦同ジ

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年勅令第十七號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）本法ハ施行後六年間ヲ限り其ノ効力ヲ有ス前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

### 貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律

（昭和十二年八月十三日 法律第七十三號）

第一條 政府ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ定ムル所ニヨリ貿易審議會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一、貿易ニ關スル條約又ハ之ニ準ズベキモノニヨリ貿易ヲ調節セントスルトキ

二、國際收支ノ適合ヲ圖リ又ハ特定國トノ輸出及輸入ノ均衡ヲ圖ル爲メ貿易ヲ調節セントスルトキ

三、貿易業者ノ不當ナル競争ニ因リ輸出品又ハ輸入品ノ海外市場ニ於ケル價格ノ著シキ低落又ハ騰貴其ノ他貿易上ノ弊害ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ヲ矯正シ又ハ豫防セントスルトキ

四、國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ重要物資ノ供給ヲ適正ナラシメントスルトキ

第二條 政府ハ前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ヲシテ輸出品又ハ輸入品ニ付統制ヲ行ハシムル必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ統制ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査

審議セシムルコトヲ得

第三條 政府ハ輸出品又ハ輸入品ニ關スル統制ニ付輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ共同ノ利益ヲ調整スル爲メ必要アリト認ムルトキハ統制協議會ヲシテ其ノ調整ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第四條 政府ハ前二條ノ場合ニ於テ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ貿易審議會ノ議ヲ經テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ニ對シ統制協議會ノ議決シタル事項ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ定ムルモノノ外貿易審議會及統制協議會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ヲ定ムル所ニヨリ第一條ノ規定ニヨリテ爲ス制限若ハ禁止、第二條ノ統制又ハ第三條ノ利害調整ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第八條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰並ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第九條 第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰並ニ處ス

第十條 第七條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ九百圓以下ノ罰並ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル業ヲ營ム者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ



他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ従業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限り其ノ効力ヲ有ス前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

## 昭和十二年法律第九十二號ヲ朝鮮台灣及 樺太ニ施行スルノ件

(昭和十二年九月二十一日 勅令第五百十五號)

昭和十二年法律第九十二號ハ朝鮮、台灣及樺太ニ之ヲ施行ス

### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

「参照」昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

## 南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル 臨時措置ニ關スル件

(昭和十二年九月二十一日 勅令第五百十六號)

南洋群島ニ於ケル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關シテハ昭和十二年法律第九十二號ニ依ル

### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 臨時輸出入許可規則

(昭和十二年十月十一日 商工省令第二十二號)

第一條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ本則ノ別表甲號ニ掲グルモノハ郵便物又ハ原價百圓ヲ超エザルモノヲ除クノ外商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ昭和十一年勅令第四百七十四號第一條ノ適用アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ本則ノ別表乙號ニ掲グルモノハ商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸入スルコトヲ得ズ

第三條 前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸入ニ付テハ之ヲ適用セズ

#### 一、御料品

二、本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並ニ其ノ從者ニ屬スル物品

三、本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準ズベキ使節、大使隨着ハ公使官ノ館員又ハ領事ニ屬スル日用品及在本邦外

國大使館、公使館又ハ領事館ニ屬スル公用品

四、官廳ノ輸入ニ係ル物品



五、本邦ヨリ輸出シタル物品ニシテ返送セラレタルモノ

六、手荷物又ハ引越荷物

七、修繕ノ爲輸入スル物品

八、見本若ハ客附品トシテ又ハ博覽會ニ出品スル爲輸入スル物品

九、本則ノ別表乙號ニ掲グル物品ニシテ販賣以外ノ目的ヲ以テ輸入シ且其ノ原價五十圓ヲ超エザルモノ

第四條 關稅定率別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ本則ノ別表丙號ニ掲グルモノハ郵便物又ハ原價百圓ヲ超エザルモノヲ除クノ外商

工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

第五條 第一條又ハ第二條ノ許可ヲ受ケタル者ハ商工大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ物品ヲ輸入スベシ

商工大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトアルベシ

第一條又ハ第二條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ期間内ニ其ノ物品ヲ輸入セザルトキハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第六條 第一條又ハ第二條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸入許可申請書正副二通ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一、品名

二、數量及豫想價額(種類別ニ記載スベシ)

三、産出地又ハ製造地

四、積出港

五、輸入港

六、輸入時期

前項ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケントスル者、他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナルトキハ輸入許可申請書ニ前項各號ニ掲グル事項ノ外委託者ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所ヲ記載シ且委託アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第七條 第四條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書正副二通及注文アリタルコトヲ證スル書面ヲ商

工大臣ニ提出スベシ

一、品名

二、數量及價格(種類別ニ記載スベシ)

三、賣渡先ノ氏名又ハ名稱及事務所又ハ營業所

四、仕向地

五、仕向港

六、輸出港

七、輸出時期

第八條 第一條又ハ第二條ノ許可ヲ受ケタル者第六條第一項第四號乃至第六號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ第四條ノ許可ヲ受ケタル者前條第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第九條 第一條又ハ第二條ノ許可ヲ受ケタル者他人ヨリ委託ヲ受ケ輸入セントスルモノナル場合ニ於テ其ノ委託契約消滅シ又ハ委託數額減少シタルトキハ委託者ト連署ノ上七日以内ニ之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第十條 第一條、第二條又ハ第四條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ物品ノ輸入又ハ輸出ヲ爲ス場合ニ於テ商工大臣ノ交付スル輸入許可書又ハ輸出許可書ヲ當該稅關ニ提出スベシ

第十一條 第一條、第二條又ハ第四條ノ許可ヲ受ケタル者輸入又ハ輸出ヲ爲シタルトキハ七日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

一、輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル物品ノ品名及數量並ニ許可ノ年月日

二、輸入又ハ輸出ヲ爲シタル物品ノ品名、數量及價額

三、輸入ヲ爲シタル物品ノ産出地又ハ製造地及積出港

四、輸入港又ハ輸出港



五、輸入又ハ輸出ノ年月日

### 附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ本邦ニ同ケ輸送ノ途ニ在ル物品ニ付テハ本則ヲ適用セズ

### 暴利ヲ目的トスル物品ノ賣買ノ取締ニ關スル件改正

(昭和十二年八月三日 商工省令第十號)

第一條 暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占若ハ賣借ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ商工大臣又ハ地方長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同

一、物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

一、金屬及其ノ原料

二、黒鉛、硼砂、石棉及雲母

三、機械器具及其ノ部分品

四、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品

五、電線及電柱

六、電極

七、研磨材料

八、耐火煉瓦

九、硝子

十、石油及其ノ容器

十一、石炭、コークス及木炭

十二、棉花、羊毛、麻及ステールファイバー

十三、絲(生絲ヲ除ク)及織物

十四、被服

十五、紙類

十六、染料、顔料及塗料

十七、工業藥品

十八、醫藥其ノ他ノ衛生材料

十九、油脂

二十、肥料及飼料

二十一、生ゴム及ゴム製品

二十二、バルブ

二十三、皮革及其ノ製品

二十四、麥及小麥粉

二十五、砂糖

二十六、建築材料

第二條 商工大臣又ハ地方長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ニ掲グル物品中木炭、肥料、飼料、麥及建築材料タル木材ニ付商工業者及其ノ團體以外ノ者ニ對シ前二條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ同條中商工大臣トアルハ商工大臣及農林大臣トス



第四條 第一條ノ戒告ニ違反シテ賣占、賣惜若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰並ニ處ス

第二條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第五條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰並刑ヲ科ス

### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 昭和十二年商工省令第十號中改正

(昭和十二年十月二十六日 商工省令第二十六號)

第一條第一號、第二號、第十一號乃至第十三號、第十五號、第十九號、第二十五號及第二十六號ヲ左ノ如ク改ム

一、金屬及其ノ原料並ニ金屬製品

二、黒鉛、硼砂及雲母並ニ石棉及其ノ製品

十一、石炭、コークス、煉炭及木炭

十二、棉花、麻、ステールファイバー及羊毛其ノ他ノ獸毛

十三、絲(生絲ヲ除ク)並ニ布帛(フェルト及編物ヲ含ム)及其ノ製品

十五、紙及其ノ製品

十九、油脂及其ノ制品並ニ調製薰香類

二十五、砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、コーヒー其ノ他ノ穀物以外ノ飲食料品

二十六、セメント、瓦、砂及砂利

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

二十七、木材

第三條中「及建築材料タル木材」ヲ「木材及農畜水産物タル飲食料品」ニ改ム

### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和十二年八月三日商工省令第十號禁利ヲ目的トスル物品ノ賣買取締ニ關スル件抄録

第一條 禁利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ禁利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ商工大臣又ハ地方長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同

一物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

一、金屬及其ノ原料

二、黒鉛、硼砂、石棉及雲母

十一、石炭、コークス及木炭

十二、棉花、羊毛、麻及ステールファイバー

十三、絲(生絲ヲ除ク)及織物

十五、紙類

十九、油脂

二十五、砂糖

二十六、建築材料



第二條 商工大臣又ハ地方長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ニ掲グル物品中木炭、肥料、飼料、麥及雜穀材料タル木材ニ付商工業者及其ノ團體以外ノ者ニ對シ前二條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ同條中商工大臣トアルハ商工大臣及農林大臣トス

### 昭和十二年朝鮮總督府令第六十號（暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件）改正

（昭和十二年八月三日 朝鮮總督府令第九十八號）

第一條 左ニ掲グル物品ヲ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ賣占若ハ賣借ヲ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ販賣シ若ハ販賣セントスル者アルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ其ノ者ニ對シ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ當該物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得

- 一、金屬及其ノ原料
- 二、黑鉛、硼砂、石棉及雲母
- 三、機械器具及其ノ部分品
- 四、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
- 五、電線及電柱
- 六、電極
- 七、研磨材料
- 八、耐火煉瓦
- 九、硝子

十、石油及其ノ容器

十一、石炭、コークス及木炭

十二、棉花、羊毛、麻及ステープルファイバ

十三、絲（生絲ヲ除ク）及織物

十四、被服

十五、紙類

十六、染料、顔料及塗料

十七、工業藥品

十八、醫藥其ノ他ノ衛生材料

十九、油脂

二十、肥料及飼料

二十一、生ゴム及ゴム製品

二十二、パルプ

二十三、皮革及其ノ製品

二十四、穀物及穀粉

二十五、砂糖

二十六、建築材料

第二條 朝鮮總督又ハ道知事ハ前條ニ掲グル物品ノ取引業者、倉庫業者、所有者其ノ他占有者ニ對シ同條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告若ハ實地申告ヲ命ジ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ノ戒告ニ違反シテ賣占、賣借若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ



罰金ニ處ス

第四條 第二條ノ命令ニ違反シテ報告若ハ實地申告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第五條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金又ハ科料ノ刑ヲ科ス

### 附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 昭和十二年朝鮮總督府令第六十號（暴利ヲ

## 目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件中改正

（昭和十二年十月三十日 朝鮮總督府令第六十三號）

第一條第一號、第二號、第十一號乃至第十三號、第十五號、第十九號、第二十五號及第二十六號ヲ左ノ如ク改ム

一、金屬及其ノ原料並ニ金屬製品

二、黒鉛、硼砂、及雲母並ニ石棉及其ノ製品

十一、石炭、コークス、煉炭及木炭

十二、棉花、麻、スナールフアイバー及羊毛其ノ他ノ獸毛

十三、絲（生絲ヲ除ク）並ニ布帛（フェルト及編物ヲ含ム）及其ノ製品

十五、紙及其ノ製品

十九、油脂及其ノ製品並ニ調製薰香類

二十五、砂糖、鳥獸肉、鳥卵、バター、紅茶、コーヒー其ノ他ノ飲食品

二十六、セメント、瓦、砂及砂利

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

二十七、木材

### 附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

（昭和十二年八月三日 台灣總督府令第六十五號）

第一條 暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占若ハ賣借ミヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ台灣總督ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ買買ニ付條件ヲ附スルコト得

一、金屬及其ノ原料

二、黒鉛、硼砂、石棉及雲母

三、機械器具及其ノ部分品

四、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品

五、電線及電柱

六、電極

七、研磨材料

八、耐火煉瓦

九、硝子

十、石油及其ノ容器



- 十一、石炭、コークス及木炭
  - 十二、綿花、羊毛、麻及ステープルファイバー
  - 十三、絲（生絲ヲ除ク）及蠶物
  - 十四、被服
  - 十五、紙類
  - 十六、染料、顔料及塗料
  - 十七、工業藥品
  - 十八、醫藥其ノ他ノ衛生材料
  - 十九、油脂
  - 二十、肥料及飼料
  - 二十一、生ゴム及ゴム製品
  - 二十二、バルブ
  - 二十三、皮革及其ノ製品
  - 二十四、麥及小麥粉
  - 二十五、砂糖
  - 二十六、建築材料
- 第二條 台灣總督ハ前條ノ感分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ
- 第三條 第一條ノ戒告ニ違反シテ買占、賣惜ミ若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

（昭和十二年八月三日 樺太廳令第四十四號）

- 第一條 暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスル者ト認ムルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得
- 一、金屬及其ノ原料
  - 二、黒鉛、硼砂、石棉及雲母
  - 三、機械器具及其ノ部分品
  - 四、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品
  - 五、電線及電柱
  - 六、電極
  - 七、研磨材料
  - 八、耐火煉瓦



- 九、硝子
  - 十、石油及其ノ容器
  - 十一、石炭、コークス及木炭
  - 十二、棉花、羊毛、麻及ステール、ブルー、アイバー
  - 十三、絲（生絲ヲ除ク）及織物
  - 十四、被服
  - 十五、紙類
  - 十六、染料、顔料及塗料
  - 十七、工業藥品
  - 十八、醫藥其ノ他ノ衛生材料
  - 十九、油脂
  - 二十、肥料及飼料
  - 二十一、生ゴム及ゴム製品
  - 二十二、バルブ
  - 二十三、皮革及其ノ製品
  - 二十四、麥及小麥粉
  - 二十五、砂糖
  - 二十六、建築材料
- 第二條 樺太廳長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ノ戒告ニ違反シテ買占、賣惜若クハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 暴 利 取 締 規 則

（昭和十二年八月三日 關東局令第七十六號）

第一條 左ニ掲グル物品ニ付急激ナル市價ノ變動ヲ誘起シ因テ暴利ヲ得ルノ手段トシテ之ガ買占、賣惜ヲ爲シ若ハ爲サントシタル者又ハ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ不當ノ對價若ハ條件ニ依リ之ガ販賣ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ拘留、科料ニ處ス

- 一、米、小麥、小麥粉、燕麥、高粱、包米及粟
- 二、飲食料品
- 三、飼料
- 四、蓖麻子
- 五、綿絲及綿布
- 六、牧畜



七、被服、履具類及其ノ材料

八、麻製品

九、皮革及皮革製品

十、紙

十一、藥品其ノ他ノ衛生材料

十二、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品

暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ不富ノ對價若ハ條件ニ依リ家屋、屋室、車馬其ノ他ノ運搬用具ヲ賃貸シ又ハ勞務ヲ提供シタル者亦前項ニ同シ

第二條 警察署長暴利取締上必要アリト認ムルトキハ前條第一項ニ掲グル物品ノ取扱者又ハ家屋、屋室、車馬其ノ他ノ運搬用具ノ賃貸者若ハ勞務提供者ニ對シ賣買價格、賣買數量、貯藏量、賃貸價格、勞賃等ニ關スル報告書ヲ提出セシメ又ハ警察官吏ヲシテ其ノ者ノ住所、營業所、店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ノ臨檢、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査又ハ關係者ノ尋問ヲ爲サシメ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ、検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ答ヘズ若ハ虛偽ノ答辭ヲ爲シタル者又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第四條 第一條第一項ニ掲グル物品ノ取扱者又ハ家屋、屋室、車馬其ノ他ノ運搬用具ノ賃貸者若ハ勞務提供者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指押ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第五條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ役員ニ、未成年者又ハ禁治者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

## 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年關東廳令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 昭和七年十月關東廳令第三十二號ハ暴利取締ニ關スル件ナリ

## 南洋群島暴利取締規則

(昭和十二年八月三日 南洋廳令第十號)

第一條 暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ左ニ掲グル物品ノ買占若ハ買借ヲ爲シ若ハ爲サントシ又ハ暴利ヲ得テ左ニ掲グル物品ヲ販賣シ若ハ販賣セントスルモノト認ムルトキハ南洋廳長官ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スベカラザル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ買買ニ付條件ヲ附スルコトアルベシ

一、金屬及其ノ原料

二、黑鉛、硼砂、石棉及雲母

三、機械器具及其ノ部分品

四、自動車其ノ他ノ車輛及其ノ部分品

五、電線及電柱

六、電極

七、研磨材料

八、耐火煉瓦

九、硝子

十、石油及其ノ容器



- 十一、石炭、コークス及木炭
  - 十二、棉花、羊毛、麻及ステープルファイバ
  - 十三、絲(牛絲ヲ除ク)及織物
  - 十四、被服
  - 十五、紙類
  - 十六、染料、顔料及鹽料
  - 十七、工業藥品
  - 十八、醫藥其ノ他ノ衛生材料
  - 十九、油脂
  - 二十、肥料及飼料
  - 二十一、生ゴム及ゴム製品
  - 二十二、バルブ
  - 二十三、皮革及其ノ製品
  - 二十四、麥及小麥
  - 二十五、砂糖
  - 二十六、建築材料
- 第二條 南洋廳長官ハ前條ノ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ前條ニ掲グル物品ノ販賣業者ニ對シ其ノ販賣價格ノ表示ヲ命ズルコトアルベシ
- 第三條 第一條ノ戒告ニ違反シテ買占、賣惜若ハ販賣ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ命令ニ違反シテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ販賣價格ノ表示ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ表示ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰並刑ヲ科ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 重要産業ノ統制ニ關スル件

(昭和六年四月一日 法律第四十號)

沿革 昭和十一年五月法律第二十五號改正

第一條 重要ナル産業ヲ營ム者生産又ハ販賣ニ關シ命令ノ定ムル統制協定ヲ爲シタル場合ニ於テ加盟者ノ員數カ同業者ノ二分ノ一以上ナルトキ又ハ加盟者ノ生産高若ハ販賣高カ同業者ノ生産高若ハ販賣高ノ二分ノ一以上ナルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ政府ニ届出ツベシ之ヲ變更廢止シタルトキ亦同ジ

前項ノ産業ノ種類ハ統制委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ指定ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル産業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル事項ヲ政府ニ届出ツベシ

第二條 政府前條ノ統制協定ノ加盟者三分ノ二以上ニシテ其ノ生産高又ハ販賣高ガ加盟者ノ生産高又ハ販賣高ノ三分ノ二以上ヲ占ムルモノノ申請アリタル場合ニ於テ當該産業ノ公正ナル利益ヲ保護シ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ當該統制協定ノ加盟者又ハ其ノ協定ニ加盟セザル同業者ニ對シテ其ノ協定ノ全部又ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條ノ二 政府生産制限又ハ操業短縮ニ關スル協定ニ付前條ノ命令ヲ發シタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ統制委員會ノ



譲ヲ經テ其ノ命令ノ効力ヲ有スル期間ヲ限り當該産業ニ於ケル企業ノ新設又ハ生産設備ノ擴張ニ付命令ヲ以テ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二條ノ三 第一條ノ統制協定ノ加盟者ノ爲其ノ統制協定ニ依ル共同販賣ニ關スル事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル事項ヲ政府ニ届出ツベシ

第二條ノ四 重要ナル産業ヲ營ム者ニシテ其ノ生産高又ハ販賣高カ當該産業ニ於ケル生産高又ハ販賣高ノ二分ノ一以上ヲ占ムルモノハ命令ノ定ムル事項ヲ政府ニ届出ツベシ

前項ノ産業ノ種類ハ統制委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ指定ス

第三條 政府第一條ノ統制協定又ハ前二條ノ規定ニ該當スル者ノ生産若ハ販賣ノ數量、販賣價格若ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件ガ商品ノ圓滑ナル供給ヲ妨ゲ又ハ不富ニ價格ヲ騰貴セシメ若ハ價格ノ低落ヲ阻止シ其ノ他當該産業若ハ之ト密接ナル關係ヲ有スル産業又ハ一般消費者ノ公正ナル利益ヲ害スト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ其ノ變更又ハ取消其ノ他公益上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一條ノ統制協定ノ加盟者若ハ統制協定ニ加盟セザル同業者又ハ第二條ノ三若ハ第二條ノ四ノ規定ニ該當スル者ニ對シ業務ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本法ニ定ムルモノノ外統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第一條第一項、第二條ノ三又ハ第二條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シ當該統制協定ニ依ラサル者

二、第二條ノ二ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シ許可ヲ受ケシテ企業ノ新設又ハ生産設備ノ擴張ヲ爲シタル者

三、第三條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ從ハサル者

第八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第一條ノ重要ナル産業ヲ營ミ若ハ營マントスル者又ハ第二條ノ三若ハ第二條ノ四ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人、其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 第七條ノ規定ニ依リ第一條ノ重要ナル産業ヲ營ミ若ハ營マントスル者又ハ第二條ノ三若ハ第二條ノ四ノ規定ニ該當スル者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年八月勅令第二百八號ヲ以テ同年同月十一日ヨリ施行）

本法ハ施行後十年間ヲ限り其ノ効力ヲ有ス前項ノ期間内ニ爲サレタル本法又ハ本法ニ基キテ爲ス處分ニ違反スル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

附則（昭和十一年法律第二十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十一年七月勅令第四百九十九號ヲ以テ同年同月五日ヨリ施行）

### 重要産業ノ統制ニ關スル法律施行ニ關スル件

（昭和六年八月十日 商工、農林、郵便省令）

沿革 昭和八年三月同令 十一年七月同令 十二年三月第一號改正

第一條 昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依リ届出ツヘキ統制協定左ノ如シ



- 一、生産制限又ハ操業短縮ニ關スル協定
  - 二、生産分野ニ關スル協定
  - 三、注文割當ニ關スル協定
  - 四、販賣價格其ノ他之ニ影響ヲ及スヘキ取引條件ニ關スル協定
  - 五、販賣ニ關スル協定
  - 六、取引先ノ制限ニ關スル協定
  - 七、販賣數量ニ關スル協定
  - 八、共同販賣ニ關スル協定
- 第二條 昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ産業ノ種類、協定事項及統制ノ組織ヲ記載シタル書面ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 第三條 昭和六年法律第四十號第一條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ統制協定成立ノ日若ハ同條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ變更廢止シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ爲スヘシ
- 第四條 昭和六年法律第四十號第一條第三項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ掲クル書面ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 一、氏名又ハ名稱、營業所及工場ノ位置並ニ生産ノ設備及能力ヲ記載シタル書面
  - 二、毎月ノ生産高、毎月ノ販賣高（數量及價格）及毎月末ノ在庫高ヲ記載シタル書面
  - 三、財産目録、貸借対照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面
- 前項第一號ノ書面ハ昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ營業開始ノ日ヨリ三週間以内ニ、第二號ノ書面ハ翌月二十日迄ニ第三號ノ書面ハ毎事業年度經過後遲滞ナク之ヲ提出スヘシ
- 第一項第一號ノ書面ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツヘシ營業ヲ休止又ハ廢止シタルトキ亦同シ

- 第五條 昭和六年法律第四十號第二條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其ノ事由ヲ詳記シ連署ノ上之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ産業ノ種類ガ内地及朝鮮ニ於ケルモノナルトキハ前項ノ申請書ニハ朝鮮ニ於テ申請ヲ爲サントスル者ノ署名アルコトヲ要ス
- 第六條 昭和六年法律第四十號第二條ノ三ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ掲クル書面ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 一、氏名又ハ名稱及營業所ノ位置ヲ記載シタル書面
  - 二、會社ニ在リテハ定款
  - 三、當該統制協定ノ加盟者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面
  - 四、販賣數量、販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件、其ノ他販賣上ノ重要事項ニ關スル決定ヲ記載シタル書面（自ラ販賣ヲ爲サザルモノニ付テハ加盟者ノ爲ニ爲シタル決定ヲ記載シタル書面）
  - 五、毎月ノ買入高（數量及價格）販賣高（數量及價格）及毎月末ノ在庫高ヲ記載シタル書面（自ラ販賣ヲ爲サザルモノニ付テハ取扱ニ係ル數量及價格ヲ記載シタル書面）
  - 六、財産目録、貸借対照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面
- 前項第一號乃至第三號ノ書面ハ昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ營業開始ノ日ヨリ三週間内ニ、第四號ノ書面ハ同法同條同項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ當該事項ニ關スル決定ヲ爲シタル日ヨリ三週間内ニ、第五號ノ書面ハ翌月二十日迄ニ、第六號ノ書面ハ毎事業年度經過後遲滞ナク之ヲ提出スベシ
- 第一項第一號乃至第三號ノ書面ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツベシ營業ヲ休止又ハ廢止シタルトキ亦同シ
- 第一項第四號ノ決定ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ變更廢止シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツベシ
- 第七條 昭和六年法律第四十號第二條ノ四第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ左ニ掲クル書面ヲ主務大臣ニ提出スベシ
- 一、氏名又ハ名稱、營業所及工場ノ位置並ニ生産ノ設備及能力ヲ記載シタル書面
  - 二、會社ニ在リテハ定款



三、生産又ハ販賣ノ數、販賣價格又ハ之ニ影響ヲ及ボスベキ取引條件其ノ他生産又ハ販賣上ノ重要事項ニ關ル決定ヲ記載シタル書面

四、毎月ノ生産高、販賣高（數量及價格）及毎月末ノ在庫高ヲ記載シタル書面  
五、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面

前項第一號及第二號ノ書面ハ昭和六年法律第四十號第二條ノ四第二項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ營業開始ノ日ヨリ三週間内ニ、第三號ノ書面ハ同法同條同項ノ規定ニ依ル指定ノ日又ハ當該事項ニ關スル決定ヲ爲シタル日ヨリ三週間内ニ、第四號ノ書面ハ翌月二十日迄ニ、第五號ノ書面ハ每事業年度經過後遲滞ナク之ヲ提出スベシ

第一項第一號及第二號ノ書面ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ變更シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ營業ヲ休止又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

第一項第三號ノ決定ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ變更シタル日ヨリ三週間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ

第八條 昭和六年法律第四十號及本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テ産業ノ種類ガ内地及朝鮮ニ於ケルモノナルトキハ提出書類ニ副本一通ヲ添付スベシ

第九條 昭和六年法律第四十號第一項、第二條及第二條ノ四第一項ノ生産高又ハ販賣高ハ過去三年間ノ實績ニ依ル前項ニ依ルコト能ハサル場合又ハ前項ニ依ルコト適當ナラスト認メタル場合ニ於テハ生産能力其ノ他ノ事情ヲ考慮シテ主務大臣之ヲ決定ス

第十條 昭和六年法律第四十號第四條ノ行政官廳ハ商工大臣所管ノ産業ニ在リテハ商工大臣及地方長官又ハ鑛山監督局長、農林大臣所管ノ産業ニ在リテハ農林大臣及地方長官、逓信大臣所管ノ産業ニ在リテハ逓信大臣及逓信局長トス

第十一條 本令中主務大臣トアルハ商工大臣所管ノ産業ニ在リテハ商工大臣、農林大臣所管ノ産業ニ在リテハ農林大臣、逓信大臣所管ノ産業ニ在リテハ逓信大臣トス

附 則

本令ハ昭和六年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

（昭和十一年商工、農林、逓信省令）

本令ハ昭和十一年法律第二十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十一年七月五日ヨリ施行）

第六條第二項ニ規定スル同條第一項第一號乃至第四號ノ書面ノ提出期間ハ本令施行ノ際昭和六年法律第四十號第二條ノ三ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ三週間トス

統 制 委 員 會 官 制

（昭和六年八月十日 勅令第二百九號）

沿革 昭和十一年七月改正

第一條 統制委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ昭和六年法律第四十號第一條第二項、第二條、第二條ノ二、第二條ノ四第二項及ビ第三條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外關係各大臣ノ諮問ニ應ジ重要産業ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス  
委員會ハ重要産業ノ統制ニ關スル事項ニ付キ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人委員二十五人以内ヲ以テ組織ス

前項規定ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

一、關係各廳高等官



一、學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命セラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奉請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

### 附 則

本令ハ昭和十一年法律第二十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ委員タル者ニシテ學識經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタルモノノ任期ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

## 統制委員會議事規則

(昭和六年九月八日決定)

第一條 會議ノ日時及場所ハ會長之ヲ定ム

第二條 會長ハ會議ノ議長トナリ議事ヲ整理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員臨時議長ヲ代理ス

第三條 會議ハ委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス但シ豫メ特ニ議決ヲ經タル場合又ハ緊急ノ決議ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 會議ハ之ヲ秘密トス但シ差支ナシト認ムル事項ニ付テハ會長之ヲ公表スルコトアルベシ

第五條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クベシ

第六條 議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七條 委員ハ二名以上ノ同意ヲ以テ建議案ヲ提出スルコトヲ得

第八條 關係官吏ハ會議ニ出席シ意見ヲ述べ説明ヲ爲スコトヲ得

第九條 會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ會議ニ於テ議決シタルトキハ委員ニアラサル者ノ出席ヲ求め其ノ説明又ハ意見ヲ聽クコトヲ得

第十條 會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ會議ニ於テ議決シタルトキハ特別委員ヲ設クルコトヲ得

特別委員ハ會議ノ決スル所ニ依リ會長ノ指名又ハ委員ノ互選ヲ以テ特別委員長ヲ置ク

特別委員長ハ特別委員會ノ會議ノ結果ヲ本會ニ報告スベシ

本會ニ關スル規定ハ特別委員會ニ之ヲ準用ス

第十一條 議事録ハ幹事之ヲ作成ス

第十二條 本則ニ明文ナキ事項ハ會長之ヲ定ム

## 重要産業ノ統制ニ關スル法律第一條

### 第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類指定

(昭和六年十二月五日 商工省告示第六十四號)

沿革 昭和十二年五月商工省告示第五三號改正

昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類左ノ通指定ス

綿絲紡績業



絹絲紡績業

人造絹絲製造業

洋紙（印刷用紙、筆記用紙、圖畫用紙、模造紙及新聞用紙）製造業

板紙（五オンス以上ノモノ）製造業

カーバイド製造業

晒粉製造業

硫酸製造業

酸素製造業

硬化油製造業

小麥粉製造業（日産能力五百バール以上ノモノ）

銑鐵製造業（高燈ヲ以テ常時月額三千通以上ノ生産ヲ爲スモノ）

合金鐵製造業

棒鋼製造業（自製鋼塊ヲ用キテ常時月額百通以上ノ生産ヲ爲スモノ）

山形鋼製造業（常時月額百通以上ノ生産ヲ爲スモノ）

鋼板製造業（常時月額百通以上ノ生産ヲ爲スモノ）

線材製造業

銅又ハ真鍮ノ壓延板（「セバ」又ハ「ノベ」ト稱スルモノヲ除ク）製造業

（昭和七年十一月四日 商工省告示第四十九號）

昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類左ノ通指定ス

二硫化炭素製造業

糖精製造業 揮發油製造業又ハ揮發油販賣業（常時月額十萬圓以上ノ製造又ハ販賣ヲ爲スモノ）

（昭和九年五月十五日 商工省告示第二十四號）

昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類左ノ通指定ス

麥酒釀造業

石炭鑛業又ハ石炭販賣業（常時年額十五萬通以上ノ生産又ハ販賣ヲ爲スモノ）

（昭和十一年十一月二十日 商工省告示第九十三號）

昭和六年法律第四十號第二條ノ四第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類左ノ通指定ス

洋紙（印刷用紙、筆記用紙、圖畫用紙、模造紙及新聞用紙）製造業

麥酒釀造業

（昭和十二年五月二十四日 商工省告示第五十號）

昭和六年法律第四十號第一條第二項ノ規定ニ依ル産業ノ種類左ノ通指定ス

内地及有鮮ニ於ケルセメント製造業

### 關東州重要産業統制令

（昭和十二年八月二十六日 勅令第四百六十號）

第一條 本令ハ關東州ニ於ケル重要ナル産業ヲ統制シ以テ其ノ健全ナル發達ヲ圖リ經濟ノ圓滑ナル伸展ヲ期スルコトヲ目的トス  
第二條 本令ノ適用ヲ受クル重要ナル産業ノ種類ハ左ニ掲グルモノトス

製鋼業

アルミニウム製鍊業

マグネシウム製鍊業



自動車製造業  
 航空機製造業  
 兵器製造業  
 計器製造業  
 絹絲布紡織業  
 麻紡織業  
 毛織物製造業  
 小麥粉製造業  
 植物性油類製造業  
 石油製造業  
 無水アルコール製造業  
 セメント製造業  
 製塩業  
 ソーダ製造業  
 硫酸アンモニア製造業  
 火藥類製造業  
 マツチ製造業  
 煙草製造業

前項ノ重要ナル産業ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ滿洲國駐劄特命全權大使之ヲ定ム

第三條 重要ナル産業ヲ營マントスル者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受クベシ

第四條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受クベシ

- 一、統制協定ノ締結又ハ變更
- 二、生産ノ設備又ハ能力ノ變更
- 三、事業ノ全部又ハ一部ノ讓渡
- 四、法人ノ合併

第五條 重要ナル産業ヲ營ム者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ事業年度毎ニ事業ノ計畫及実績ヲ大使ニ届出ヅベシ事業ノ計畫ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ運帶ナク其ノ旨ヲ大使ニ届出ヅベシ

- 一、統制協定ノ廢止
- 二、事業ノ全部又ハ一部ノ廢止又ハ休止
- 三、法人ノ解散

第七條 大使ハ重要ナル産業ヲ營ム者ニ對シ其ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 大使監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ重要ナル産業ヲ營ム者ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第九條 大使ハ統制上支障ナシト認メタルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ重要ナル産業ヲ營ム者ニ對シ第四條及第五條ノ規定ニ依ル義務ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十條 重要ナル産業ヲ營ム者本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ大使ハ其ノ業務ヲ停止シ制限シ又ハ第三條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 大使ハ本令ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ關東州廳長官ニ委任スルコトヲ得



附 則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム(昭和十二年九月三十日局令第八十九號ヲ以テ同年十月五日ヨリ施行)  
本令施行ノ際現ニ重要ナル産業ヲ營ム者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス  
本令施行ノ際現ニ締結セラレタル統制協定アルトキハ第四條ノ規定ニ拘ラズ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ大使ノ許可ヲ受クベシ

關東州重用産業統制令施行規則

(昭和十二年九月三十日 關東局令第九十號)

- 第一條 關東州重要産業統制令以下重要産業統制令ト稱ス第三條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ滿洲國駐劄特命全權大使ニ提出スベシ
  - 一、氏名及住所、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及住所並ニ營業所及工場ノ位置
  - 二、重要ナル産業ノ種類
  - 三、生産ノ設備、能力及方法
  - 四、生産開始ノ豫定期日
  - 五、工事計畫ノ概要 設計圖添附
  - 六、所要資金ノ總額及其ノ調達方法
  - 七、一年ノ生産見込高並ニ原料及材料ノ使用見込高 種類別數量及價額
  - 八、原料及材料ノ取得方法
  - 九、事業收支ノ概算
- 第二條 重要産業統制令第三條ノ許可ヲ受ケタル者前條第四號ノ豫定期日迄ニ其ノ生産ヲ開始シ得ザルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東州廳

長官ニ顯出デ豫定期日變更ノ許可ヲ受クベシ其ノ變更シタル期日迄ニ生産ヲ開始セザルトキ亦同ジ

- 第三條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ運滯ナク其ノ旨ヲ大使ニ届出ヅベシ
    - 一、第一條第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ
    - 二、法人ヲ設立シタルトキ
    - 三、生産ヲ開始シタルトキ
  - 第四條 重要産業統制令第四條第一號ノ規定ニ依リ大使ノ許可ヲ受クベキ統制協定左ノ如シ
    - 一、生産ニ關スル協定
    - 二、販賣ニ關スル協定
    - 三、原料及材料ノ購買ニ關スル協定
  - 第五條 重要産業統制令第四條第一號ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ産業ノ種類、協定事項及統制ノ組織ヲ記載シ協定文案ヲ添附ノ上之ヲ大使ニ提出スベシ
  - 第六條 重要産業統制令第四條第二號ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲ザントスル者ハ第一條第二號乃至第九號ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ大使ニ提出スベシ
  - 第七條 重要産業統制令第四條第三號ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ施行シタル許可申請書ヲ當事者連署ノ上關東州廳長官ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ
    - 一、讓渡セントスル事業、其ノ生産ノ設備能力
    - 二、事業ノ讓受及經營ニ要スル資金及其ノ調達方法
  - 第八條 重要産業統制令第四條第四號ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲サントスル者ハ合併ニ依リテ新ニ法人ヲ設立セントスル場合ニ於テハ發起人ヨリ、其ノ他ノ場合ニ於テハ合併後存続スベキ法人ノ代表者ヨリ許可申請書ヲ關東州廳長官ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ
- 前項ノ書面ニハ合併契約文案及合併ニ依リテ新ニ法人ヲ設立セントスル場合ニ於テハ定款ヲ、其ノ他ノ場合ニ於テハ定款、貸借對照



表及財産目録ヲ添付スベシ

第九條 重要産業統制令第五條ノ規定ニ依リ事業計畫ノ届出ヲ爲サストスル者ハ生産及販賣ノ見込高並ニ原料及材料ノ購買又ハ使用ノ見込高 種類別數量及價額ヲ記載シタル書面ヲ毎事業年度開始前大使ニ提出スベシ  
前項ノ届出ヲ爲サストスル者法人ナルトキハ重要ナル資金計畫ヲモ併セ記載スベシ  
第一項ノ場合ニ於テ統制協定アル場合ハ其ノ協定ト同項ノ記載事項トノ關係ヲ附記スベシ  
第十條 重要産業統制令第五條ノ規定ニ依リ事業實踐ノ届出ヲ爲サントスル者ハ前條ノ事業計畫ノ實施ノ經過ヲ記載シタル書面、法人ニ在リテハ財産目録、貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添附シ毎事業年度經過後遲滞ナク大使ニ提出スベシ  
第十一條 重要産業統制令第六條第二號ノ規定ニ依リ届出書ニハ廢止シ又ハ休止シタル事業ノ生産ノ設備及能力ヲ記載シ休止ノ場合ニ於テハ休止ノ期間ヲ附記スベシ

第十二條 重要産業統制令第八條ノ職權ヲ行フ當該官吏ニハ別記様式ノ證券ヲ携帯セシム

第十三條 重要ナル産業ヲ營ム者ノ相續人或被相續人ノ事業ヲ承繼セントスルトキハ遲滞ナク相續人タルコトヲ證スル書面ヲ添へ許可申請書ヲ關東州廳長官ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

相續人前項ノ申請書ヲ提出シタルトキハ許否ノ處分アル迄ハ被相續人ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第一項ノ相續人或被相續人ノ事業ヲ承繼セザルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ツベシ

第十四條 重要産業統制令第三條ノ規定ニ依リ設可ヲ受ケズシテ重要ナル産業ヲ營ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一、重要産業統制令第四條ノ規定ニ違反シタル者

二、重要産業統制令第七條ノ規定ニ依リ大使ノ命令ニ違反シタル者

三、重要産業統制令第八條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢及検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

四、第十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ事業ヲ營ミタル者但シ同條第二項ニ該當スル者ヲ除ク

第十六條 重要産業統制令第五條、第六條又ハ本令第十三條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條 重要ナル産業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ重要産業統制令、本令若ハ本令ニ

基キテ設スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁

治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 本令ニ依リ大使ニ提出スベキ書類ハ關東州廳長官ヲ經由スベシ

第二十條 關東州廳長官第二條、第七條、第八條若ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキ又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ届出ヲ受理シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ大使ニ報告スベシ

附 則

本令ハ關東州重要産業統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



<p>第八條 大監督官ニ必要アリト認ムルトキハ該監督官 シテ重要ナル産業ヲ營ム者ノ事務所、營業所、工場、 倉庫其ノ他ノ場所ニ關係シ業務若ハ財産ノ状況又ハ銀 簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合 ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證據ヲ携帯セシムベシ</p> <p>關東州重要産業統制令施行規則 (抄)</p> <p>第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金 又ハ料科ニ處ス</p> <p>一 (省略)</p> <p>二 (省略)</p> <p>三 重要産業統制令第八條ノ規定ニ依ル該監督官ノ強檢 及検査ヲ拒ミ、妨若ハ忌避シ又ハ其ノ範圍ニ對シテ 辯テ爲サズ若ハ證據ノ陳述ヲ爲シタル者</p> <p>四 (省略)</p>	<p>第 號 年 月 日交付</p> <p>關東州重要産業統制令第八條ノ規定ニ依ル 検査官吏之證</p> <p>關東局印</p> <p>官 氏</p> <p>必</p>
---	--

(様式)

重要産業統制令附則第二項ニ該當スル者ハ本項施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第一條第一號乃至第三號及第七號乃至第九號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面、法人ニ在リテハ定款、貸借對照表及財産目錄ヲ添附、ヲ大使ニ提出スベシ

重要産業統制令附則第三項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

### 商業組合法

(昭和七年九月五日 法律第二十五號)

第一條 商業者ハ其ノ商業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ商業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ商業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ商業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 商業組合ハ法人トス

第三條 商業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一、組合員ノ取扱商品ノ仕入、保管、運搬其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

二、組合員ノ營業ニ關スル統制

三、組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲ゲタル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四條 商業組合ハ其ノ名稱中ニ商業組合ナル文字ヲ用フベシ

商業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ商業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 商業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條 商業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條 商業組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ



其ノ規定ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ商業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第九條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ商業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ行政官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條 商業組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有ル者ノ過半数ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ營業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ過半数ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ營業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條 商業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、目的

二、名稱

三、地區

四、事務所ノ所在地

五、組合員タル資格ニ關スル規定

六、組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

七、出資一口ノ全額及其ノ拂込ノ方法

八、剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九、準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

十、組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十一、事業及其ノ執行ニ關スル規定

十二、役員ニ關スル規定

十三、會議ニ關スル規定

十四、會計ニ關スル規定

十五、存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトハ其ノ時期又ハ事由

第十六條 商業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一、前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項

二、事務所

三、出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四、第十九條ノ組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五、設立認可ノ年月日

六、理事及監事ノ氏名住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ



依り事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依リ費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條 商業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第二十條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求書ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十一條 商業組合ニハ理事及幹事ヲ置クヘシ

理事及幹事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及幹事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第一項ノ規定ニ依リ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十二條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシメルコトヲ得

第二十三條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル商業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ結合設立當時ノ經費ノ收入豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 組合員タル資格ヲ有スル者商業組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ商業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 行政官廳必要ト認ムルトキハ商業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 組合、事業若ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、總會ノ決議ノ取消

二、役員又ハ清算人ノ解任

三、組合ノ事業ノ停止

四、組合ノ解散

第二十八條 商業組合聯合會ハ所屬ノ商業組合及商業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ商業組合又ハ商業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ハ法人トス

第二十九條 商業組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス



第十四條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 商業組合聯合會ノ理事及幹事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ幹事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及幹事ハ創立委員又ハ監事ハ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ幹事ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十二條 商業組合ニ關スル規定ハ第三十七條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外商業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第三十三條 設立ノ登記ハ理事及幹事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事及幹事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十四條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及幹事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ナズ

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員トス其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ  
前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

商業組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十六條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第三百二十八條、第三百三十八條ノ三、第四百一十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百四十四條乃至第五百五十八條、第六十五條、第六十七條、第六十九條、第七十五條、第七十六條及第七十八條並ニ産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第二十八條ノ二乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條(第一項第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項、第七十八條、第九十六條第九十七條乃第百四條ノ規定ハ商業組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合法中主務大臣、地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ商業組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一、本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二、本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三、行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四、本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

五、本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六、本法ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ

正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ



- 七、本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ埋戻シタルトキ
- 八、本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
- 九、本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ
- 十、本法ニ違反シテ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第三十七條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ
- 十一、本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 十二、清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
- 十三、法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ
- 十四、組合ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ
- 第三十九條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者八十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス
- 第四十一條 第九條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
商業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ營業ニ關シ前項ノ命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス
- 第四十二條 前條ノ罰則ハ商業者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十三條 商業組合ノ證券若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ検査證ヲ偽造若クハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十四條 商業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第四十五條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰並ニ處ス

前項ノ罰ヲ犯シタル者自自シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十六條 第四十三條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例二、第四十四條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和七年勅令第二百七十二號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法施行ノ際商業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ商業組合ナル文字ヲ用フルモノハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコト要ス

第三十九條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲ケタルモノニ適用セス

登録稅法第十九條第七號中「重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合」ヲ「工業組合、工業組合聯合會、商業組合、商業組合聯合會、輸出組合又ハ輸出組合聯合會」ニ「重要輸出品工業組合法」ヲ「工業組合法、商業組合法」ニ改ム印紙稅法第四條第一項第十一號中「重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合」ヲ「工業組合、工業組合聯合會、商業組合、商業組合聯合會、輸出組合又ハ輸出組合聯合會」ニ改ム

商業組合法施行規則

(昭和七年九月三十日 商工省令第六號)

- 第一條 商業組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タルヘキ者發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ
- 一、地區
- 二、組合員タル資格
- 三、出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法